

ネットワークビデオレコーダー NVR501シリーズ 操作マニュアル

V1.00

本書について	1
1 スタンドアロン操作	2
1.1 開始する前に	2
1.2 スタンドアロン操作	2
2 初期設定	3
2.1 準備	3
2.2 ログイン	3
2.3 ウィザード	5
3 ライブビュー	7
3.1 ライブビューの状態	7
3.2 ウィンドウツールバー	7
3.3 画面のツールバー	9
3.4 ショートカットメニュー	10
4 チャンネルの設定	13
4.1 チャンネルの管理	13
4.2 エンコーディング設定	19
4.3 音声設定	22
4.4 スナップショット	23
4.6 画像の設定	25
4.7 プライバシーマスク	29
5 VCA	36
5.3 スマートプレビュー	66
6 ネットワークの設定	68
6.1 基本設定	68
6.2 プラットフォームの設定	73
6.3 高度な設定	76
7 システム設定	82
7.1 基本設定	82
7.2 プレビューの設定	83
7.3 時刻設定	85
7.5 ユーザーの設定	88
7.6 セキュリティの設定	90
8 バックアップ	93
8.1 録画のバックアップ	93
8.2 画像のバックアップ	96
9 ストレージ	100
9.1 録画スケジュール	100
9.2 スナップショットスケジュール	103
9.3 ハードディスクの管理	103
9.4 容量設定	104
9.5 アドバンスド	106
10 アラームの設定	107
10.1 動体検知	107
10.2 タンパリング	108
10.3 人体検知	109
10.4 ビデオロス	110
10.5 アラーム入出力	110
10.6 システム警告	114
10.7 音声検知	114
10.8 ブザー	116

10.9	人物検出アラーム	116
10.10	ワンキー解除	118
10.11	手動	120
11	システムメンテナンス	121
11.1	システム情報	121
11.2	ネットワーク情報	124
11.3	ログ	128
11.4	システムバックアップ	129
11.5	リストア	131
11.6	自動機能	131
11.7	システムのアップグレード	132
11.9	プライバシーポリシー	137
11.10	オープンソース通知	137
11.11	ワンクリック収集	138
12	再生	139
12.1	インスタント再生	139
12.2	通常再生	139
12.3	スマート再生	142
12.4	コリドー再生	143
12.5	外部ファイル再生	144
12.6	タグ再生	144
12.7	検索ごとの再生	146
12.8	ファイル管理	146
13	シャットダウン	148
14	ブラウザでの操作	149
14.1	準備	149
14.2	ログイン	149
14.3	ライブビュー	150
14.4	再生	152
14.5	設定	153
14.6	スマート	153
15	付録 よくある質問	154

本書について

著作権宣言文

©2022 Zhejiang Uniview Technologies Co., Ltd. 無断複写転載等を禁ず。

Zhejiang Uniview Technologies Co., Ltd（以後「Uniview」または「当社」と称する）からの書面による事前の許可なく、いかなる形式または手段でも、本マニュアルの全体または一部を複写・複製・翻訳・配布することは一切できません。

本書に記載の製品には、Univiewおよびその他のライセンサーが所有する占有ソフトウェアがインストールされていることがあります。Univiewおよびそのライセンサーからの許可なく、ソフトウェアを、いかなる方法でも、複写、配布、要約、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、転送、サブライセンスしてはなりません。

免責事項

製品バージョンのアップグレードや、各地域の規則の遵守などの理由で本書は定期的に更新されます。

本書は情報提供のみを目的としており、本書に記載されている記述、情報、推奨事項はすべて保証なしで提示されています。

本書に記載されている機能は単なる参考に過ぎず、実際のバージョンや機種と異なる可能性があります。本書に掲載のスクリーンショットは、特定の要件やユーザーの好みに応じてカスタマイズされている場合があります。その結果、例や機能の一部が、お使いのモニターの表示内容と異なることがあります。

安全記号

本書には下表の記号が使用されています。危険な状況を回避するため、各記号の指示に従い、製品を正しく使用してください。

記号	説明
 メモ	製品の使用に関する役に立つ情報や追加情報を示しています。
 注意！	回避できなかった場合、データの損失や製品の破損や故障が発生しうる状況を示しています。
 警告！	回避できなかった場合、死亡したり重傷を負いかねない危険な状況を示しています。

1 スタンドアロン操作

この章では、ローカルインターフェイスの操作方法と注意すべき事項を紹介します。

1.1 開始する前に

- NVRのモデルによって機能が異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 本マニュアル内の図は単なる説明の目的で掲載されており、NVRの機種によって異なります。
- ローカルインターフェイスでグレイアウトされているパラメータは変更できません。表示されるパラメータと値は、NVRの機種やバージョンによって異なります。

1.2 スタンドアロン操作

ここでは、マウス操作について紹介します。初期設定を参照するとクイック設定が実行できます。



特に指定されていない限り、本書で説明されている操作は、すべて右手によるマウス操作で実行します。

マウスの操作

Table 1-1: マウスの操作

名前	操作	説明
左ボタン	クリック	• 項目を選択または確定します。 • 選択してフィールドで数字、記号、小文字、大文字を編集します。
	ダブルクリック	ライブビューでシングルウィンドウ/マルチウィンドウを切り替えます。
	ドラッグ	• 画面上でエリアを指定または移動させます。 • マルチウィンドウレイアウトでウィンドウを並び変えます。
右ボタン	クリック	• ショートカットメニューが表示されます。 • デジタルズームが終了します。 • キャンセルまたは終了が表示された場合、現在のウィンドウを閉じることができます。
スクロールホイール	スクロールアップ	• リスト、ウィンドウ、スクロールバーを上スクロールさせます。 • デジタルズームが有効な場合、画面上でズームインします。
	スクロールダウン	• リスト、ウィンドウ、スクロールバーを下スクロールさせます。 • デジタルズームが有効な場合、画面上でズームアウトします。
	長押し	最低解像度に復帰します。

2 初期設定

本章では、NVR の初期設定について説明します。

2.1 準備

少なくとも1台のモニターが、NVRリアパネルのVGAまたはHDMIインターフェイスに接続されていることを確認します。接続されていない場合、ローカルインターフェイスを表示できません。



最初にNVRの電源を入れた後、画像が表示されない場合は、モニターがNVRの現在の出力解像度をサポートしていない場合がございます。

ハードディスクが正しく取り付けられていることを確認します。

2.2 ログイン

デバイスへのログイン

1. NVRが起動するとログインページが表示されます。デフォルトのユーザー名を選択し、パスワード (admin/123456) を入力し、**ログイン**をクリックします。



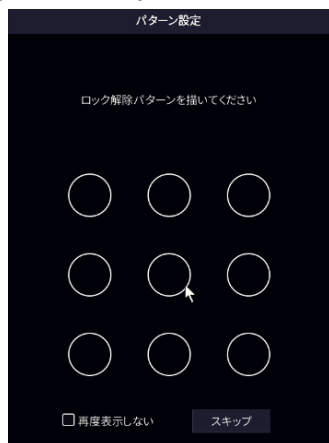
パスワードを覚えやすくにチェックを入れると、次回からユーザー名とパスワードが自動的に入力されます。

2. ポップアップウィンドウの**はい**をクリックすると、強力なパスワードに変更されます。
3. **パスワード変更**ページで、旧パスワード、新パスワードを入力し新パスワードを確定します。**Eメール**をチェックしてEメールアドレスを入力し、**終了**をクリックすることもできます。



- 初回ログイン時は、デフォルトのユーザー名とパスワード(admin/123456)でログインしてください。ログイン後にパスワードを変更し、次回から新しいパスワードでログインしてください。
- セキュリティのため、文字、数字、記号の3つをすべて含めて、9文字以上の強力なパスワードを設定することを強くお勧めします。
- パスワードの再設定が必要な場合に備えて、Eメールアドレスを入力することをお勧めします。また、パスワードを取得する必要がある場合にもEメールアドレスを入力することができます。詳しくはパスワードの再設定をご覧ください。

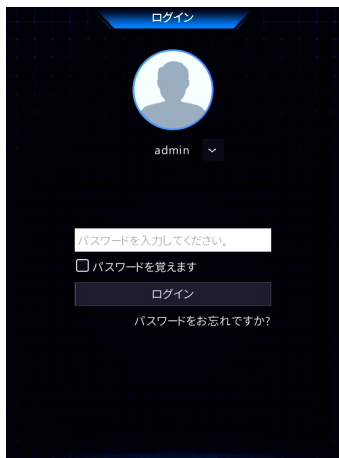
4. (オプション)ロック解除パターンを設定するか、**スキップ**をクリックして続行します。



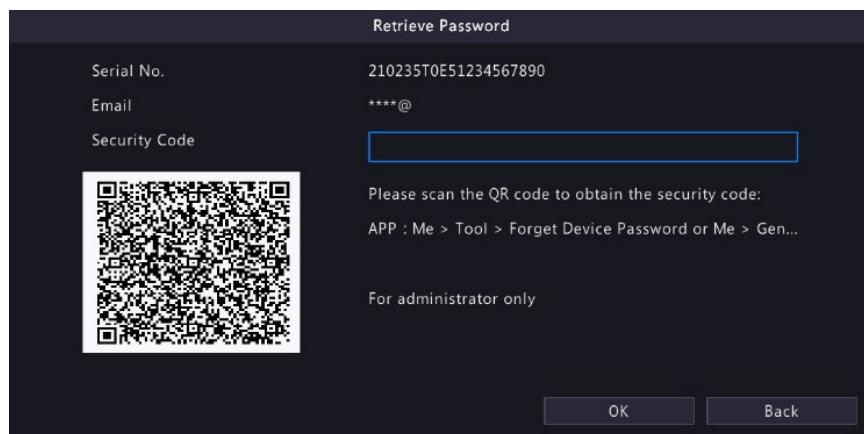
- メニュー>システム>ユーザーで、ロック解除パターンは後から設定や無効化することができます。
- ロック解除パターンを設定すると、ログイン時にパスワードに置き換わります。

パスワードの再設定

1. 管理者パスワードを忘れた場合、またはパスワードを再設定したい場合は、ログインページのパスワードをお忘れですか？をクリックします。



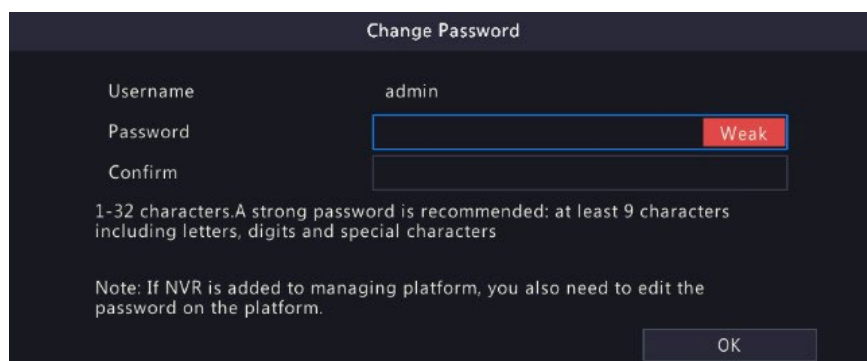
2. (Eメールアドレスが既に入力されている場合は省略) セキュリティコード (仮パスワード) を受け取るために、Eメールアドレスを入力します。
3. 画面の指示に従って、セキュリティコードを取得します。



メモ

アプリは、NVRのモデルによって異なることがあります。

4. Eメールアドレスから受信したセキュリティコードを入力し、**確認**をクリックします。
5. パスワードを入力し、パスワードを確定した後、**確認**をクリックしてパスワードをリセットします。



6. 新しいパスワードで再ログインしてください。

2.3 ウィザード

ログイン後にウィザードページが表示されます。ウィザードに従って最も基本的な設定を行うか、**終了**をクリックしてこのステップを省略します。



メニュー>システム>基本に進み、基本パラメータを設定できます。

コードをスキャンし、画面上の指示に従ってNVRをアプリに追加し、**次へ**または**2**をクリックします。



1. タイムゾーン、日付形式、時刻形式、システム時間などの時間パラメータを設定し、**次へ**をクリックします。



NVRをアプリで使用しない場合は登録の必要はありません。



3. TCP/IPを設定します。作業モードとNICを選択します。**DHCP有効**をクリックして、IPアドレス、サブネットマスク、IPデフォルトゲートウェイを自動的に取得します。
また、手動で情報を入力することもできます。続いて**次へ**をクリックします。



NVRをネットワークに接続して使用しない場合は設定の必要はありません。

ウィザード

1 QRコード
2 時刻
3 TCP/IP

NIC選択 NIC1 ▼

☒ DHCP有効

IPアドレス 192 . 168 . 1 . 30

サブネットマスク 255 . 255 . 255 . 0

デフォルトゲートウェイ 192 . 168 . 1 . 1

PoE NIC IPアドレス 172 . 16 . 0 . 1

前へ
確認
終了

4. IPデバイスを追加します。検出されたデバイスのリストで追加するIPデバイスを選択し、**追加**をクリックします。

Wizard

1 QR Code
2 Time
3 TCP/IP
4 IP Camera

☒ Auto Switch to H.265
☐ Auto Switch to U-Code

Close
Basic
Advanced

Select	IP Address	Status	Qty	Model	Protocol	Port	Manufacturer	Serial No.
☐ 1	206.2.2.5	✓	1	IPC-S362-IR@DP-IR3-M28-F	Uniview	80	UNIVIEW	210235C2H
☐ 2	206.2.2.6		1	IPC-S362-IR@DP-IR3-M28-F	Uniview	80	UNIVIEW	210235C2H
☐ 3	206.2.2.7	✓	1	IPC3613LB-SF28-A1	Uniview	80	UNIVIEW	210235CSS
☐ 4	206.2.2.9	✓	1	IPC-S362-IR@DP-IR3-M28-F	Uniview	80	UNIVIEW	210235C2H
☐ 5	206.2.2.10		1	IPC2122SR3-PF40-C	Uniview	80	UNV	210235C2H

Discovered Device(s):721, Added Device(s):162:

+ Add
 🔍 Search

Previous
OK
Exit



- PoEポートからIPデバイスを追加する方法の詳細については、「オプション6: ケーブルで接続」IPCの追加をご覧ください。
- 追加されたIPデバイスは、パスワードがデフォルトパスワードのままの場合のみ、オンラインになりライブビューを開始することができます。パスワードが変更されている場合は、カメラをオンラインにするために正しいパスワードを入力する必要があります。
- 希望のIPデバイスがデバイスリストにない場合、プレビューウィンドウまたはカメラステータス > カメラステータス > カメラステータスから追加できます。詳しくはチャンネルの管理をご覧ください。

5. **確認**をクリックします。

3 ライブビュー

この章では、ウィンドウツールバー、スクリーンツールバー、ショートカットメニュー、デジタルズーム、シーケンス操作など、ライブビューページについて紹介します。



操作は、NVRのモデルによって異なることがあります。

3.1 ライブビューの状態

ライブビューウィンドウでアラーム、録画状態、音声の状態を示すために、次のアイコンが使用されます。

Table 3-1: ライブビューウィンドウアイコン

アイコン	説明	アイコン	説明
	タンパーアラーム		録画
	動体検知アラーム		双方向音声

3.2 ウィンドウツールバー

ウィンドウをクリックすると、ウィンドウツールバーが表示され、すばやく設定できます。

Table 3-2: ウィンドウツールバー

ボタン	名前	説明
	PTZコントロール	- PTZカメラでのみ使用できます。クリックしてPTZウィンドウを開きます。 - また、PTZの設定は、メニュー>カメラステータス>PTZで行うこともできます。
	魚眼モード	魚眼カメラの取付モードとディスプレイモードを設定します。このボタンは魚眼カメラでのみ表示されます。
	ローカル録画	ウィンドウ上のライブビデオをハードディスクに録画します。 をクリックすると録画が停止します。 メモ 手動録画と同様ローカル録画はスケジュール録画であり、他の録画スケジュールよりも優先順位が高くなります。正常モードでのローカル録画の再生が可能です。
	インスタント再生	クリックすると、過去5分間に録画されたビデオが再生されます。
	デジタルズーム	ウィンドウの関心領域が拡大されます。
	画像の設定	- クリックすると、ウィンドウ内の画像が最適になるように、画像モードやパラメータを設定できます。 - 画像設定の編集は、メニュー>カメラステータス>画像でも行うことができます。
	スナップショットの撮影	クリックするとスナップショットが撮影されます。ウィンドウの枠が白で点滅します。メニュー>バックアップ>画像でスナップショットを閲覧して保存できます。

	OSD	- クリックするとOSDが設定できます。 - また、OSDの設定は、メニュー＞カメラステータス画像表示設定で行うこともできます。
	双方向音声	カメラとの双方向音声を開始します。音量が調整できます。 をクリックすると停止します。  メモ NVRとIPC間の音声入出力(AUDIO IN/OUT)を正しく接続する必要があります。
	音声オン	クリックすると音声が発動します。音量が調整できます。 をクリックすると音声が消えます。  メモ 現在のウィンドウで音声を有効にすると、以前のウィンドウの音声が消えます。
	カメラ情報	ボタンにカーソルを合わせると、現在のウィンドウのビットレートが表示されます。ボタンをクリックすると、カメラ情報が表示されます。

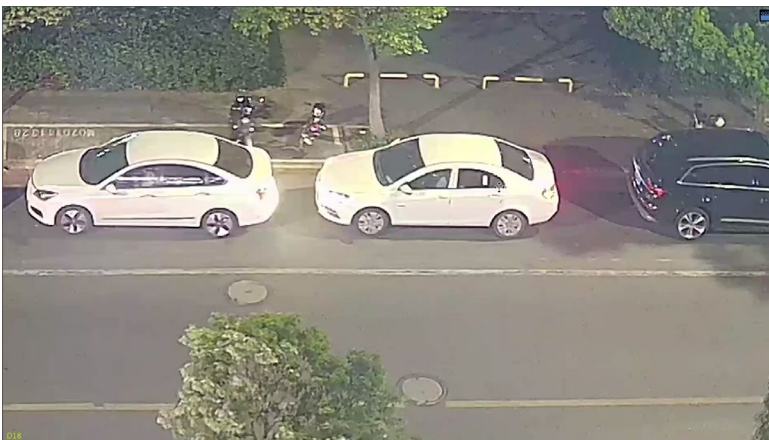
デジタルズーム

ウィンドウ上で画像を拡大することができます。

1. プレビューウィンドウで、ウィンドウをクリックしてから、ウィンドウツールバーの をクリックします。



2. 拡大したいエリアにカーソルを置き、スクロールホイールで拡大します。拡大画像は以下の通りです。



3. 右クリックするとズームが終了します。

3.3 画面のツールバー

マウスをプレビューページの下に持っていくと、画面のツールバーが表示されます。 をクリックすると、ツールバーがロックされます。

Table 3-3: 画面のツールバー

ボタン	説明
	クリックして、メニュー、再生、ログアウト、再起動、シャットダウンを選択します。
	シングルウィンドウ、4/6/8/9/16ウィンドウなど、画面レイアウトを選択します。
	前または次の画面に進みます。
	シーケンスを起動または停止します。
	クリックして、 再生 ページに進みます。
	マルチセンサープレビューモードに切り替えます。  メモ この機能はデュアルチャンネルカメラのみで利用できます。
	クリックしてクラウドサービスウィンドウを開きます。QRコードをスキャンして、NVR管理用アプリをダウンロードすることができます。  メモ この機能は特定機種 of NVRでのみ利用できます。
	クリックすると、カメラの状態やアラームの状態など、カメラ情報が表示されます。
	クリックすると、NVRのアラームの状態とカメラの状態が表示されます。
	ボタンにカーソルを合わせるとNICの情報が表示され、クリックするとネットワーク設定を編集できます。
	デバイスの時刻を表示します。ボタンにカーソルを合わせると日付が表示され、クリックすると時刻設定を編集できます。
	画面のツールバーをロック/非表示に切り替えます。

シーケンス

異なるカメラのライブ映像を同時に表示し、画像の鮮明さを確保したい場合に、シーケンスを使用します。機能では、画面レイアウト、ウィンドウ、リンク先カメラ、シーケンス間隔を設定する必要があります。

これらの例では、4ウィンドウ画面レイアウトで、5台のカメラのシーケンスを設定する方法を説明します。

1. プレビュー画面で右クリックし、**マルチウィンドウ> 4分割**を選択します。

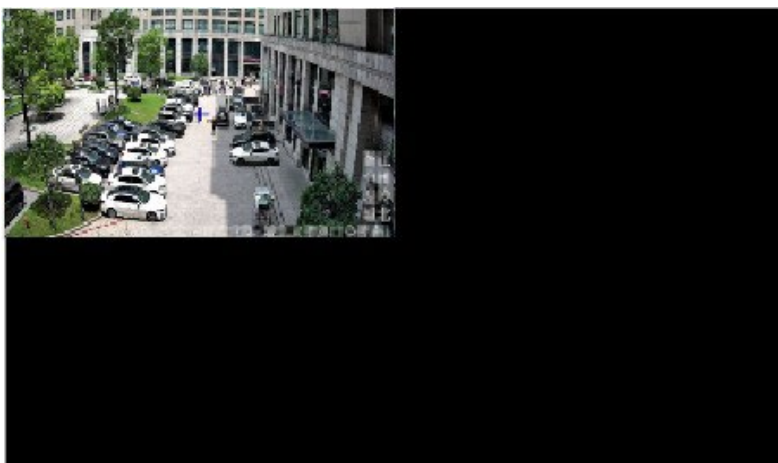


メモ

表示可能なウィンドウの枚数は、NVRの機種によって異なります。

3. 画面のツールバーの  をクリックすると、シーケンスが開始されます。

システムは、まず4台のカメラの映像を4つのウィンドウで第1画面に表示してから、設定した間隔後に5台目のカメラの映像を第2画面に表示します。



メモ

デフォルトのシーケンス間隔は8秒です。メニュー＞システム＞画面表示で設定できます。詳しくはプレビューの設定をご覧ください。

3.4 ショートカットメニュー

ウィンドウを右クリックすると、下のようなショートカットメニューが現れます。



ショートカットメニュー

Table 3-4: ショートカットメニュー

項目	説明
メニュー	メインメニューが表示されます。
共通メニュー	カメラステータス、ネットワーク、録画 ページに進みます。
シングルウィンドウ	シングルウィンドウに切り替えます。
マルチウィンドウ	4/6/8/9/16ウィンドウなど、画面レイアウトを選択します。
コリドー	映像をコリドーモードで表示します。ウィンドウの数は、メニュー>システム>画面表示の表示形式ドロップダウンリストで設定することができます。 メモ - コリドーモードの画像を表示するには、カメラが適切に設置されていることを確認し(90° 時計回りまたは反時計回りに回す)メニュー>カメラステータス>画像>画像補正で画像回転を設定して画像を適宜回転します。 - チャンネルがコリドーモードの場合、すべての操作(デジタルズーム、動作検知エリアの描画など)がコリドーモードで実行されます。
ワイドモード	映像をワイドモードで表示します。パノラマ対応のカメラ使用時にご利用ください。
再生	現在のウィンドウにリンクされたカメラの今日のビデオを再生します。また、必要に応じて、他の日のビデオも選んで再生することができます。
プレビューモード	ノーマルモードとスマートを切り替えます。デフォルトはノーマルモードです。
VCA検索	行動検索ページでVCAのスナップショットや録画を検索します。
照明設定	画像補正、スマートイルミネーション、露出、ホワイトバランス、高度な設定など、選択したカメラの画像パラメータを設定します。
出力モード	ビデオ出力モード(スタンダード、ソフト、明るさ、鮮明、カスタム)を選択します。輝度、彩度などのパラメータも設定することができます。
手動	マニュアル録画、スナップショット、マニュアルアラーム、ブザー、などの設定です。
POS	国内ではサポートしていません。

手動操作

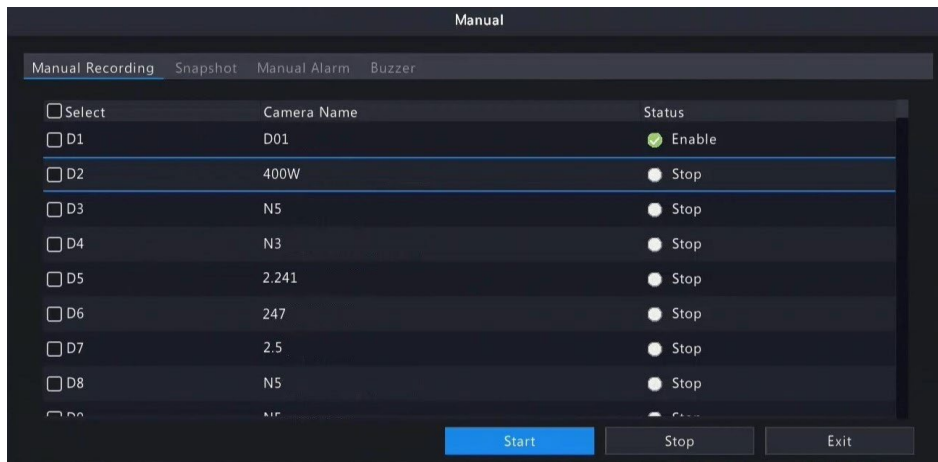
マニュアル録画、スナップショット、アラーム、ブザーなどの操作を行います。

マニュアル録画

1. 右クリックして、ショートカットメニュー>>手動>マニュアル録画を選択します。

メモ

画面のツールバーのローカル録画  と同様に、手動録画はスケジュール録画であり、他の録画スケジュールよりも優先順位が高くなります。正常モードでの手動録画の再生が可能です。

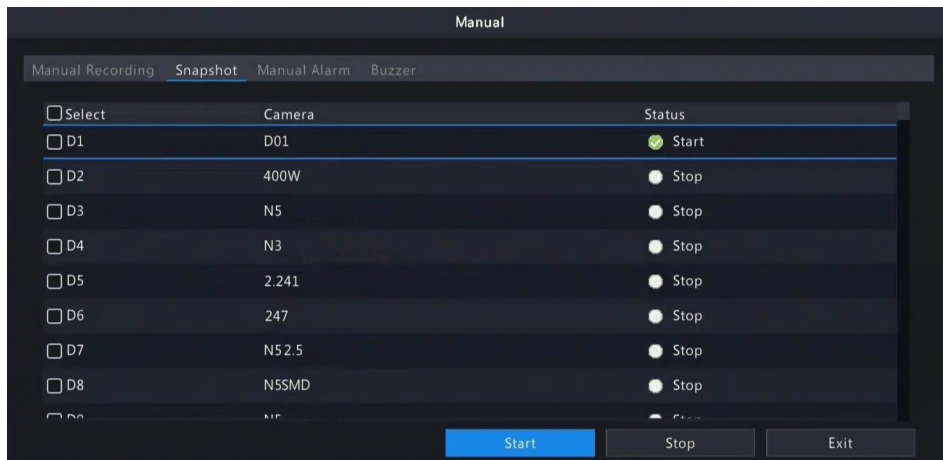


4. マニュアル録画を開始/終了します。

- 録画を開始します。希望のカメラを選択して**開始**をクリックします。
- 録画の停止：録画したいカメラを選択し、**停止**をクリックします。

スナップショット

1. 右クリックして、ショートカットメニュー>手動>スナップショットを選択します。



2. 手動スナップショットを開始/終了します。

- スナップショットの開始：希望のカメラを選択して**Start**をクリックします。
- スナップショットの停止：スナップショットが有効になっているカメラを選択し、**Stop**をクリックします。

マニュアルアラーム

右クリックして、ショートカットメニュー>手動>マニュアルアラームを選択します。手動でアラーム出力を起動またはクリアすることができます。

ブザー

右クリックして、ショートカットメニュー>手動>ブザーを選択します。ブザーを手動で停止することができます。

4 チャンネルの設定

IPC、エンコーディング、オーディオ、スナップショット、OSD、画像、プライバシーマスク、PTZの各パラメータを設定します。



本マニュアルにおいてIPデバイスとは、主にIPカメラ(またはネットワークカメラ)を示します。

4.1 チャンネルの管理

IPカメラを追加管理します。



- 作業を始める前に、IPカメラがネットワークを介してNVRに接続されていることを確認してください。
- 1台のIPカメラは1台のNVRにしか接続できません。2台以上のNVRで管理されているIPカメラでは、予期せぬ問題が発生することがあります。

4.1.1 IPCの設定

IPカメラを追加管理します。

メニュー> カメラステータス> カメラステータスに進みます。



IPCの追加

システムは自動的にIPカメラを検索し、発見したカメラが列記されます。**更新**をクリックすると、システムはリストとIPCステータスを更新します。IPCを追加する方法を選択します。

番号	IPアドレス	状態	数量	モデル	ブ
1	172.16.0.6	✓	1	IPC2124SB-ADF28KMC-I0	U
2	172.16.0.100	✓	1	IPC6415SR-X5UPW	U
3	172.16.0.101	✓	1	IPC2122SB-ADF28KM-I0	U
4	172.16.0.102	✓	1	IPC868ER-VF18-B	U

モードを追加
プロトコル
IPアドレス
ポート
ユーザー名
パスワード
カメラ総数
長距離伝送

プラグ&プレイ
Unique
172 . 16 . 0 . 6
80
admin

1
☐

オプション1:カスタム追加

1. **カスタム追加**をクリックします。
2. 表示されたウィンドウの**モードと追加**をIPアドレスに変更し、IPCのIPアドレスと他の設定項目を入力し、**確認**をクリックします。
 -  : カメラがオンラインです。
 -  : カメラがオフラインです。アイコンをポイントすると、情報が表示されます。
 -  : カメラが別のNVRに追加されています。
3. 上の手順を繰り返して、他のIPCを追加します。



NVR501-16Bのみ使用できます。

オプション2:セグメント検索

1. **セグメント検索**をクリックします。開始IPアドレスと終了IPアドレスを入力し、**検索**をクリックします。検出されたIPデバイスがリストで表示されます。

開始IP

192 . 168 . 1 . 1

終了IP

192 . 168 . 1 . 255

検索

終了

- 希望のカメラを選択し、 をクリックしてNVR に追加します。

オプション3:すべて追加

すべて追加をクリックすると、検出されたすべてのIPCが追加されます。（上限を超えていない場合）

オプション4:プラグインでの接続

- ネットワークケーブルで、NVRのPoEポートにIPカメラを接続します。接続したカメラは自動的にNVRに追加されます。
- メニュー> カメラステータス> カメラステータスでカメラ状態を確認します。



- このオプションはPoEポート搭載のNVRにのみ適用され、追加したカメラを削除することはできません。
- ネットワークケーブルで直接NVRに接続されていないIPCを追加する場合は、 をクリックし、プラグアンドプレイをIPアドレス変更して、その他のパラメータを入力します。
- PoEポートのみ搭載のNVRで、PoEポートの電源出力が、接続されたカメラの定格電源よりも低いまたは高い場合、状態に表示されます。
- IPCのパスワードを初期値から変更している場合は、**カメラ設定**からパスワードを入力してください。

オプション6:他のネットワークから追加

NVRとIPカメラが異なるルーターに接続されている場合、このオプションを使用します。NVRがカメラのパブリックIPアドレスとマッピングされたポート番号でカメラにアクセスできることを確認します。

-  をクリックし**モードを追加**で**EZDDNS**または**ドメイン名**を選択します。
- 必要なパラメータを入力し、**確認**をクリックします。



事前にIPC側でEZDDNSの設定およびポート開放の必要があります。

オプション7:カスタムプロトコルを使用する

-  をクリックし**モードを追加**で**IPアドレス**を選択します。
- プロトコル**で**カスタム**を選択します。
- 左下の**プロトコル**をクリックします。



- IPカメラが標準RTSPをサポートしている場合に使用できます。
- この方法で追加されたカメラからは、ライブと録画ビデオストリームのみが利用できます。設定操作には対応していません。

モードを追加	IPアドレス	▼
プロトコル	カスタム	Custom1 ▼
IPアドレス	172 . 16 . 0 . 6	
ポート	0	
ユーザー名	admin	
パスワード	*****	
カメラ総数	1	
長距離伝送	☐	

プロトコル

カスタム	カスタム1 ▼
プロトコル名	Custom1
ポート	554
転送形式	UDP ▼
メインストリーム有効	☒
リソースパス	rtsp://<ip>:<port>/
サブストリーム有効	☒
リソースパス	rtsp://<ip>:<port>/

例:rtsp://<IPアドレス>:<ポート番号>/<リソースパス>;

1 つのチャンネル:
rtsp://192.168.0.1:554/unicast/c1/s0/live

マルチチャンネル:
rtsp://192.168.0.1:554/unicast/c[%C]/s0/live すべてのカメラを追加
rtsp://192.168.0.1:554/unicast/c[%C+1]/s0/live すべてのカメラを追加+1
rtsp://192.168.0.1:554/unicast/c[%C+1]/s0/live Add selected camera ID-1
[%C±N]: %C は選択されたリモートカメラ ID を意味し、N はオフセット

4. プロトコル名を設定し、RTSPポート番号、伝送プロトコル、リソースパスなどを入力し、**確認**をクリックします。



メインストリームとサブストリームのリソースパスについては、カメラメーカーにお問い合わせください。

5. IPアドレス、ユーザー名とパスワードを入力し、**確認**をクリックします。カメラリストで状態を確認します。

IPカメラ変更

番号	IPアドレス	状態	数量	モデル	ブ
1	172.16.0.6	✓	1	IPC2124SB-ADF28KMC-I0	U
2	172.16.0.100	✓	1	IPC6415SR-X5UPW	U
3	172.16.0.101	✓	1	IPC2122SB-ADF28KM-I0	U
4	172.16.0.102	✓	1	IPC868ER-VF18-B	U

モードを追加	IPアドレス	▼
プロトコル	Unique	▼
IPアドレス	172 . 16 . 0 . 6	
ポート	80	
ユーザー名	admin	
パスワード	*****	
カメラ総数	1	
長距離伝送	☐	

IPカメラの編集

登録した内容を変更したい場合は、 をクリックし変更します。

IPカメラの消去

IPカメラを1台ずつ、または一括で削除することができます。



PoEポートまたはスイッチングポートに対応するチャンネルは削除できません。

- 削除するカメラを選択し、 をクリックし、ポップアップウィンドウで**確認**をクリックします。

ウィンドウの位置の変更

この機能を使用すると、チャンネルID、IPアドレス、チャンネルリストの表示順を変更せずに、プレビューページのチャンネルのウィンドウ位置を変更することができます。ウィンドウ位置を変更する方法を選択します。

- マルチウィンドウのプレビュー画面で、ウィンドウを他のウィンドウにドラッグすると、位置が入れ替わります。
- メニュー> システム> 画面表示> 画面表示**ページで、プレビューページ内のウィンドウ位置を変更します。

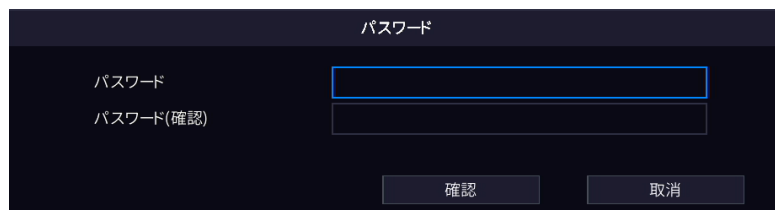
パスワードの一括変更

パスワードが正しくないために複数のIPCが正常に追加されず、これらのカメラのログインパスワードが同じである場合、この機能でパスワードを一括変更します。



- この機能は、カメラの追加に使用されるパスワードのみを変更します。カメラのログインパスワードは変更されません。
- この機能は、同じログインパスワードのIPCにのみ適用されます。パスワードを変更しても、任意のカメラが追加できない場合は、カメラのログインパスワードが異なるため、別途パスワードを変更する必要があります。

- メニュー> カメラステータス> ... もっとの一括変換**をクリックします。



- 新しいパスワードを入力し、パスワードを確定します。
- 確認**をクリックします。

ネットワークの設定

カメラを選択し、**設定**の をクリックします。カメラのIPアドレス、IPv4サブネットマスク、IPv4デフォルトゲートウェイを編集します。**適用**をクリックします。

ネットワーク

IPアドレス	192 . 168 . 11 . 130
IPv4サブネットマスク	. . .
IPv4デフォルトゲートウェイ	0 . 0 . 0 . 0
ユーザー名	admin
パスワード	

(注:この操作はカメラのネットワーク設定を変更します)。

確認 取消

詳細情報

チャンネルを選択し、**詳細**のをクリックすると、リモートカメラのID、メーカー、ポート番号などの詳細情報が表示されます。

詳細

リモートカメラID	
メーカー	UNIVIEW
ポート	80

その他の操作

項目	説明
H.265に自動切り替え	有効にすると、NVRは新しく追加されたカメラに対して自動的にH.265を選択します。  メモ - NVRにカメラが追加されるたびに、新規追加のカメラとみなされません。この機能は、すでに追加されているカメラや、追加されたカメラがオフライン状態からオンラインに戻った場合には無効となります。 - この機能は、一部のNVRモデルではデフォルトで有効になっています。
U-Codeに自動切替	基本またはアドバンスドを選択すると、NVRは新規追加のカメラに対して基本U-codeモードまたは高度なU-codeモードを自動的に選択します。
更新	更新をクリックすると、カメラの状態を確認します。
ライブビュー	状態のアイコンをクリックすると、カメラのライブビデオが再生されます。

4.1.2 高度な機能

オンラインIPカメラのパスワードを変更したり、カメラをデフォルト工場設定に復帰することができ

ます。**メニュー>カメラステータス>カメラステータス>アドバンスド**に進みます。



プライベートプロトコル経由で接続されたカメラでは、カメラのパスワードを変更することができます。

☐ カメラID	カメラ名	プロトコル	モデル	パスワード変更	デフォルト
☐ D1	IP Camera 01	Unique	IPC2124SB-ADF28KMC-I0	☒	
☐ D2	IP Camera 02	Unique	IPC6415SR-X5UPW	☒	
☐ D3	IP Camera 03	Unique	IPC2122SB-ADF28KM-I0	☒	
☐ D4	IP Camera 04	Unique	IPC868ER-VF18-B	☒	

カメラパスワードの変更

カメラのパスワードを1台ずつ、または一括で変更することができます。

1. カメラを選択して ☒ をクリックする、または対象のカメラを選択して、**パスワードの一括変換** をクリックします。

パスワード

パスワード(確認)

管理者パスワードを使用する ☐

確認 取消

2. 新しいパスワードを入力し、パスワードを確定します。



管理者パスワードを使用するにチェックを入れると、カメラのパスワードはNVRの管理者パスワードに変更されます。

3. **確認** をクリックします。パスワードが変更されたかどうかを確認します。

デフォルト設定の復元

カメラを選択し、 をクリックします。カメラの再起動を示すメッセージが表示された場合、**確認** をクリックすると、カメラの初期設定が復元されます。

4.2 エンコーディング設定



IPCの機種やバージョンによって構成項目が異なる場合があります。

IPCのバージョンが低い場合、一部の機能が利用できません。この場合、まずIPCをアップグレードする必要があります。

ストレージモード、キャプチャモード、ストリームタイプなどを設定します。

1. **メニュー>カメラステータス>エンコード**に進みます。

2. ドロップダウンリストからカメラを選択します。
3. メインストリーム、サブストリーム、メインおよびサブストリーム、メインおよびサードストリーム、サブおよびサードストリームといったストレージモードを選択します。デフォルトはメインストリームとサードストリームです。一部のNVRモデルでのみ、これら5つのモードがサポートされます。

ストレージモードによって、記録形式（HDまたはSD）が決定されます。記録形式は、録音の鮮明さや出力モードに影響を与える場合があります。次の表を参考に、必要に応じて、ストレージモードを設定します。

Table 4-1: ストレージモード

ストレージモード	HDストリーミング	SDストリーミング
メインストリーム	メインストリーム	動画・画像なし
サブストリーム	サブストリーム	動画・画像なし
メイン+サブストリーム	メインストリーム	サブストリーム
メイン+サードストリーム	メインストリーム	サードストリーム
サブ+サードストリーム	サブストリーム	サードストリーム

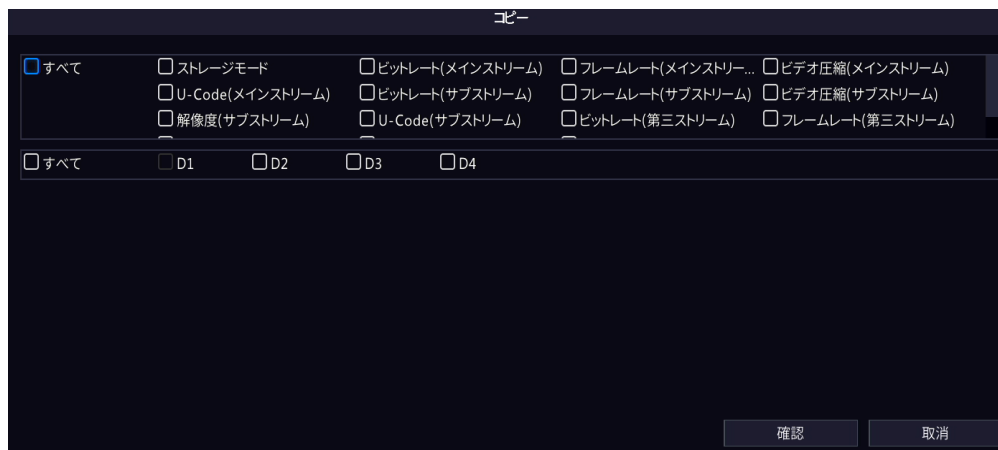
メモ

この設定項目は、NVRのストレージストリームを変更するだけで、IPCから送信されるビデオストリームは変更しません。デフォルトでIPCはメインストリームを送信します。

4. キャプチャモード、つまり解像度とフレームレートの組み合わせを設定します。このパラメータは、プライベートプロトコルを介してカメラがNVRに接続されている場合にのみ設定できます。
5. 異なるストリームのエンコーディングパラメータを設定します。

項目	説明
ストリームのタイプ	- メインストリーム: ノーマルまたはイベントを選択します。 - スケジュール: スケジュール録画のエンコードパラメータを設定します。 - イベント: 動体検知やアラーム入力など、イベントに対するエンコードパラメータを設定します。 - サブストリーム: ネットワーク伝送を目的とした低解像度ビデオ用エンコードパラメータを設定します。
ビデオ圧縮	H264またはH265を選択します。対応するビデオ圧縮率はIPCの機種によって異なります。
解像度	フレーム内の画素数です。
ビットレートのタイプ	- VBR: 可変ビットレート(VBR)は、ビットレートを変化させてビデオストリームの品質をできるだけ一定に保つために使用されます。 - CBR: 固定ビットレート(CBR)は、ビデオストリームの画質を変化させて特定のビットレートを維持するために使用されます。
ビットレート(kbps)	1秒間に転送されるビット数。ドロップダウンリストから値を選択するか、 カスタム を選択して必要に応じて値を設定します。
フレームレート(fps)	1秒間のフレーム数です。
画質	このパラメータは、 ビットレート が VBR に設定されている場合にのみ設定できます。1～9レベルまで設定できます。
フレーム間隔	隣接する2個のフレーム間のフレーム数です。
スムージング	スライダーで、ビットレートの急激な変化を制御します。
U-Code	基本モード、アドバンスドモードなど、U-Codeのモードを選択します。また、U-Codeを閉じることもできます。圧縮比を高める高度なモードです。

6. 設定を他のカメラに適用するには、**コピー**をクリックして、希望のパラメータとカメラを選択し、**確認**をクリックします。



メモ

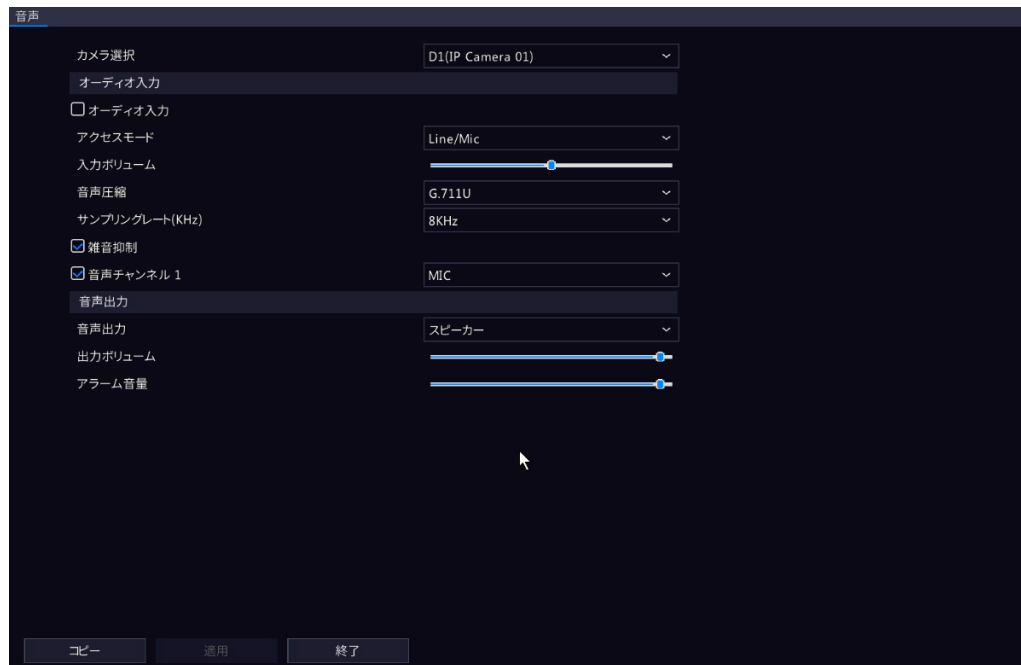
- ストレージモードを他のカメラにコピーする場合、目的のカメラがそのストレージモードに対応していないと操作は失敗します。
- ビデオ圧縮とU-Code を他のカメラにコピーする場合、ビデオ圧縮でビットレートが自動的に調整されるため、ビットレートが自動的に選択されます。

7. **適用**をクリックします。

4.3 音声設定

IPCのオーディオ入力とオーディオ出力を設定します。

1. **メニュー> カメラステータス> 音声**に進みます。



2. ドロップダウンリストから希望のカメラを選択します。
3. オーディオ入力パラメータを設定します。

項目	説明
オーディオ入力	チェックを入れると、音声入力が有効になります。
アクセスモード	IPCのオーディオインターフェイスに応じて、Line、Mic、RS485などのアクセス方法を選択します。 • Line-in: IPCがサウンドピックアップと3.5mmオーディオケーブル で接続されます。 • Mic-in: IPCがマイクに接続されます。 • RS485: IPCがサウンドピックアップとRS485ケーブルで接続されます。IPCのウェブインターフェイスで、ポートモードをサウンドピックアップに設定する必要があります。  メモ 特定のブランドのサウンドピックアップのみが IPCでサポートされています。
入力ボリューム	スライダーをドラッグして、音声入力の音量を調整します。
音声圧縮	G.711A、G.711U、AAC-LCなどの音声圧縮を選択します。対応する音声圧縮率はIPCの機種によって異なります。
サンプリングレート(KHz)	音声圧縮率に応じたサンプリングレートを選択します。 • AAC-LCの場合、8KHz、16KHzまたは48KHzを選択します。 • G.711A、G.711Uの場合、8KHzまたは16KHzを選択します。
雑音抑制	チェックを入れると、ノイズ抑制が有効になります。
音声チャンネル	出力チャンネルを選択します。

4. オーディオ出力パラメータを設定します。IPCの一部機種のみ音声出力に対応しています。

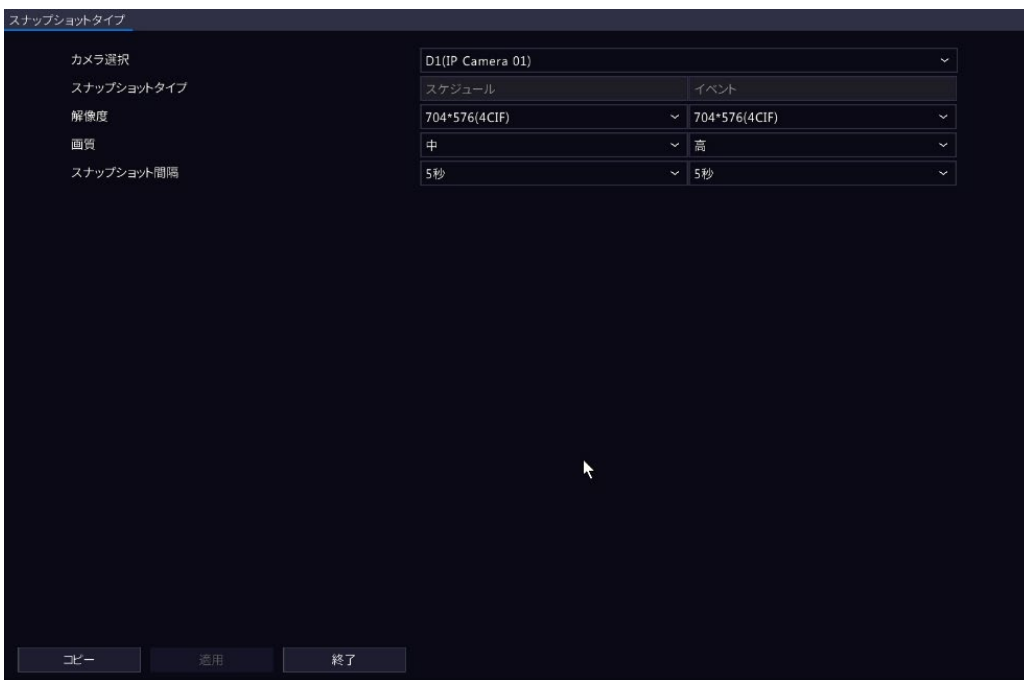
項目	説明
オーディオ出力	オーディオ出力モードを選択します。 • スピーカー：デフォルトモードです。 • Line：外部スピーカーまたはイヤホンが必要です。
出力音量	スライダーをドラッグして、音声出力の音量を調整します。

5. 音声設定を他のカメラに適用するには、**コピー**をクリックし希望のパラメータとカメラを選択して、**確認**をクリックします。
6. **適用**をクリックします。

4.4 スナップショット

スナップショットパラメータを設定します。

1. **メニュー> カメラステータス> スナップショット**に進みます。



2. カメラを選択し、必要に応じてパラメータを設定します。

項目	説明
スナップショットのタイプ	スケジュールスナップショット、イベントトリガーによるスナップショットに対応しています。画質とスナップショット間隔をそれぞれ設定する必要があります。 • スケジュール：設定スケジュールに従って、スナップショットが撮影されます。 • イベント：スナップショットは、アラーム入力や動体検知アラームなどのイベントによって起動します。手動スナップショットは、イベントトリガースナップショットです。
解像度	フレーム内に格納される画素数です。特定のNVRのみ解像度の設定に対応しています。
画質	スナップショットの画質を設定します。高、中、低と設定できます。
スナップショット間隔	2つのスナップショット間の時間間隔をドロップダウンリストで選択します。

3. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のカメラを選択します。
4. **適用**をクリックします。

4.5 画面表示設定

プレビュー（ライブビュー）ウィンドウにオーバーレイ表示される文字を設定します。オンスクリーンディスプレイ（OSD）とは、ビデオ画像に表示される文字（チャンネル/カメラ名や日時や人数カウント統計など）です。

1. **メニュー>カメラステータス>画面表示設定**に進みます。



2. ドロップダウンリストから希望のカメラを選択します。
3. OSDパラメータを設定します。

項目	説明
カメラ名	選択したカメラの名称です。カメラ名は必要に応じてカスタマイズすることができます。
OSDカメラ名の同期	デフォルトで有効になっており、OSDカメラ名は自動的にカメラ名と同期されます。  メモ • OSDカメラ名には最大20文字まで同期できます。カメラ名が21字以上の場合、最初の20字のみが表示されます。 • OSDカメラ名の同期が無効の場合、カメラ名の変更後、新しいカメラ名はOSDカメラ名と同期されません。
OSDカメラ名	ビデオ映像に表示されるカメラ名です。OSDカメラ名は、デフォルトでカメラ名と同じです。 OSDカメラ名の同期 を無効にした後、OSDカメラ名をカスタマイズすることができます。最大20文字まで入力できます。
日付形式	ドロップダウンリストから日付フォーマットを選択します。
時間形式	ドロップダウンリストから時間フォーマットを選択します。
時間	チェックを入れると、ビデオ画像の左側にカメラ時刻が表示されます。
カメラ名	チェックを入れると、ビデオ映像にカメラ名が表示されます。
人数カウント	チェックを入れると、ビデオ画像上に入退場者数など人数カウント統計が表示されます。この機能を使用するには、まず人流カウントを設定する必要があります。
フォントサイズ	ドロップダウンリストからフロントサイズを選択します。

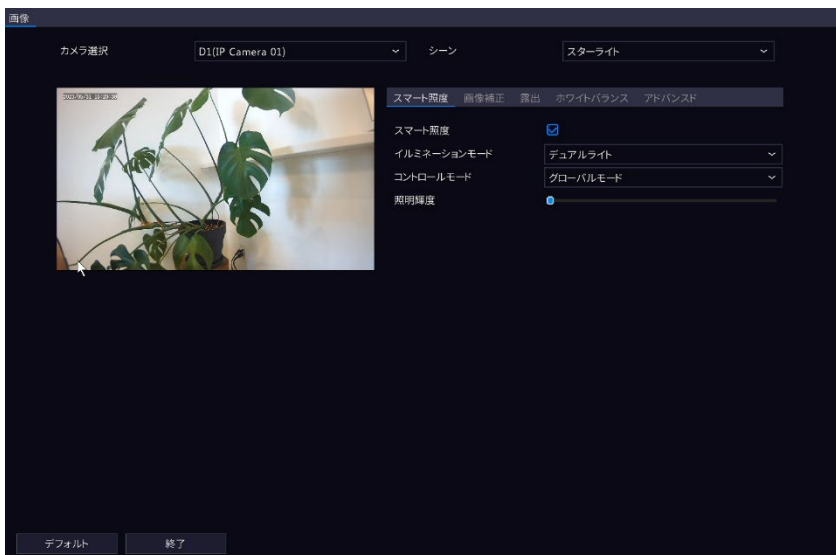


4. 他のカメラに同じOSD設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のカメラを選択します。
5. **適用**をクリックします。

4.6 画像の設定

画像の設定を調整してカメラの画像を最適化します。

1. **メニュー> カメラステータス> 画像**に進みます。



2. 希望のカメラを選択します。
3. 使用したい画像シーンを選択します。

IPカメラには、各種アプリケーションシナリオに対応するために、事前に定義された複数のシーンモードが用意されています。シーンを選択すると、パラメータが自動的に設定されます。必要に応じて、パラメータを調整することもできます。

- カスタム：必要に応じてシーンを設定します。
- 屋内：屋内のシーンに推奨されます。
- 一般：屋外のシーンに推奨されます。
- スターライト：低照度下での状況に推奨されます。
- テスト：テストシーンに推奨されます。
- 道路向きHLC/公園向きHLC：車両ナンバープレートを取得する際や公園でのシーンに推奨されます。
- WDR：窓、コリドー、正面玄関など、外が明るく中が暗い、コントラストの大きいシーンに推

奨励されます。

4. このページのタブでパラメータを設定します。



- 特定のIPCのみシーン選択に対応しており、画像パラメータはIPCのモデルによって異なります。
- デフォルト設定はカメラによります。変更する必要がない場合は、デフォルト設定を使用してください。
- すべてのタブでデフォルト設定を復帰するには、右下のデフォルトをクリックします。この機能は、カメラがプライベートプロトコルを介してNVRに接続されている場合にのみ使用できます。
- 画像設定は、ライブビデオと録画済みビデオの両方に適用されます。

スマート照明

スマート照明タブをクリックして、パラメータを設定します。

スマート照明 画像補正 露出 ホワイトバランス アドバンスド

スマート照明 ☒

イルミネーションモード デュアルライト

コントロールモード グローバルモード

照明輝度

項目	説明
スマート照明	チェックを入れると、スマート照明が有効になります。
イルミネーションモード	ドロップダウンリストから照明タイプを選択します。 - 赤外線: カメラは赤外線照明を使用します。 - ホワイトライト: カメラはホワイトライト照明を使用します。 - デュアルライト: カメラは、現在の照明条件に応じてホワイトライトまたは赤外線を自動的に調整します。
コントロールモード	ドロップダウンリストからコントロールモードを選択します。 - グローバルモード: カメラは、均衡のとれた画像効果を達成できるように、照明輝度と露光を自動的に調整します。 - 露光オーバー抑制: カメラは、部分的な露光オーバーを防止するように、照明輝度と露光自動的に調整します。 - 手動: 照明輝度を手動でコントロールします。
照明輝度	スライダーをドラッグして、照明レベルを調整します。このパラメータは、コントロールモードが手動に設定されている場合にのみ設定できます。値が大きいほど、光の強度が強くなります(0はオフ)。

画像補正

画像補正タブをクリックして、パラメータを設定します。

スマート照明 画像補正 露出 ホワイトバランス アドバンスド

輝度

彩度

コントラスト

シャープネス

ノイズ削減

画像回転 ノーマル

項目	説明
輝度	画像全体の明るさ/暗さ。
彩度	画像の色の強さ/鮮やかさ。
コントラスト	画像内の最も明るい階調と最も暗い階調の差。
シャープネス	画像内の対象物のエッジ部分のコントラスト。
ノイズリ削除	画像内のノイズを低減しますが、画像のぼやけや汚れの原因となる場合があります。
画像回転	画像の回転です。 ・ ノーマル: 回転せずに画像を表示します。 ・ 180° : 画像を垂直方向と水平方向に反転します。 ・ 90° CW: 画像をコリドーフォーマットで表示します。カメラを正しく取り付けする必要があります(時計回りに90° 回転)。 ・ 90° CCW: 画像をコリドーフォーマットで表示します。カメラを正しく取り付けする必要があります(反時計回りに90° 回転)。

露出

露出タブをクリックして、パラメータを設定します。

スマート照度
画像補正
露出
ホワイトバランス
アドバンスド

露出モード
自動

シャッター(秒)
1/50

ゲイン(dB)
0

スローシャッター
☒

最遅シャッター
1/12

補正

デイ/ナイトモード
自動

デイ/ナイト感度
最低

デイ/ナイト切替(秒)
3

WDR
OFF

WDRレベル

測光制御
中央重点平均測光

項目	説明
露出モード	適切な露光モードを選択して、希望の露光効果を達成します。 ・ 自動: カメラは、シーンに応じて自動的に露光パラメータを調整します。 ・ カスタム: ユーザーは必要に応じて露出パラメータを設定することができます。 ・ 屋内50Hz: シャッタースピードを制限して縞模様の発生を低減します。 ・ 屋内60Hz: シャッタースピードを制限して縞模様の発生を低減します。 ・ 手動: シャッター、ゲイン、絞りを手動で設定して、画質を微調整します。 ・ 低モーションブラー: 最小シャッタースピードを制御して、動体ブレを低減します。
シャッター	シャッターは、レンズへの入射光量を制御します。物体が高速で移動するシーンでは、シャッタースピードを速くします。物体が低速で変化するシーンでは、シャッタースピードを遅くします。 露出モードが手動またはカスタムの場合、設定することができます。  メモ スローシャッターが無効の場合、シャッタースピードの逆数をフレームレートよりも大きくする必要があります。

ゲイン(dB)	種々の光量条件でカメラが標準ビデオ信号を出力できるように、画像信号を制御します。 このパラメータは、 露出モード が 手動 または カスタム に設定されている場合にのみ設定できます。
スローシャッター	チェックを入れると、スローシャッターが有効になります。有効にすると、カメラは暗い場所での画像の明るさを改善します。
最遅シャッター	有効にすると、露光中、カメラのシャッタースピードを最も遅い値に設定することができます。
補正	希望の画像効果を得られるように、必要に応じて補正値を調整します。
デイ/ナイトモード	- 自動: カメラは、環境光の条件に応じて最適な画像を出力するように、自動的にナイトモードとデイモードを切り替えることができます。 - デイ: カメラは、日中の条件で、高画質な画像を出力します。 - ナイト: カメラは、低照度の条件で、高画質な画像を出力します。
デイ/ナイト感度	デイモードとナイトモードを切り替える光のしきい値です。超低、低、中、高があります。感度のレベルが大きいほど、光の変化に対する感度が大きくなり、デイモードとナイトモードが簡単に切り替わります。 このパラメータは、 デイナイトモード が 自動 に設定されている場合にのみ設定できます。
デイ/ナイト切替	切替条件を満たしてから、カメラがデイモードとナイトモードを切り替えるまでの時間を設定します。 このパラメータは、 デイナイトモード が 自動 に設定されている場合にのみ設定できます。
WDR	ドロップダウンリストからWDRを有効/無効にします。コントラストが大きい条件で明瞭な画像になるように、WDRを有効にします。 このパラメータは、 露出モード が 手動 または カスタム に設定されている場合は設定できません。
WDRレベル	WDR有効時の画質を向上させるために、WDRレベルを調整します。
測光抑制	画面の明るさ判定の測光の方法を設定します。 中央重点平均測光 : 画面中央周辺の明るさを平均して明るさを計測します。 評価メータリング(BLC) : 画面内の他よりも暗いところを中心に計測します。 スポット測光 : 画面上の任意の場所を計測します。

メモ

コントラストが弱い場合、WDRを無効にするか、レベル1～6を使用するよう推奨されます。シーン内で明るいエリアと暗いエリアのコントラストが強い場合、レベル7以上が推奨されます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスタブをクリックして、パラメータを設定します。

スマート照度
画像補正
露出
ホワイトバランス
アドバンスド

ホワイトバランス
自動

赤オフセット

青オフセット

項目	説明
ホワイトバランス	画像の赤と青のゲインを調整し、非現実的なカラーキャストを除去します。 - 自動: カメラは、照明条件(色が青みがる)に応じて、自動的に赤または青のゲインを自動的に調整します。 - 微調整: 手で赤または青のオフセットが調整できます。 - 屋外: 色温度が大きく変化する屋外シーンに適しています。 - ナトリウムランプ: カメラは、照明条件(色が赤みがる)に応じて、赤や青のゲインを自動的に調整します。 - 保護: 現在の色温度を変更せずにロックします。
赤オフセット	手で赤のオフセットが調整できます。
青オフセット	手で青のオフセットが調整できます。

アドバンスド

アドバンスドタブをクリックして、パラメータを設定します。

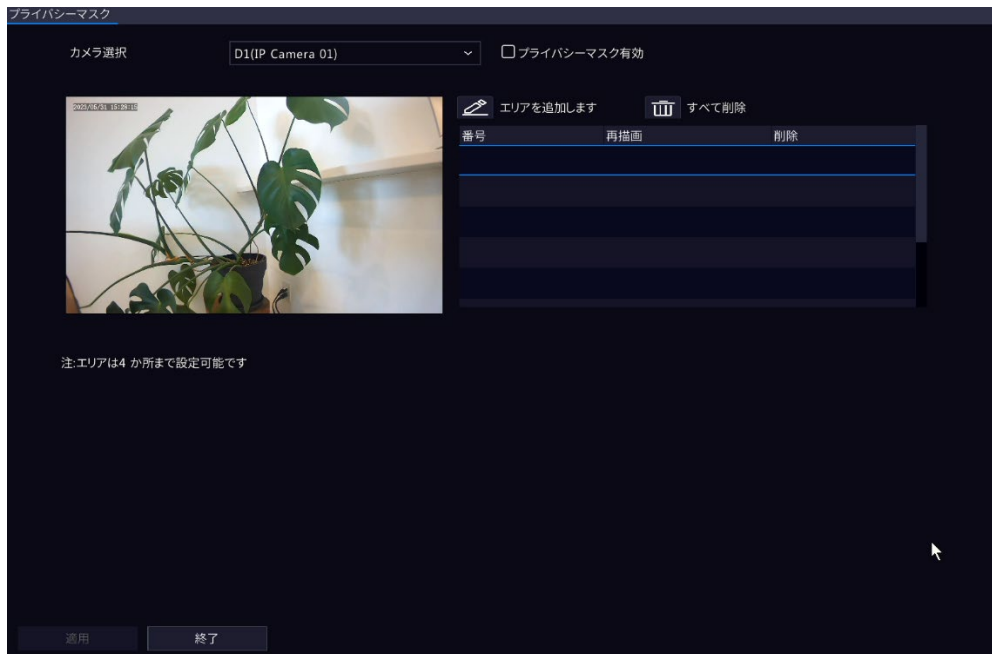


項目	説明
デフォグ	ドロップダウンリストからデフォグを有効/無効にします。デフォグは、霧や霞など視界の悪いシーンで画像の視認性を高めるために使用します。
デフォグレベル	デフォグが有効の場合、デフォグの強度を調整することができます。 霧の濃い環境では、デフォグのレベルが高いほど、鮮明な画像が得られます。霧のない、あるいは霧が薄い環境では、レベル1～9の間に大きな差はありません。  メモ 光学式デフォグは、一部のIPCモデルのみ対応しています。デフォグの強度を6以上に設定すると、濃霧時に光学式デフォグが自動的にオンになり、画像が白黒に変化します。

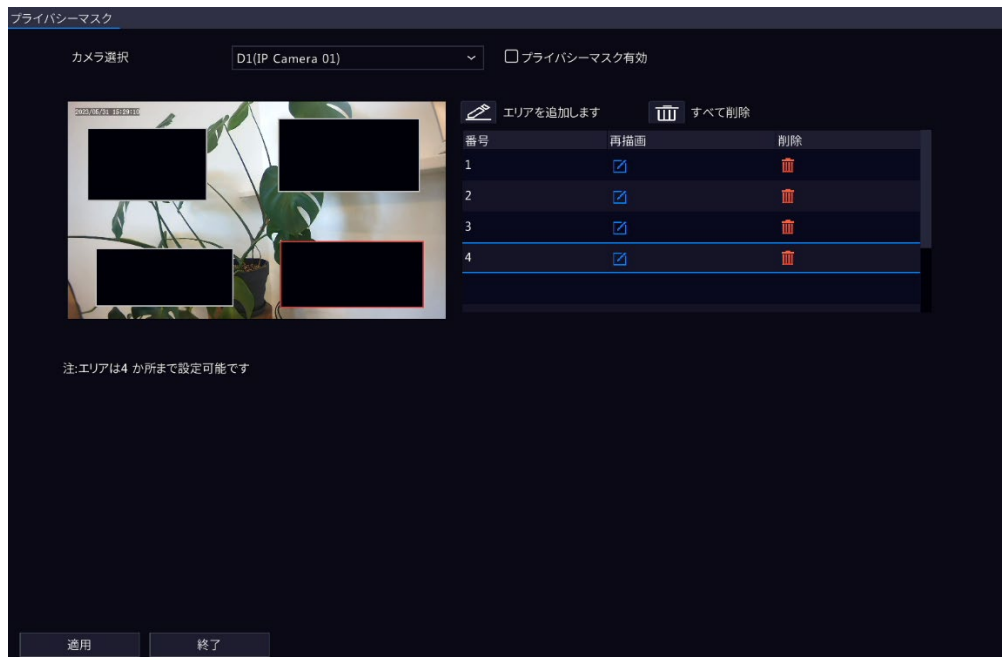
4.7 プライバシーマスク

プライバシーマスクは、ATMキーボードなど、プライバシーのために画像上の特定のエリアをカバーするために使用します。PTZカメラが回転#ズームしても、プライバシーマスクはカメラと一緒に移動#ズームし、マスクされたエリアは常にカバーされます。

1. **メニュー> カメラステータス> プライバシーマスク**に進みます。



2. ドロップダウンリストから希望のカメラを選択します。
3. チェックを入れるとプライバシーマスクが有効になります。
4.  をクリックし、マウスを使って左側の画像で長方形のエリアを指定します。エリア対応数は、NVRの機種によって異なります。NVRでは、4つのエリアをサポートするものと8つのエリアをサポートするものがあります。



- **マスクのサイズと位置を調整**：マスクのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。マスクの任意の位置をポイントし、目的の位置までドラッグします。
 - **再描画**： をクリックすると、既存のエリアがすべてクリアされ、再度エリアが描画されます。
 - **消去**：マスクを選択して、 をクリックします。または、 をクリックすると、すべてのマスクが削除されます。
5. **適用**をクリックします。

4.8 PTZの設定

PTZカメラの設定と制御を行います。

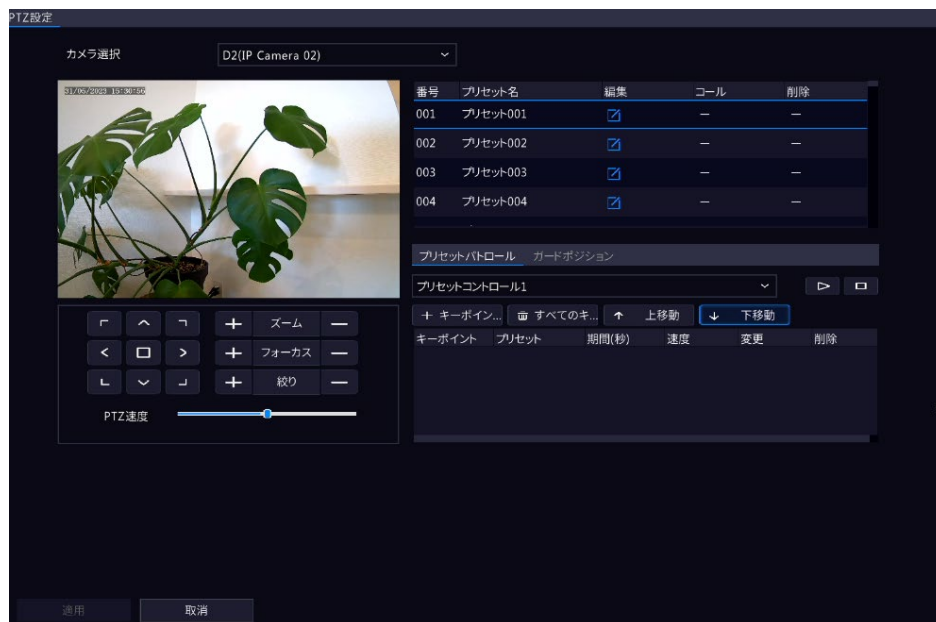


- この機能は、PTZカメラまたはPTマウントに設置されたカメラにのみ使用することができます。
- PTZパラメータはPCモデルによって異なることがあります。
- PTZ(パン、チルト、ズーム)コントロールはPTZカメラにのみ適用され、PTZカメラによってサポートされる機能やプロトコルによって異なります。詳細についてはPTZカメラの仕様を参照してください。

PTZの設定

オプション1:メニューに進む

- メニュー>カメラステータス>PTZに進みます。
- 対象のPTZカメラを選択します。



- パラメータを設定します。詳しくは以下をご覧ください。

オプション2:PTZツールバーの使用

- プレビューウィンドウで、対象のウィンドウを選択し、ウィンドウツールバーのをクリックします。
- PTZコントロールウィンドウが現われます。必要に応じてPTZカメラを制御することができます。



PTZ設定をクリックして、パラメータを設定します。

Table 4-2: PTZコントロールウィンドウボタン

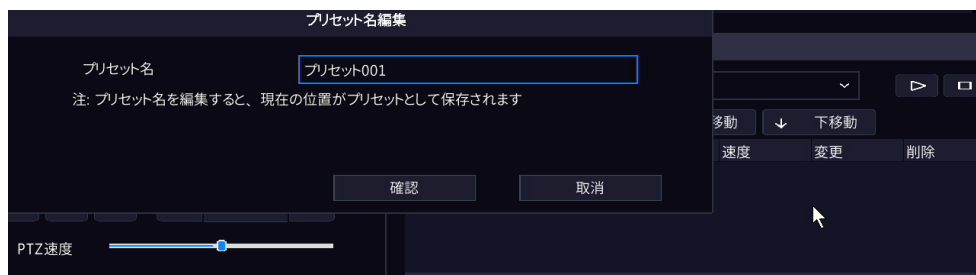
ボタン	説明
	PTZカメラの回転方向を制御したりPTZ制御を解除します。
	画像を拡大/縮小します。 メモ マウスのスクロールホイールでも拡大・縮小できます。 鮮明な画像を得るために、遠くまたは近くに焦点を合わせます。 カメラのレンズに入る光の量を増減します。
	カメラの回転速度を制御します。1-9まで設定できます。1は最も遅い速度、9は最も速い速度を表します。
	クリックしてPTZ設定ページを表示します。
	- ライトをオン/オフします。 - ワイパーをオン/オフします。 3Dポジショニングをオンにします。 - ヒーターをオン/オフします。 - 除雪をオン/オフします。 - PTZショートカットの操作をオン/オフします。 メモ 使用前に、カメラで3Dポジショニング、ヒーター、除雪機能がサポートされていることを確認してください。 3Dポジショニングを使用して拡大/縮小します。上から下にドラッグすると拡大します。反対方向にドラッグすると縮小します。
プリセット/プリセットパトロール/録画パトロール/自動ガード	詳細についてはプリセット、プリセットパトロール、録画パトロール、自動ガードをご覧ください。
	- プリセットの呼び出し: をクリックすると、PTZカメラがプリセット位置に移動します。 - プリセットの削除: をクリックすると、プリセットが削除されます。 メモ 保存されたプリセットにのみ表示されます。
	プリセットパトロールを開始または停止します。

プリセット

プリセット位置（以下プリセットと略称）とは、PTZカメラを特定の位置にすばやく移動させる保存ビューのことです。

• プリセットの追加

1. PTZ方向ボタンでPTZカメラを希望の位置に移動します。
2. 未使用のプリセット番号を選択し、 をクリックしてプリセット名を編集します。



3. **確認**をクリックして保存します。上の手順を繰り返して、プリセットをすべて追加します。

番号	プリセット名	編集	コール	削除
001	プリセット001			
002	プリセット002		—	—
003	プリセット003		—	—
004	プリセット004		—	—

- **プリセットの呼び出し**
プリセットリストで呼び出すプリセットを選択し、 をクリックします。プリセット位置にカメラが回転します。
- **プリセットの削除**
プリセットリストで削除するプリセットを選択し、 をクリックします。

プリセットパトロール

プリセットパトロールルートを設定することで、PTZカメラがプリセットで（指定の順番で、1つのプリセットから次のプリセットへ移動する）パトロールすることができます。

- **プリセットルートの追加**
 1. **プリセットパトロール**をクリックし、パトロールルートを選択します。



2. **+ キーポイント...** をクリックします。





3. パラメータを入力し、**適用**をクリックします。

項目	説明
プリセット	パトロールの実行後、カメラがプリセットに留まる時間帯を設定します。プリセットの設定方法は、プリセットをご覧ください。
期間	パトロールの実行後、カメラがプリセットに留まる時間を設定します。有効範囲は120～1800です。デフォルトは10秒です。
PTZ速度	回転速度を設定します。1は最も遅い速度、9は最も速い速度を表します。デフォルトは5です。

4. 上の手順を繰り返して、さらにルートを追加します。



1台のPTZカメラで4つのパトロールルートを設定することができます。1つのパトロールルートにつき、最大8つのプリセット(キーポイント)を設定できます。

• プリセットの呼び出し

リストからプリセットパトロールを選択し、**▶** をクリックすると、プリセットパトロールが開始されます。停止するには **□** をクリックします。

• その他の操作

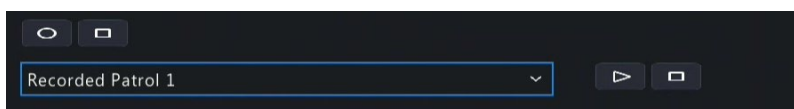
- 編集: **✎** をクリックすると、プリセットパトロールパラメータを編集することができます。
- 消去: **🗑** をクリックすると、キーポイントが削除されます。 **🗑 Delete All...** をクリックすると、すべてのキーポイントが削除されます。
- 上/下へ移動: **↑ Move Up** / **↓ Move Down** をクリックして、これらのプリセットの順序を調整します。

録画パトロール

パトロールルートを録画することで、PTZカメラは録画されたパトロールに従ってパトロールすることができます。

• 録画パトロールの追加

1. 録画パトロールタブで、パトロールルートを選択します。
2. **📺** をクリックすると録画が開始します。カメラを希望の方向に移動し、パトロールプロセス



中に必要なズーム、ピント、絞りを調整します。

3. **□** をクリックすると録画が停止します。

4. **適用**をクリックします。

- **録画パトロールの呼び出し**

録画パトロールを開始するには  をクリックします。録画パトロールを停止するには  をクリックします。

ガードポジション

ガードポジションを設定すると、PTZカメラが一定時間アイドル状態（ユーザー操作がない状態）になった後、指定動作（プリセットへの移動、パトロール開始など）を自動的に実行します。



使用前に、プリセットまたはパトロールルートを追加する必要があります。

1. **ガードポジション**タブで、チェックして、ガードポジションを有効にします。
2. パラメータを設定します。

項目	説明
アイドル状態	カメラが自動ガードを開始するまでのアイドル時間を設定します。1～3,600秒まで設定できます。デフォルトは60秒です。
モード	プリセットまたはパトロールルートを選択します。
プリセット/パトロール	プリセット番号またはパトロールルート番号を選択します。

3. **適用**をクリックします。

5 VCA

VCA（ビデオコンテンツ分析）、アナライザー、VCA検索を設定します。

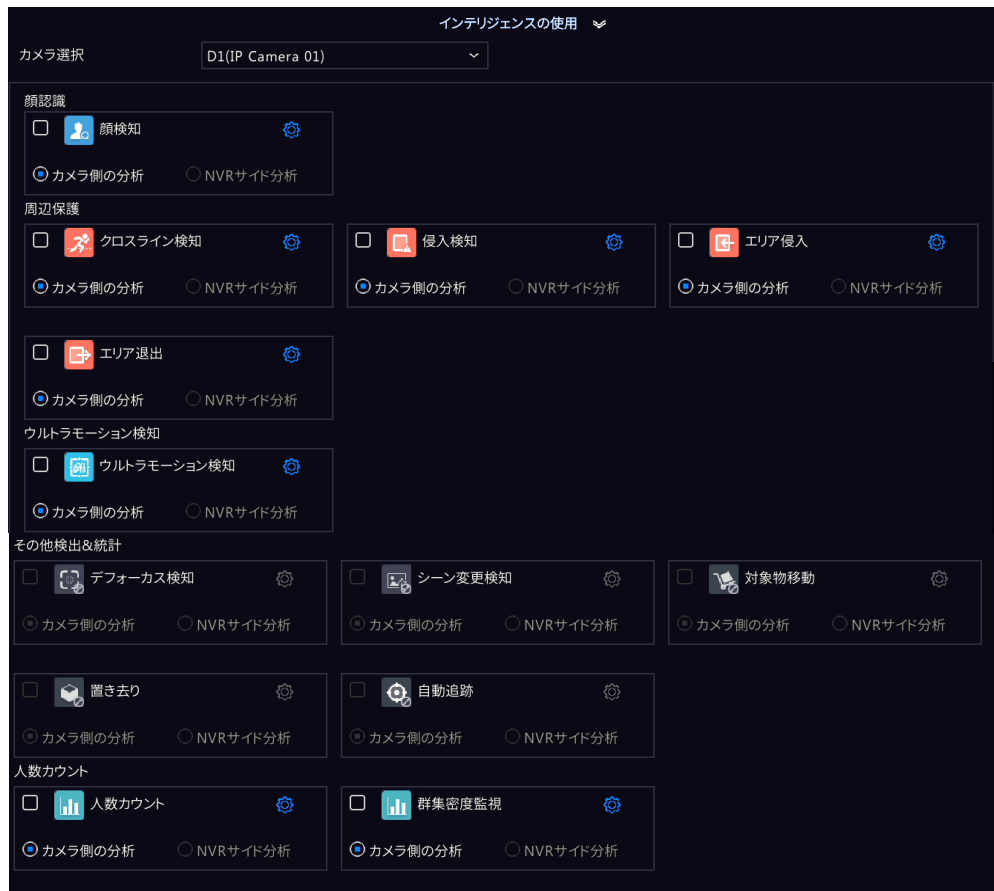
5.1 VCA設定

VCAには、顔認識、その他検出&統計が含まれます。VCAを設定することで、人の流れ、道路、移動物体を監視することができます。VCAの機能とパラメータは、NVRの機種によって異なります。



スロット1にディスクがない場合、VCAの機能は使用できません。

1. **メニュー> VCA> VCA設定**に進みます。



2. カメラを選択します。
3. 有効化する VCA 機能のチェックボックスを選択し、この機能をカメラ側とNVR側のどちらで行うかを選択します。
 - カメラ側分析：VCAの機能はカメラによって実行されます。
 - NVR側分析：VCAの機能はNVRによって実行されます。



- カメラ側でサポートする一部のVCA機能のパラメータは、NVR側でサポートするパラメータよりも多くなります。
- カメラ側分析を有効にする前に、カメラがプライベートプロトコルで接続されていることを確認します。
- カメラまたはNVRでサポートされていないVCAの機能はグレーで表示されます。

5.1.1 連動動作

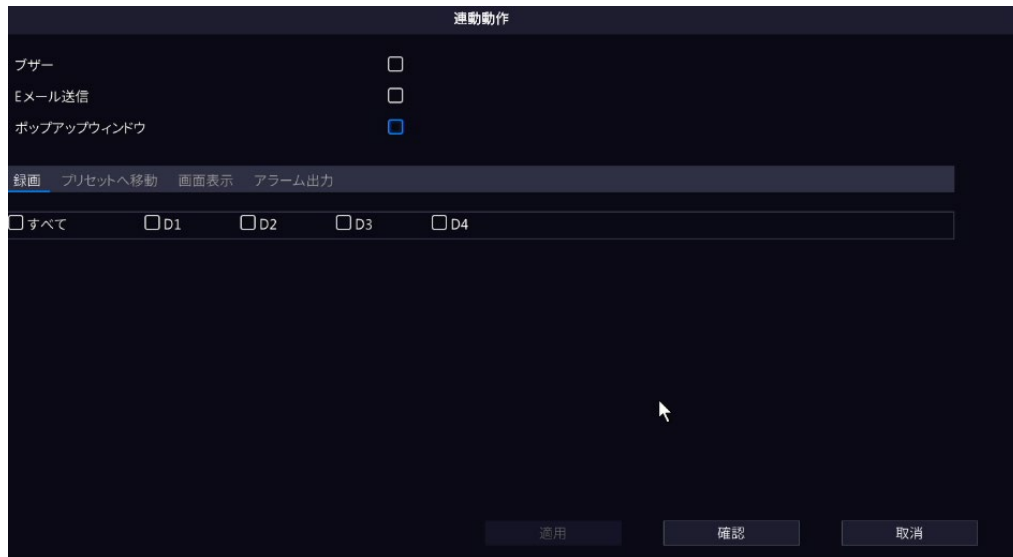
アラームが発報したときにトリガーされる動作を設定することで、時間内に対処するよう警告します。

連動動作の  をクリックし、動作を設定してから**適用**>**確認**をクリックします。



サポートされる動作は、NVR モデルとVCAの機能によって異なります。

一部の動作の詳細は以下のとおりです。



ブザー

アラームが発報されると、NVRがブザーを鳴らします。

電子メールを送信

アラームが発報されると、NVRが指定のメールアドレスにアラーム情報と共にEメールを送信します。

ポップアップウィンドウ

アラームが発報されるとアラームリストが表示されます。

録画

アラームが発報されると、NVRが指定のカメラでビデオを録画します。

プリセットに移動

アラームが発報されると、PTZカメラがプリセット位置に移動します。



この動作は次のように設定します。

1. 編集の  をクリックします。



2. この動作を実行するカメラを選択し、アラームが発報したときにカメラが移動するプリセットを選択します。



使用前に、PTZカメラにプリセットを設定する必要があります。詳しくは、ネットワークカメラのマニュアルをご覧ください。

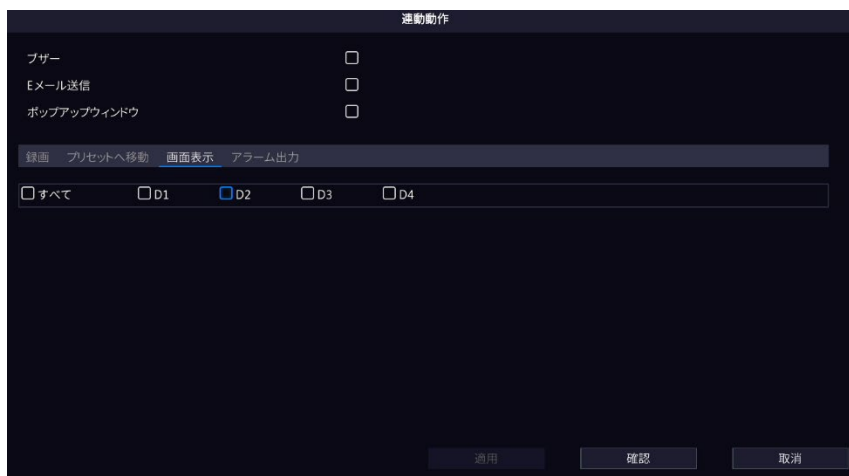
3. **確認**をクリックします。



プリセットを削除またはリンク解除するには、 をクリックします。

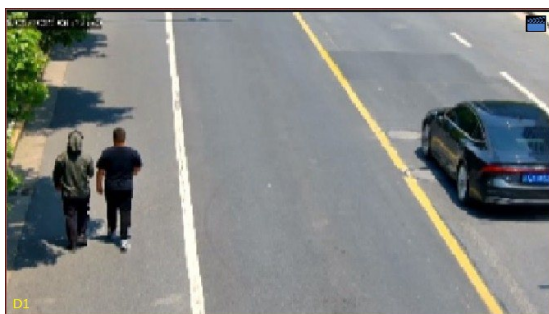
画面表示

アラームが発報されると、NVRが指定のカメラでライブビデオを再生します。この動作を実行するには、**メニュー>システム>画面表示**で**アラーム連動のライブ画面数**を設定します。



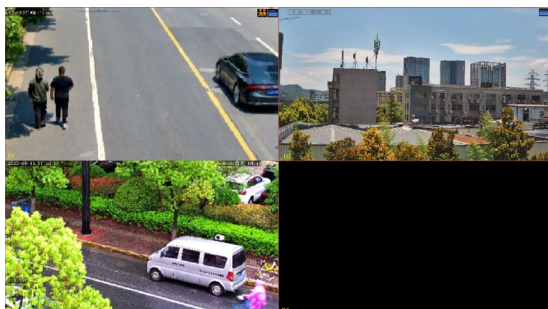
アラーム発報時に表示されるライブビューページは、リンクされているカメラの台数やアラームをトリガーとしたライブビューウィンドウ数によって変化します。アラームが発報すると、ライブビュー画面にはリンク先のカメラのライブ映像が赤枠で表示され、アラームが終了すると元の状態に戻ります。

- 画面表示でアラーム連動のライブ画面数が全画面に設定されている場合、ライブビューページは1つのウィンドウでライブビデオを再生します。複数のカメラが連動している場合、ライブ映像は5秒で切り替わります。

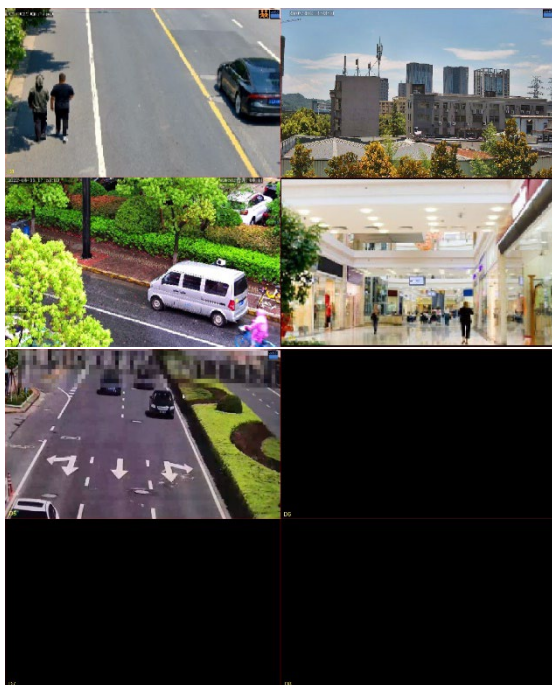


- 画面表示でアラーム連動のライブ画面数が4分割に設定されている場合、ライブビューページで各カメラのライブビデオを4分割して再生します。4台以上のカメラが連動している場合、ライブビデオは5秒単位で切り替わります。

3台のカメラを連動させたライブビューページ：



5 台のカメラを連動させたライブビューページ：



- 画面表示でアラーム連動のライブ画面数が9画面に設定されている場合、ライブビューページで各カメラのライブビデオを9分割して再生します。9台以上のカメラが連動している場合、ライブビデオは5秒単位で切り替わります。

アラーム出力

IPC等のデバイスがNVRからアラーム出力を受けると、トリガーされアラームを発します。

The screenshot shows the '連動動作' (Linked Action) configuration window. The 'アラーム出力' (Alarm Output) tab is selected. It contains checkboxes for 'ブザー' (Buzzer), 'Eメール送信' (Email Send), and 'ポップアップウィンドウ' (Pop-up Window). Below these is a row of checkboxes for alarm output destinations: 'すべて' (All), 'A->1', 'D2->1', and 'D4->1'. At the bottom are buttons for '適用' (Apply), '確認' (Confirm), and '取消' (Cancel).

アラーム音

アラームが発報されると、選択したカメラは音声アラームを再生します。この動作は、アラーム音に対応したカメラにのみ使用できます。

The screenshot shows the '連動動作' (Linked Action) configuration window, 'アラーム音' (Alarm Sound) tab. The 'アラーム音' (Alarm Sound) checkbox is checked. Below it, 'モードを選択' (Select Mode) shows 'デイ/ナイトモード' (Day/Night Mode) and 'カスタムモード' (Custom Mode) options. A '曜日選択' (Day Selection) dropdown is set to '月' (Monday). A table for '開始時刻' (Start Time), '終了時刻' (End Time), '音声' (Sound), and '繰り返し' (Repeat) is shown with four rows, all set to '00:00' to '23:59', '1.警戒エリアです。' (1.警戒エリアです。), and '3' respectively. At the bottom are checkboxes for 'コピー先' (Copy to) and days of the week. Buttons for '適用' (Apply), '確認' (Confirm), and '取消' (Cancel) are at the bottom.

この動作は次のように設定します。

1. **アラーム音**チェックボックスを選択し、アラームモードを選択し、必要に応じて他のパラメータを設定します。

モード	説明
日中/夜間モード	アラーム音を有効にする日付と時間(昼/夜)を選択します。  メモ カメラは周囲の明るさに応じて、自動的に昼/夜モードに切り替わります。詳しくは、ネットワークカメラマニュアルをご覧ください。
カスタムモード	アラーム音を有効にする日付と時間(開始/終了時間)を選択します。  メモ 1日4回までとし、時間帯の重複はできません。

音声	アラームが発令されると、カメラで再生する音声ファイルを選択します。デフォルトでは、13のオーディオファイルが利用できます。カメラのWebインターフェースで音声ファイルを設定することができます。  メモ カメラは周囲の明るさに応じて、自動的に昼/夜モードに切り替わります。詳しくは、ネットワークカメラマニュアルをご覧ください。
リピート	アラームが発令されるとき再生する音声ファイルの回数を設定します。範囲：1～50。

- 別の日に同じ設定を適用するには、**コピー先**の後、希望の日を選択します。
- 確認**をクリックします。

目覚ましライト

アラームが発報されると、選択したカメラのホワイトLEDが一定時間点滅します。この動作は、アラームライトに対応したカメラにのみ使用できます。



この動作は次のように設定します。

- 目覚ましライト**チェックボックスを選択し、アラームモードを選択し、必要に応じて他のパラメータを設定します。

モード	説明
日中/夜間モード	アラームライトを有効にする日付と時間(昼/夜)を選択します。  メモ カメラは周囲の明るさに応じて、自動的に昼/夜モードに切り替わります。詳しくは、ネットワークカメラマニュアルをご覧ください。
カスタムモード	アラームライトを有効にする日付と時間(開始/終了時間)を選択します。  メモ 1日4回までとし、時間帯の重複はできません。
点滅時間	アラームが発報されると照明を点滅させる時間を設定します。

- (オプション)別の日に同じ設定を適用するには、**コピー先**の後、希望の日を選択します。
- 確認**をクリックします。

5.1.2 スケジュール

NVRがアラームを受信し、事前に定義されたアラーム連動動作を実行するタイミングを決定するために、検知スケジュールを設定します。

特定の NVR では、**スケジュール**ページに以下のように表示されます。

現在のカメラ	D3	
曜日選択	月	
番号	開始時刻	終了時刻
1	00 00	24 00
2	00 00	00 00
3	00 00	00 00
4	00 00	00 00

コピー先 ☐すべて ☐月 ☐火 ☐水 ☐木 ☐金 ☐土 ☐日 ☐休日

適用 確認 取消

5.1.3 顔検知

顔検知は、指定の検知エリアで人の顔を検知して取得します。



カメラ側分析とNVR側分析では、対応する機能やパラメータが異なります。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **顔認識**を選択し、 をクリックして設定します。

VCA設定 顔検知

現在のカメラ D1(IP Camera 01)

検知範囲 ☒全画面表示 ☐エリアの指定

範囲指定

顔検知感度

連動動作

スケジュール

アドバンスド

マスク未着用検出の設定

マスク未着用検出を有効にします ☐

連動動作

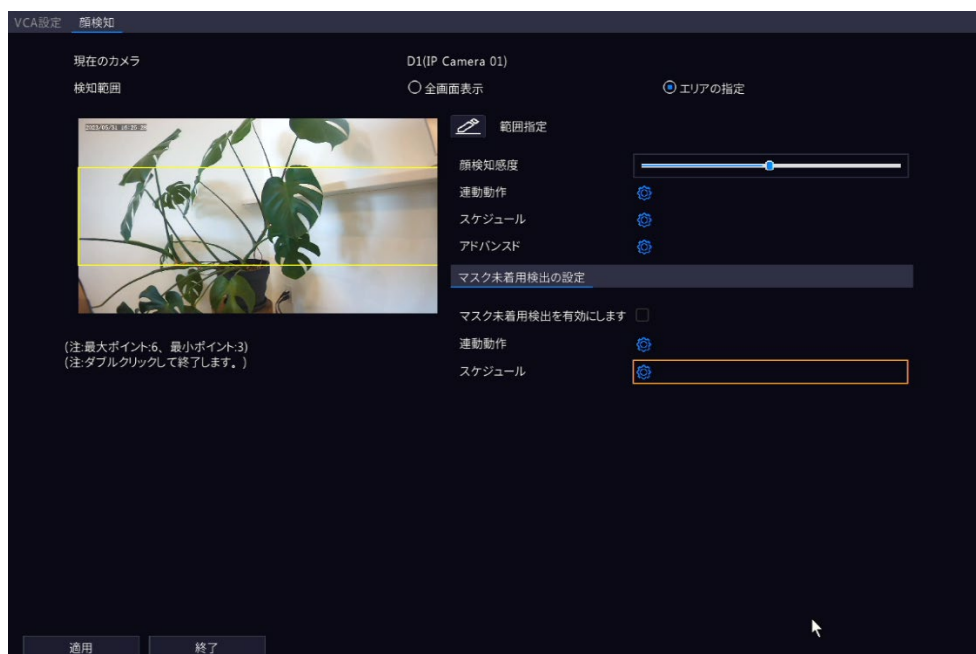
スケジュール

(注:最大ポイント:6、最小ポイント:3)
(注:ダブルクリックして終了します。)

適用 終了

4. 検知範囲を設定します。検知範囲は1つだけ許可されます。
 - 全画面表示：ライブビデオ内のすべての顔を検知します。

- エリアの指定：ライブビデオの指定した範囲内の顔を検知します。**範囲指定**を選択し、をクリックすると、左側のプレビューウィンドウに検出ボックスが表示されます。必要に応じて、エリアの位置を調整したり、エリアを描画することができます。



- 領域の位置を調整します。エリアのボーダーをポイントし、目的の位置までドラッグします。
 - 検知エリアを描きます。画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
5. スライダーをドラッグして、顔検知の感度を設定します。感度が高くなるほど、顔が検知される可能性が高くなります。感度が低くなるほど、横顔やぼやけた顔が検知される可能性が低くなります。
 6. アラーム連動動作と警戒スケジュールを設定します。
 7. **スケジュール**の をクリックし、必要に応じてパラメータを設定してから**確認**をクリックします。

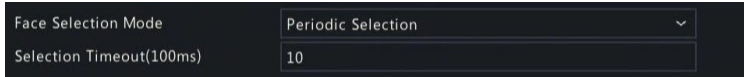
特定のNVRでは、アドバンスドページに以下のように表示されます。

アドバンスド

最小瞳孔間距離(px)	56
スナップショット数	5
顔の選択を有効	☒
顔選択モード	効果優先
選択した写真の数量	1

注: 最小瞳孔間距離範囲: 28px - 210px

確認 取消

パラメータ	説明
最小瞳孔間距離(ピクセル)	2つの瞳孔間の最小距離(ピクセル単位で測定)です。瞳孔間距離がこの値よりも短い顔は取得されません。  メモ デフォルト値は画像解像度によって異なり、有効範囲はNVRモデルによって異なります。
スナップショット数	検出ルールがトリガーされたときにキャプチャされるスナップショットの枚数です。範囲:1~30.デフォルト:5.
顔選択の有効化	報告する顔スナップショットを選択するかどうかを選択します。
顔選択モード	- 効果優先: 選択した写真の数量を設定すると、NVRは顔が検出されたときにキャプチャされたすべてのスナップショットの中から指定された枚数の最も画質の良いスナップショットを選択して報告します。 - 速度優先: 選択した写真の数量と選択タイムアウトを設定すると、NVRは顔が検出された瞬間から選択タイムアウトが報告されるまで、指定された数のスナップショットを選択します。範囲:1~1800。  - 定期選択: 選択タイムアウトを設定し、例えば、600msと設定すると、NVRは600msごとに顔のスナップショットを選択して報告します。 
選択した写真の数量	選択する顔スナップショットの枚数です。範囲:1~3.このパラメータはデフォルトで1に設定されており、一部の機種では変更できません。
最小瞳孔間距離範囲	NVRは、 最小・最大瞳孔間距離 以内の顔のみキャプチャします。範囲:20~500。
マスク未着用検出設定	特定のIPCではマスク未着用検知が可能です。

8. 適用をクリックします。

5.1.4 クロスライン検知

クロスライン検知は、ユーザーが指定した仮想線を指定方向に横切る物体を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影しアラームを報告します。

 **メモ**

カメラ側分析とNVR側分析では、対応する機能やパラメータが異なります。

クロスライン検知の設定

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **クロスライン検知**を選択し をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

パラメータ	説明
検知ライン	ルール1を選択し、をクリックしてから左の画像をクリックし、ドラッグして検出ラインを描きます。ラインのデフォルトはA<->B方向です。必要に応じて、修正することができます。
トリガー方向	物体がラインを横切る方向を選択して、アラームをトリガーします。 - A->B: クロスラインアラームは、AからBへのラインを横切る物体を検知したときに発令します。 - B->A: クロスラインアラームは、BからAへのラインを横切る物体を検知したときに発令します。 - A<->B (デフォルト): クロスラインアラームは、AからBまたはBからAへのラインを横切る物体を検知したときに発令します。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほどクロスライン動作が検出されやすくなりますが、誤報率も高くなります。
優先度	検出ルールの優先度を高・中・低から選択します。 NVRは、デフォルトで最初にトリガーされたルールを検出します。複数のルールが同時にトリガーされた場合、NVRはより優先度の高いルールを検出します。
対象物タイプ	自動車・二輪車・歩行者など、検出する対象物を選択します。

アドバンスドタブでは、サイズによるオブジェクトのフィルタリングができます。例えば、**最大サイズ**と**最小サイズ**を設定してから検出オブジェクトとして**自動車**を選出した場合、最大サイズより大きく、最小サイズより小さい自動車は検出されません。



- (1) 対象物のタイプを選択し、☒をクリックします。**最大サイズ**ボックスと**最小サイズ**ボックスが左のプレビューウィンドウに出現します。
- (2) 以下のようにボックスの大きさを調整することで、最大/最小サイズを変更します。ボックスのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。

メモ

- ・ 対象物を検出対象物として選択した後、最大サイズと最小サイズ設定が有効になります。
- ・ 最大サイズの幅と高さは、最小サイズの幅と高さより大きくなければなりません。

5. アラーム連動動作と警戒スケジュールを設定します。詳細については、[アラーム連動動作と検知スケジュール](#)をご覧ください。
6. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックして、希望の設定とカメラを選択し、**確認**をクリックします。
7. **適用**をクリックします。

リアルタイムスナップショットの表示

1. ライブビューページで右クリックし、**プレビューモード**> **スマート**を選択すると、右側にリアルタイムのスナップショットが表示されます。
2. スナップショットをクリックすると、詳細情報を表示できます。

5.1.5 侵入検知

侵入検知は、ユーザーが指定したエリアに侵入し、あらかじめ設定した時間に滞在する物体を検知するものです。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

メモ

カメラ側分析とNVR側分析では、対応する機能やパラメータが異なります。

侵入検知の設定

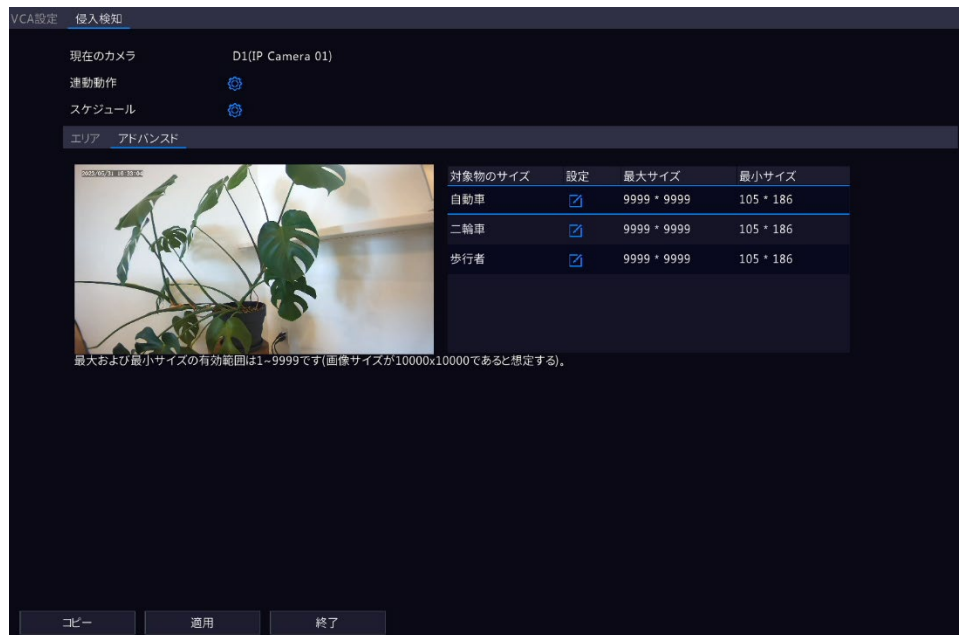
1. メニュー>VCA>VCA設定に進みます。
2. カメラを選択します。
3. 侵入検知を選択し、 をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

パラメータ	説明
検知	ルール1を選択しをクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。 画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。  メモ 範囲指定のルールについては、をクリックして検知エリアを再描画することができます。検知エリアを削除するにはをクリックします。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほど、侵入行動も検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
時間しきい値:	スライダーをドラッグして、時間しきい値を設定します。 設定した時間、検知範囲に物体が滞在すると、侵入アラームがトリガーされます。
パーセンテージ	スライダーをドラッグして、割合を設定します。 検知エリアサイズに対する物体サイズの比率が設定値に達すると、侵入アラームがトリガーされます。
優先度	検出ルールの優先度を高・中・低から選択します。 NVRは、デフォルトで最初にトリガーされたルールを検出します。複数の ルールが同時にトリガーされた場合、NVRはより優先度の高いルールを検出します。
オブジェクトタイプ	自動車・二輪車・歩行者、検出する対象物を選択します。

アドバンスドでは、サイズによるオブジェクトのフィルタリングができます。例えば、**最大サイズ**と**最小サイズ**を設定してから検出オブジェクトとして**自動車**を選出した場合、最大サイズより大きく、最小サイズより小さい自動車は検出されません。



対象物のタイプを選択し、☒ をクリックします。**最大サイズ**ボックスと**最小サイズ**ボックスが左のプレビューウィンドウに出現します。

(1) 以下のようにボックスの大きさを調整することで、最大/最小サイズを変更します。ボックスのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。

メモ

- 対象物を検出対象物として選択した後、Max. SizeとMin. Size設定が有効になります。
- 最大サイズの幅と高さは、最小サイズの幅と高さより大きくなければなりません。

- アラーム連動動作と警戒スケジュールを設定します。詳細については、[アラーム連動動作と検知スケジュール](#)をご覧ください。
- 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックして、希望の設定とカメラを選択し、**確認**をクリックします。
- 適用**をクリックします。

リアルタイムスナップショットの表示

- ライブビューページで右クリックし、**プレニューモード > スマート**を選択すると、右側にリアルタイムのスナップショットが表示されます。
- スナップショットをクリックすると、詳細情報を表示できます。

5.1.6 エリア進入検知

エリア進入検知は、ユーザーが指定したエリアに入る物体を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

メモ

カメラ側分析とNVR側分析では、対応する機能やパラメータが異なります。

エリア進入検知の設定

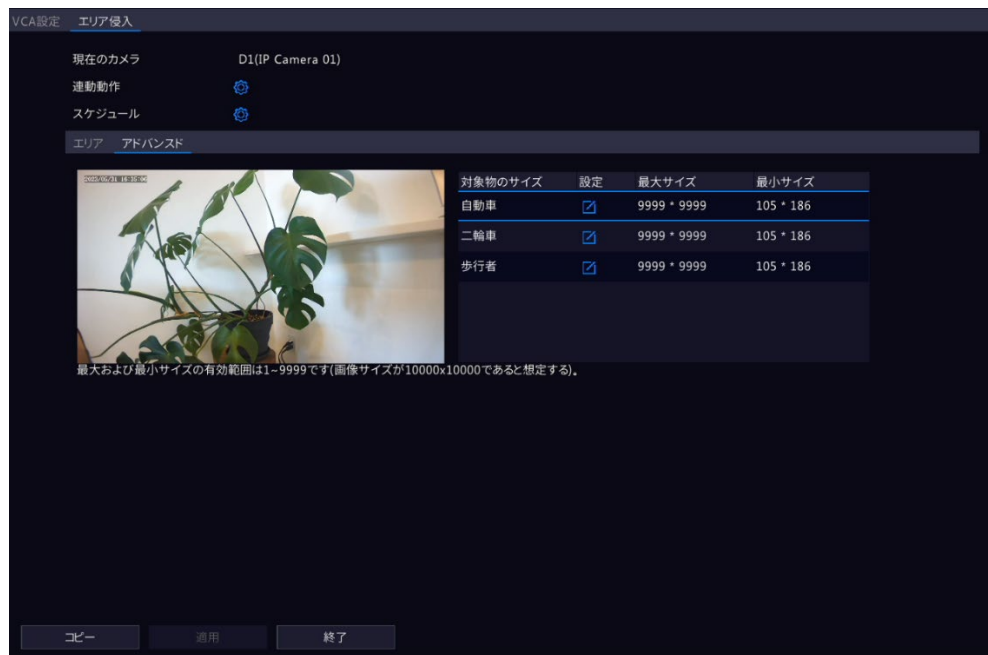
1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **エリア**を選択し、 をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

パラメータ	説明
検知エリア	ルール1を選択し  をクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。 画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほど、進入行動も検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
優先度	検出ルールの優先度を 高・中・低 から選択します。 NVRは、デフォルトで最初にトリガーされたルールを検出します。複数の ルールが同時にトリガーされた場合、NVRはより優先度の高いルールを検出します。
対象物タイプ	自動車・二輪車・歩行者 など、検出する対象物を選択します。

アドバンスドでは、サイズによるオブジェクトのフィルタリングができます。例えば、**最大サイズ**と**最小サイズ**を設定してから検出オブジェクトとして**自動車**を選出した場合、最大サイズより大きく、最小サイズより小さい自動車は検出されません。



- (1) 対象物のタイプを選択し、☒をクリックします。**最大サイズ**ボックスと**最小サイズ**ボックスが左のプレビューウィンドウに出現します。
- (2) 以下のようにボックスの大きさを調整することで、最大/最小サイズを変更します。ボックスのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。

メモ

- 対象物を検出対象物として選択した後、Max. SizeとMin. Size設定が有効になります。
- 最大サイズの幅と高さは、最小サイズの幅と高さより大きくなければなりません。

5. アラーム連動動作と警戒スケジュールを設定します。
6. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックして、希望の設定とカメラを選択し、**確認**をクリックします。
7. **適用**をクリックします。

リアルタイムスナップショットの表示

1. ライブビューページで右クリックし、**プレビューモード > スマート**を選択すると、右側にリアルタイムのスナップショットが表示されます。
2. スナップショットをクリックすると、詳細情報を表示できます。

5.1.7 エリア退出検知

エリア退出検知は、ユーザーが指定したエリアを離れる物体を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

メモ

カメラ側分析とNVR側分析では、対応する機能やパラメータが異なります。

エリア退出検知の設定

1. **メニュー > VCA > VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。



3. エリア退出を選択し  をクリックして設定します。
4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

パラメータ	説明
エリア	ルール1を選択し  をクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。 画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほど、退出行動も検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
優先度	検出ルールの優先度を高・中・低から選択します。 NVRは、デフォルトで最初にトリガーされたルールを検出します。複数の ルールが同時にトリガーされた場合、NVRはより優先度の高いルールを検出します。
対象物タイプ	自動車・二輪車・歩行者 など、検出する対象物を選択します。

5. **アドバンス**タブでは、サイズによるオブジェクトのフィルタリングができます。例えば、**最大サイズ**と**最小サイズ**を設定してから検出オブジェクトとして**自動車**を選出した場合、最大サイズより大きく、最小サイズより小さい自動車は検出されません。



- (1) 対象物のタイプを選択し、をクリックします。**最大サイズ**ボックスと**最小サイズ**ボックスが左のプレビューウィンドウに出現します。
- (2) 以下のようにボックスの大きさを調整することで、最大/最小サイズを変更します。ボックスのハンドルをポイントし、ドラッグしてサイズを変更します。

メモ

- 対象物を検出対象物として選択した後、最大サイズと最小サイズ設定が有効になります。
- 最大サイズの幅と高さは、最小サイズの幅と高さより大きくなければなりません。

6. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
7. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックして、希望の設定とカメラを選択し、**確認**をクリックします。
8. **適用**をクリックします。

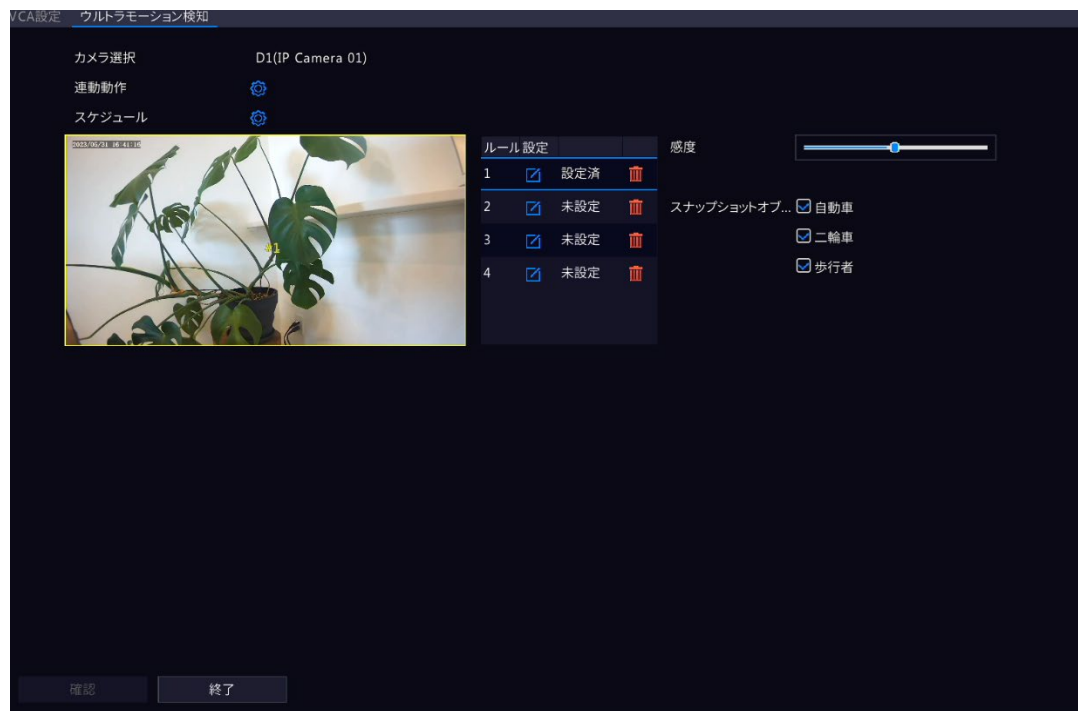
リアルタイムスナップショットの表示

1. ライブビューページで右クリックし、**プレビューモード>スマート**を選択すると、右側にリアルタイムのスナップショットが表示されます。
2. スナップショットをクリックすると、詳細情報を表示できます。

5.1.8 ウルトラモーション検知

ウルトラモーション検知は、ユーザーが指定したエリア内の自動車や歩行者の動きを検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. ウルトラモーション検知選択し、をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

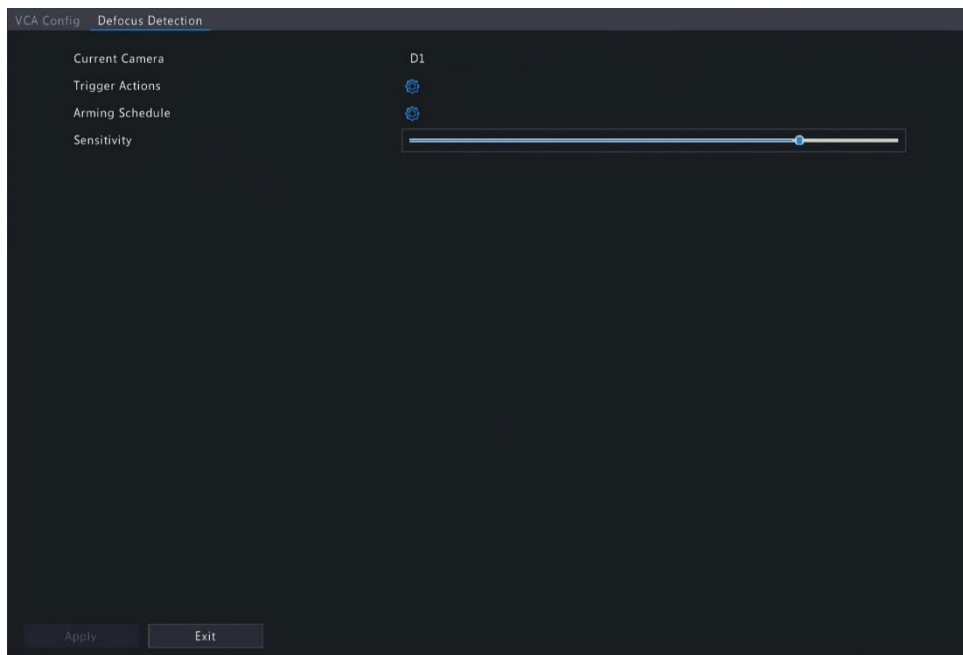
パラメータ	説明
ルール設定	ルール1を選択し  をクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。
感度	スライダーをドラッグして、検知の感度を設定します。 感度が高いほど、動体も検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
最小アラーム間隔(秒)	スライダーをドラッグして、最小アラーム間隔を設定します。 歩行者や自動車が検知エリアに入ると、すぐにアラームが作動してレポートされ、設定の間隔が経過してから新たなアラームがレポートされます。推奨値:6秒。
スナップショットの対象	自動車と歩行者 を含むスナップショットの対象を選択します。

5. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
6. **適用**をクリックします。

5.1.9 デフォーカス検知

デフォーカス検出レンズのデフォーカスを検出します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進み、カメラを選択します。
2. **デフォーカス検知**を選択し、 をクリックして設定します

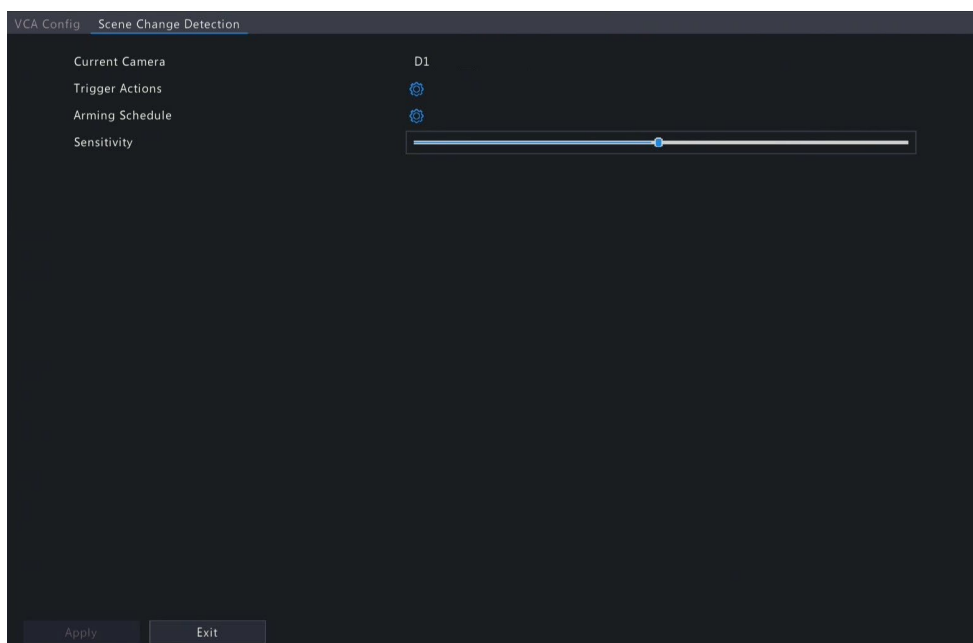


3. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。詳細については、[アラーム連動動作と検知スケジュール](#)をご覧ください。
4. スライダーをドラッグして、感度を設定します。感度が高いほど、フォーカスも検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
5. **適用**をクリックします。

5.1.10 シーン変更検知

シーン変更検知を使用して、意図的なカメラの動きなどの外部要因による監視環境の変化を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影しアラームを報告します。

1. **メニュー> VCA> VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **シーン変更通知**を選択し、 をクリックして設定します。

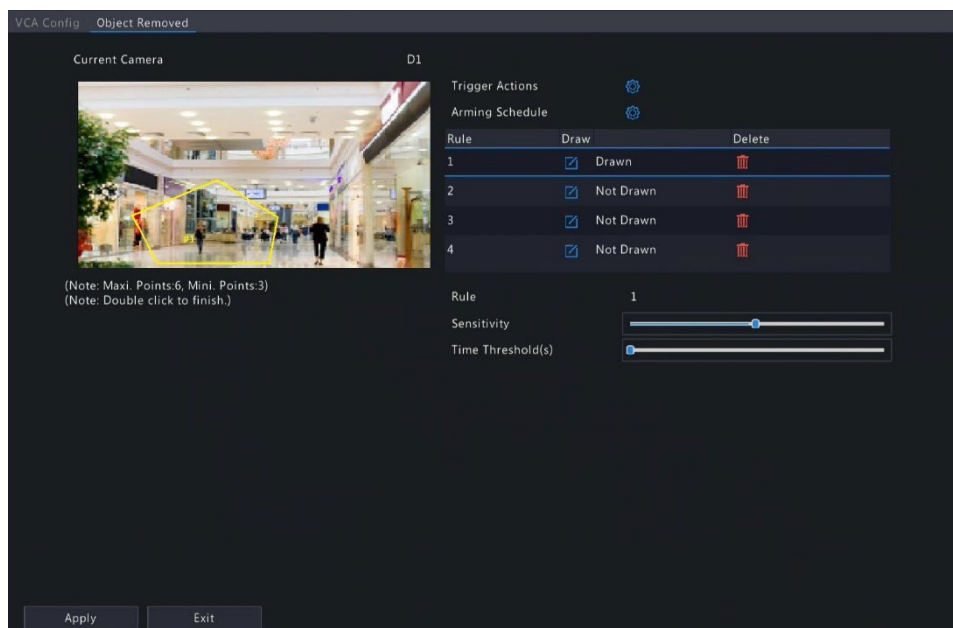


4. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
5. スライダーをドラッグして、感度を設定します。感度が高いほどシーン変更行動が検出されやすくなりますが、誤報率も高くなります。
6. **適用**をクリックします。

5.1.11 対象物移動

対象物移動は、設定した時間にユーザーが指定したエリアから除去された物体を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **対象物移動**を選択し、 をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

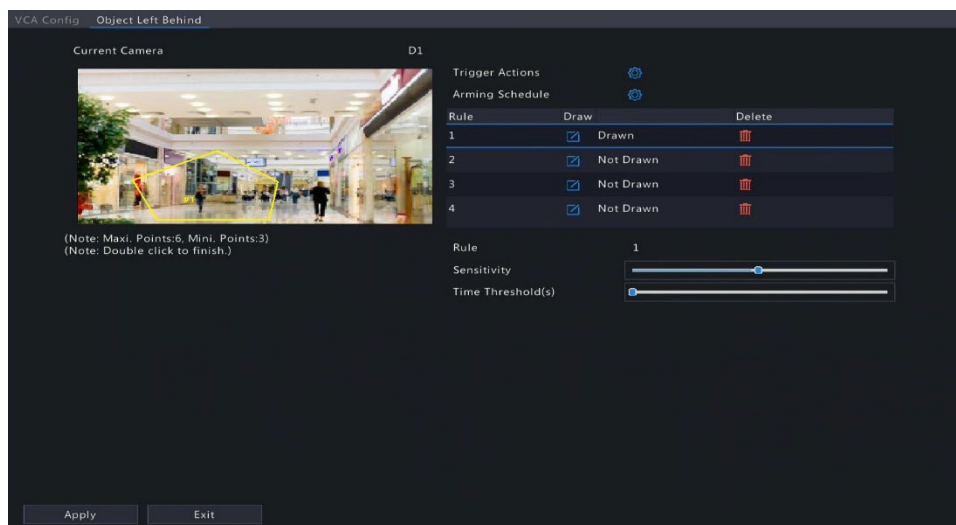
パラメータ	説明
エリア	ルール1を選択し  をクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほど物体除去が検出されやすくなりますが、誤報率も高くなります。
時間しきい値:	スライダーをドラッグして、時間しきい値を設定します。 設定した時間、検知エリアから物体が除去されると、アラームが発生します。

5. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
6. **適用**をクリックします。

5.1.12 置き去り検知

置き去り検知は、設定した時間にユーザーが指定したエリアに置き忘れた物体を検知します。検知ルールがトリガーされると、NVRはスナップショットを撮影し、アラームを報告します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **置き去り検知**を選択し、 をクリックして設定します。



4. 検知ルールを設定します。4つの検知ルールは個別に設定する必要があります。以下の例ではルール1を取り上げます。

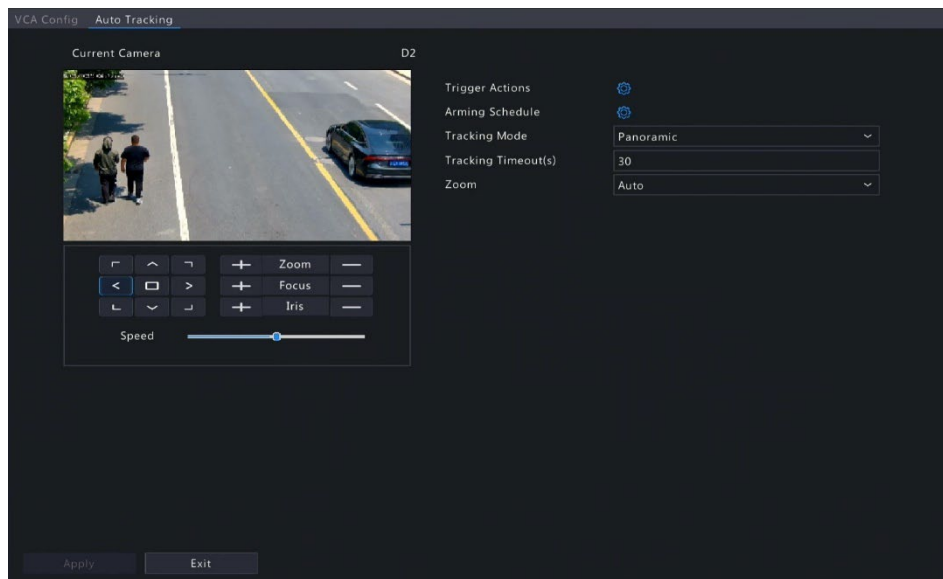
パラメータ	説明
エリア	ルール1を選択し  をクリックして、左のプレビュー ウィンドウで検知エリアを描きます。画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
感度	スライダーをドラッグして、感度を設定します。 感度が高いほど、置き忘れ物も検知しやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。
時間しきい値:	スライダーをドラッグして、時間しきい値を設定します。 設定した時間、検知エリアに置き忘れがあると、アラームが発生します。

5. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
6. **適用**をクリックします。

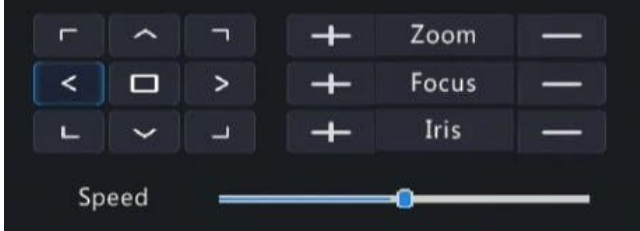
5.1.13 自動追跡

自動追跡は、ライブビデオ内の動体を検知して、最初に検知された動体を自動的に追跡します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **自動追跡**を選択し、 をクリックして設定します。



4. 追跡パラメータを設定します。

パラメータ	説明
追跡エリア	PTZ操作エリアでは、PTZコントロールボタンを使って、撮影角度、ズーム、フォーカス、アイリス、回転速度などのトラッキングエリアを調整することができます。 
トラッキングモード	パノラマ: 追跡エリアに現れた対象物を、追跡エリアから消えるまで追跡します。
追跡タイムアウト(秒)	最大追跡時間を設定します。対象物が消えるか、設定した時間が経過すると、追跡を停止します。範囲: 1~300 デフォルト: 30
ズーム	追跡ズーム比を選択: 自動 または Current Zoom 。デフォルトは 自動 です。 - 自動: 追跡距離に応じてズーム比を自動調整し、より対象物の行動にフォーカスした撮影をすることができます。 - 現在のズーム: 対象物の追跡時のズーム比を維持し、監視シーン全体をよりフォーカスします。

5. アラーム起動型動作と警戒スケジュールを設定します。
6. **適用**をクリックします。

5.1.14 人数カウント

人流カウントは、ユーザーが定義したエリア内で、指定したトリップワイヤを通過する人をカウントします。

人数カウントを設定する

1. **メニュー> VCA> VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. **人数カウント**を選択し、 をクリックして設定します



4. 人数カウントルールを設定します。

パラメータ	説明
範囲指定開始	 をクリックして左のプレビューウィンドウで検知エリアを描きます。 画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
範囲指定	 をクリックして左のプレビューウィンドウでトリップワイヤを描きます。 トリップワイヤは1本のみ許可されます。
矢印方向	入力方向を設定します。 • A->B : AからBが入口、BからAが出口です。 • B->A : BからAが入口、AからBが出口です。
カウント形式	カウントタイプの選択：合計、立ち入り、退出から選択します。合計がデフォルトのカウントのタイプです。 • 合計：検知エリアへの入退場者数を表示します。 • 立ち入り入場者：検知エリアへの入場者数を表示します。人がトリップワイヤを矢印の方向に横切り、検知エリアを通過すると入場とカウントされます。 • 退出：検知エリアへの退場者数を表示します。対象物がトリップワイヤを矢印と反対の方向に横切り、検知エリアを通過すると退場とカウントされます。

	 メモ デフォルト値は画像解像度によって異なり、有効範囲はNVRモデルによって異なります。 使用前に、メニュー＞カメラステータス＞OSDで人数カウントOSDを有効にする必要があります。 検知エリア内をうろつく人、トリップワイヤのみを横切る人、検知エリアのみを横切る人はカウントされません。
レポート間隔（秒）	人数統計情報をレポートする時間間隔を設定します。デフォルト：60 範囲：1～60  メモ NVRは、設定された間隔でアップリンクプラットフォームに人数統計情報を報告します。アップリンクプラットフォームは、統計情報を受信するために、この機能をサブスクライブする必要があります。
クリアスケジュール有効化	チェックボックスを選択し、人数カウント統計をクリアする時間を設定します。
クリア時刻	デフォルトで00:00:00に設定されています。必要に応じて修正することができます。NVRは、毎日設定された時間に、OSDの人物カウント統計をクリアします。この操作は統計およびデータレポートには影響しません。
カウント結果の削除	 をクリックすると、ライブビデオに表示されている人数カウント統計がすぐにクリアされます。この操作は、人数カウントOSDにのみ影響し、統計やデータレポートには影響しません。

5. 検知エリア内に人が一定数以上いる場合にアラームをトリガーするには、**メニュー＞アラーム＞人体検出アラーム**で**人体検出アラーム**を有効にして設定することができます。
6. **適用**をクリックします。

リアルタイム統計の表示

ライブビューページで右クリックし、**プレビューモード＞スマート**を選択すると、右にリアルタイム統計が表示されます。

5.1.15 群衆密度監視

群衆密度監視は、指定されたエリアにいる人数を監視し、設定されたアラームしきい値を超えた場合にアラームを発行します。

1. **メニュー>VCA>VCA設定**に進みます。
2. カメラを選択します。
3. 群衆密度監視を選択し、 をクリックして設定します。



4. 群衆密度監視ルールを設定します。

パラメータ	説明
検知エリア	デフォルトでは、左のプレビューウィンドウに検出ボックスが表示されます。必要に応じて、位置を調整したり、エリアを描画することができます。検知エリアは1つだけ許可されます。 - デフォルトの検知エリアの位置を調整: エリアのボーダーをポイントし、目的の位置までドラッグします。 - 検知エリアを描く:  をクリックします。画像上でクリックし、ドラッグして線を引きます。必要に応じて、この操作を繰り返して、さらに線を引き、囲まれた形を形成します。最大6ラインが追加できます。
レポート間隔(秒)	群衆密度統計をレポートする時間間隔を設定します。デフォルト: 60 範囲: 1 ~ 60 デバイスは、設定された間隔でアップリンクプラットフォームに群衆密度統計を報告します。アップリンクプラットフォームは、統計情報を受信するために、この機能をサブスクライブする必要があります。
マイナーアラーム	指定エリアの人数が設定値を超えた場合、マイナーアラームが発生します。マイナーアラームチェックボックスを選択し、マイナーアラームを作動させる人数を設定します。 範囲: 1 ~ 40
メジャーアラーム	指定エリアの人数が設定値を超えた場合、主要アラームが発生します。主要アラームの値はマイナーアラームの値より大きくなければなりません。メジャーアラームチェックボックスを選択し、主要アラームを作動させる人数を設定します。 範囲: 1 ~ 40

クリティカルアラーム	指定エリアの人数が設定値を超えた場合、重大アラームが発生します。重大アラームの値は、メジャーアラームの値より大きくなければなりません。 クリティカルアラームチェックボックスを選択し、重大アラームを作動させる人数を設定します。 範囲:1~40
------------	---

- マイナーアラーム、メジャーアラーム、クリティカルアラームの**アラーム音**を有効にし、アラーム音声と再生時間を設定すると、カメラはアラーム発生時にアラーム音声を再生します。
- スケジュールを設定します。
- 適用**をクリックします。

5.2 VCA検索

顔写真スナップショット、顔比較結果、車両スナップショット、VCAイベントスナップショット、人数カウント統計を検索します。

5.5.1 顔スナップショット検索

顔スナップショットを検索します。

顔スナップショットの検索

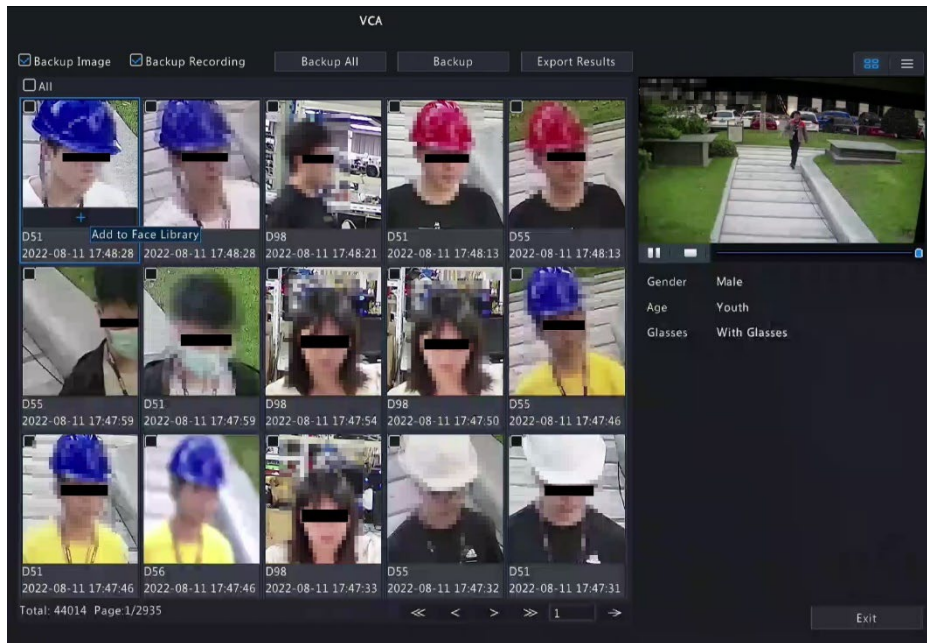
- メニュー> VCA> VCA検索> 顔検知検索**に進みます。

- 検索条件を設定します。

パラメータ	説明
カメラの選択	検索するカメラを選択します。
マスク	不明、マスクなし、マスク着用から選択します。
開始時刻/終了時刻	顔スナップショットを検索する時間を指定します。  メモ 以前のスナップショットや録画がストレージがいっぱいになると上書きされる可能性があるため、検索範囲は5カ月未満が推奨されます。

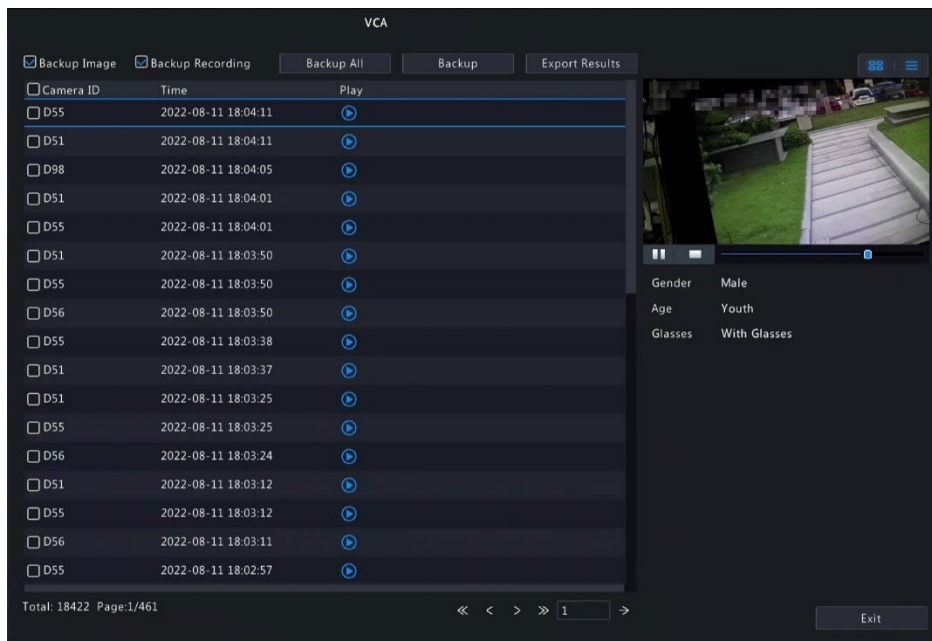
3. **検索**をクリックします。検索結果は、デフォルトでサムネイル表示されます。  をクリックすると、リストモードに切り換わります。

• サムネイル



- デフォルトでは、右側に10秒間のビデオ（最初の画像の前5秒と後5秒）と最初の画像の詳細情報が表示されます。
- 任意の画像をクリックし、10秒間のビデオとその詳細情報を表示することができます。

• リスト



- デフォルトでは、右側に10秒間のビデオ（最初の項目の前5秒と後5秒）と最初の項目の詳細情報が表示されます。
- 任意の項目をクリックし、 または  をクリックすると、10秒間のビデオとその詳細情報を表示することができます。

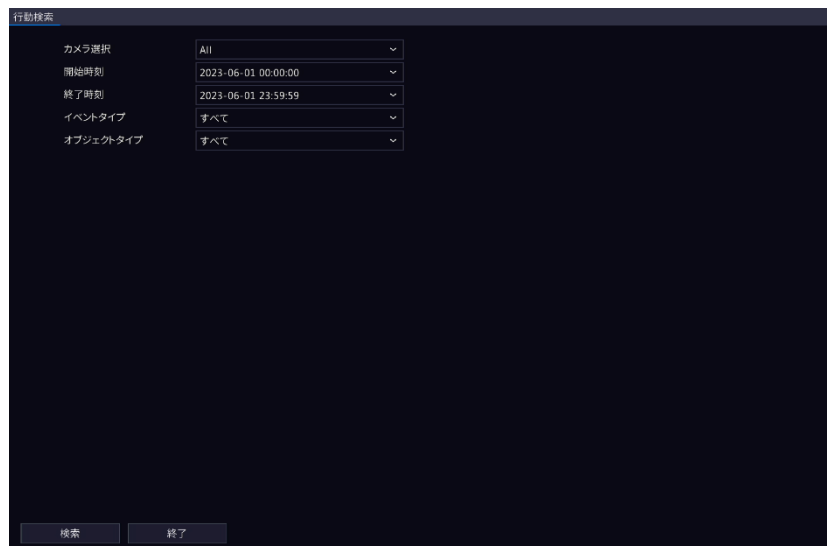
その他の操作

操作	説明
バックアップ/すべてをバックアップ	- 必要に応じて、バックアップ画像または(および)バックアップ録画にチェックを入れます。デフォルトでは、両方とも有効です。 バックアップ画像: 選択した画像を外部デバイスにバックアップします。 バックアップ録画: 選択した画像の10秒間のビデオを外部デバイスにバックアップします。 すべてバックアップまたはバックアップで選択します。 すべてをバックアップ: すべての検索結果をバックアップします。すべてバックアップをクリックします。 バックアップ: 指定した検索結果をバックアップします。バックアップしたい検索結果を選択しバックアップをクリックします。
結果をエクスポート	- 必要に応じて、すべてバックアップまたはバックアップを有効にし、結果をエクスポートにチェックを入れます。 - パーティションを選択し、結果をエクスポートをクリックすると、検索結果を外部ストレージデバイスにエクスポートします。

5.5.2 行動検索

クロスライン検知、侵入検知、エリア侵入、エリア退出、ウルトラモーション検知などのVCA動作に基づき画像を検索します。検索に対応する動作は、NVRモデルによって異なります。

1. **メニュー> VCA> VCA検索> 行動検索**に進みます。

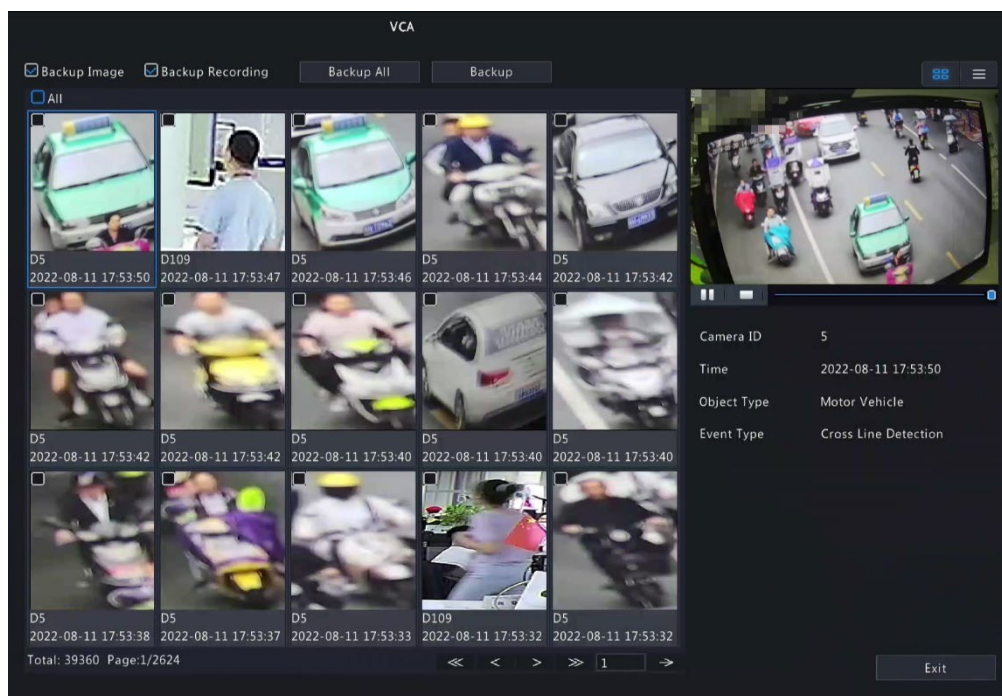


2. 検索条件を設定します。

パラメータ	説明
カメラの選択	検索するカメラを選択します。
開始時刻/終了時刻	検索する時間を指定します。  メモ 以前のスナップショットや録画がストレージがいっぱいになると上書きされる可能性があるため、検索範囲は5カ月未満が推奨されます。
イベントタイプ	検索するイベントタイプを入力します。
対象物タイプ	検索する対象物タイプを入力: 自動車、二輪車、歩行者から選択します。

3. **検索**をクリックします。検索結果は、デフォルトでサムネイル表示されます。 をクリックすると、リストモードに切り換わります。

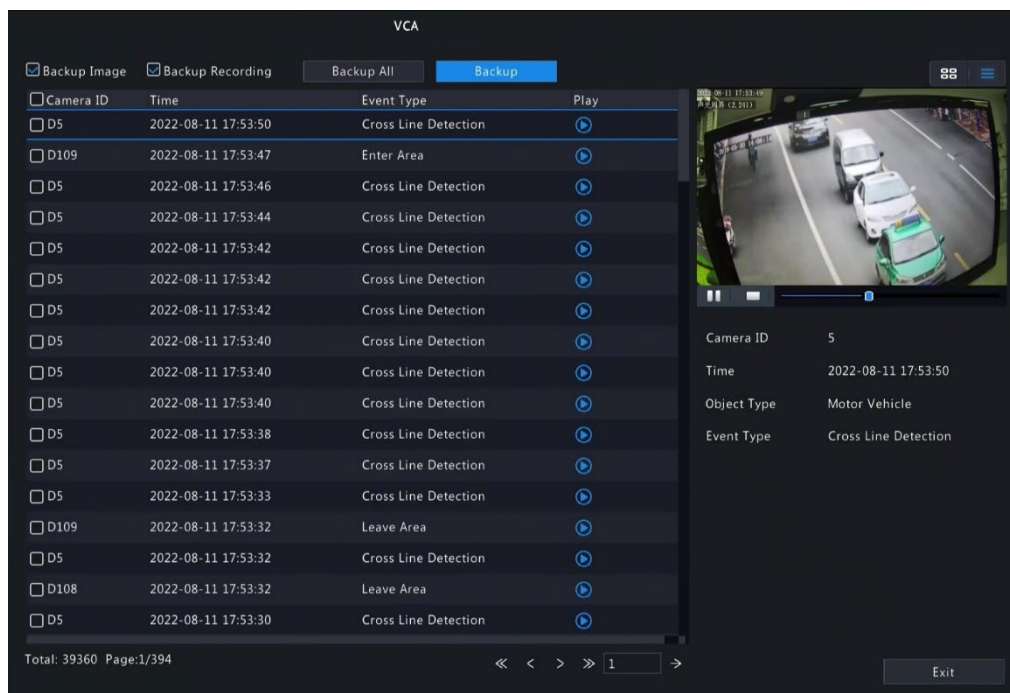
サムネイル



メモ

- デフォルトでは、右側に10秒間のビデオ(最初の画像の前5秒と後5秒)と最初の画像の詳細情報が表示されます。
- 任意の画像をクリックし、10秒間のビデオとその詳細情報を表示することができます。

リスト



- 検索結果をバックアップします。

5.5.3 人数カウントレポート

人数のカウントデータを検索します。日間/週間/月間/年間で、指定した時間帯に特定のエリアに入りした人数をカウントするレポートを表示することができます。

1. **メニュー>VCA>VCA検索>人数カウントレポート**に進みます。

人数カウントレポート

カウント形式: カメラ選択: カウント形式: レポートタイプ: 合計時間: 結果:

カメラステータス: All

合計: 毎日

2023 06 01 10

カウント

バックアップ

チャート

テーブル

人

立ち入り

人が退出しました

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 時

終了

2. 検索条件を設定します。

パラメータ	説明
カメラの選択	検索するカメラを選択します。
カウントの形式	検索するカウントタイプを入力: 合計、立ち入り、退出
レポートタイプ	表示するレポートタイプを選択: 毎日、毎週、毎月、毎年、毎時
合計時間	カウントする時間を選択します。

- レポートをチャートまたは表のどちらで作成するかを選択します。

• チャート表



Camera ID	Statistical Time	People Entered	People Exited
D58	11:00-12:00	1	0

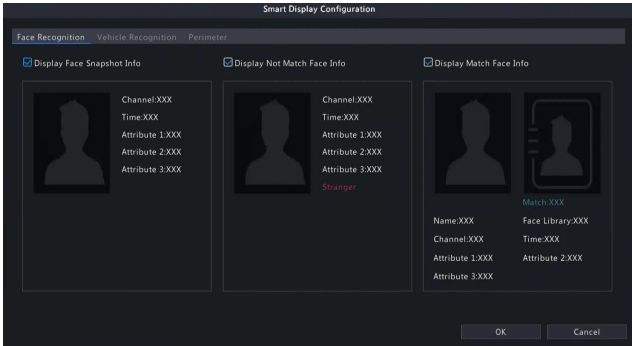
3. **バックアップ**をクリックして、レポートを .CSV ファイルとして外部ストレージデバイスにエクスポートします。チャート形式または表形式のレポートからエクスポートされるファイルの内容は同じです。

5.3 スマートプレビュー

VCA機能のうち、車両、顔、周辺、人の4つの主要カテゴリーのスナップショットや統計データをライブビューページで表示します。

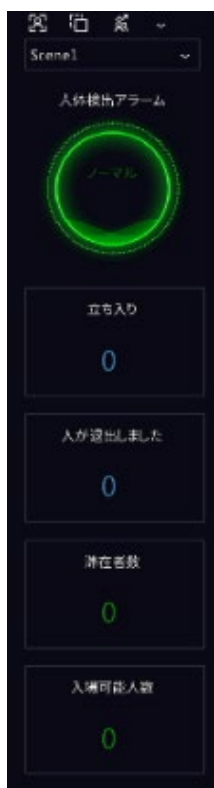
ライブビューページで右クリックし、**プレビューモード > スマート**を選択すると、右にリアルタイムスナップショットが表示されます。

メインインターフェース

アイコン	説明
	リアルタイムスナップショットを表示するイベントタイプを選択します。 
	顔認識、車両認識、周辺監視のスナップショット情報の表示モードを設定します。 
	VCA設定ページを開きます。
	ライブビューページに表示されるリアルタイムスナップショットを消去します。検索記録や統計情報には影響ありません。

人流カウント

入場者数/退場者数/現在許可されている人数/現在存在する人数など、人の流れの統計がリアルタイムで表示されます。



- ・  : 検知エリア内に存在する人数が設定されたしきい値を超えていません。  : 指定エリアに存在する人数が設定されたしきい値を超えた場合、アラームが発生します。
- ・  : 現在のページの人数カウントの統計情報をクリアします。この操作は、統計およびデータレポートには影響しません。

6 ネットワークの設定

IPアドレスなど、NVRのネットワークパラメータを設定します。



ネットワークインターフェース1のデフォルトのIPアドレスは192.168.1.30、ネットワークインターフェース2のIPアドレスは192.168.2.30です。

6.1 基本設定

ネットワーク、モバイルアプリ、DDNS、Eメールなどの設定を行います。

6.1.1 ネットワークの設定

NVRのIPアドレスとその他のネットワークパラメータを設定します。

1. **メニュー>ネットワーク>基本>ネットワーク**に進みます。

2. 各パラメータを設定します。

設定項目	説明
NIC選択	複数NIC対応のモデルで選択できます。
DHCP有効	チェックを入れるとDHCPが有効になります。
IPv4アドレス	IPv4のアドレスを入力します。
IPv4サブネットマスク	IPv4のサブネットマスクを入力します。
IPv4デフォルトゲートウェイ	IPv4のデフォルトゲートウェイを入力します。
IPv6モード	IPv6のモードを手動、DHCP、ルーター通知から選択します。
IPv6アドレス	IPv6のアドレスを入力します。
IPv6プリフィックス長	IPv6プリフィックス長さを設定します。
IPv6デフォルトゲートウェイ	IPv6のデフォルトゲートウェイを入力します。
MACアドレス	本機のMACアドレスを表示しています。
MTU	MTU値を入力します。

優先DNSサーバー	プライマリDNSサーバーアドレスを入力します。
代替DNSサーバー	セカンダリDNSサーバーアドレスを入力します。
PoE NIC IPアドレス	PoE内蔵モデルでPoE側のNICアドレスを設定します。

3. **適用**をクリックします。

6.1.2 EZCloud

EZCloudを使用すれば、スマートフォンやタブレットPC等でNVRを遠隔で管理操作することができます。

EZCloudの設定

1. **メニュー> ネットワーク> 基本> EZCloud**に進みます。デフォルトではEZCloudが有効になっています。



2. **アカウント無しで追加できる**にチェックを入れると、スマートフォン等で登録する際、アカウントを使用しないで接続できます。
3. **適用**をクリックします。
4. デバイスの状態を確認します。オンラインの場合、接続しているアカウントのユーザー名が表示されます。オフラインの場合、トラブルシューティングの参照用に、共通の原因が表示されます。
5. クラウドからNVRを削除するには**削除**をクリックします。

デバイスの追加

アプリまたはクラウドサイトでクラウドにNVRを追加します。

アプリにNVRを追加する

1. スマートフォンに専用アプリのEZViewまたはEZLiveをインストールし、QRコードを読み取ることで登録できます。以下、EZViewを例に説明します。
2. アプリを開き、クラウドアカウントの有無にかかわらず、NVRを追加します。

・クラウドアカウントで追加する：

クラウドアカウントをサインアップし、ログインしてNVRを追加します。

(1) **ログイン/サインアップ**をタップし、画面の指示に従って、サインアップとログインを行います。

(2) 画面のデバイスの**追加**または **+**をタップし、NVRを追加する方法を選択します。

• **クラウドアカウントなしで追加する：**

アプリを使ってQRコードをスキャンし、クラウドアカウントなしでNVRを追加します。

(1) **Try Now**をタップします。**ライブ画面**が表示されます。

(2) 追加または **+** をタップし指示に従って、QRコードを読み取ります。

(3) 登録コードが自動的に入力されます。デフォルトのユーザー名は「admin」です。

デバイスのパスワードを入力し、**Login**をタップします。



- クラウドアカウントなしでNVRを追加するには、NVRでEZCloudとアカウントなしで追加できるが有効になっており、NVRの管理者パスワードが強力なパスワードである必要があります。
- クラウドアカウントなしでNVRを追加した場合、アプリで一部の機能が使用できなくなります。アプリの全機能を使用するには、クラウドアカウントの登録が求められます。

• **クラウドサイトにNVRを追加する：**

(1) ウェブブラウザでEZCloudのウェブサイトアドレス（en.ezcloud.uniview.com）にアクセスします。

(2) **Sign Up**をタップし、画面の指示に従ってクラウドアカウントにサインアップします。

(3) **Device Management > My Cloud Device**に進み、**Add**をクリックします。

パラメータ	説明
デバイス名	認識しやすいデバイス名を設定します。
登録コード	登録コードを入力します。EZCloudページで確認することができます。
組織	クラウド上のNVRの組織を選択します。 デフォルトの組織はrootです。

6.1.3 DDNS

DDNSを設定することで、インターネットからLAN上のNVRにアクセスする際に、IPアドレスを変更する代わりに、固定ドメイン名を訪問することができます。



ウェブブラウザでhttp://server address/NVR's domain name にアクセスし、NVRのウェブページを開くことができます。

1. **メニュー> ネットワーク> 基本> DDNS**に進みます。

The screenshot shows the DDNS configuration interface. At the top, there are tabs for 'ネットワーク' (Network), 'EZCloud', 'DDNS', and 'Eメール'. The 'DDNS' tab is selected. On the left, there is a checkbox labeled 'DDNSを有効' (Enable DDNS) which is checked. Below it, the following fields are visible: 'DDNSタイプ' (DDNS Type) set to 'EZDDNS', 'サーバーアドレス' (Server Address) set to 'en.ezcloud.uniview.com', 'ポート' (Port) set to '80', 'ドメイン名' (Domain Name) (empty), 'デバイス状態' (Device Status) set to 'オフライン' (Offline), and 'デバイスアドレス' (Device Address) set to 'en.ezcloud.uniview.com/'. At the bottom, there are three buttons: 'テスト' (Test), '適用' (Apply), and '終了' (End).

2. **DDNSを有効**にチェックを入れ、パラメータを設定します。

- DynDNS/No-IP : サードパーティのDDNSサービスプロバイダーです。DDNSサービスプロバイダーから取得したドメイン名とユーザー名/パスワードを入力します。
 - ドメイン名 : DDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名です。
 - ユーザー名とパスワード : DDNSアカウントに対応するユーザー名/パスワードです。
- EZDDNS: Univiewが提供するDDNSサービスです。ドメイン名を入力し、**テスト**をクリックして、その有効性を確認することができます。 (**こちらを推奨します。**)

The screenshot shows the DDNS configuration interface with 'DynDNS' selected. The 'DDNSを有効' (Enable DDNS) checkbox is checked. The fields are: 'DDNSタイプ' (DDNS Type) set to 'ダイナミックDNS' (Dynamic DNS), 'サーバーアドレス' (Server Address) set to 'members.dyndns.org', 'ポート' (Port) set to '80', 'ドメイン名' (Domain Name) (empty), 'ユーザー名' (Username) (empty), 'パスワード' (Password) (empty), and 'パスワード(確認)' (Password (Confirm)) (empty). At the bottom, there are two buttons: '適用' (Apply) and '終了' (End).

3. **適用**をクリックします。

6.1.4 Eメール

Eメールを設定して、アラームが発報したときに、NVRがEメールで指定したユーザーにアラーム情報を送信できるようにします。



Eメール送信をご使用の場合は、連動動作のEメール送信にチェックを入れる必要があります。

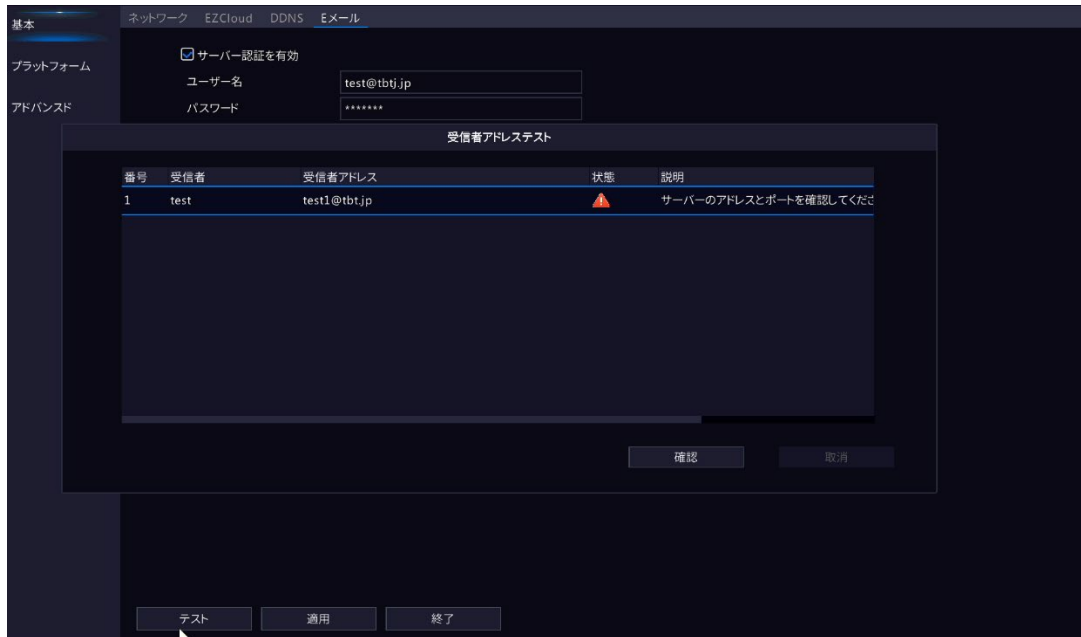
1. **メニュー>ネットワーク>基本>Eメール**に進みます。

2. パラメータを設定します。

パラメータ	説明
サーバー認証の有効化	SMTPサーバー認証を有効にすると、Eメールのセキュリティを強化することができます。デフォルトではこの機能は無効になっています。有効にするには、正しいユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
ユーザ名/パスワード	SMTPサーバーのユーザー名とパスワードです。
SMTPサーバー	SMTPサーバーアドレスです。
SMTPポート	デフォルト: 25. 範囲: [1-65535]。
TLS/SSLを有効にします	有効にすると、TLSまたはSSLでEメールを暗号化し、通信の安全性を向上させることができます。この機能を使用するには、SMTPサーバーがTLS/SSLをサポートしている必要があります。  メモ TLS/SSLを有効にした後、ポート25でのEメール送信に失敗した場合、587または465をお試しください。
送信者	送信者名を入力します。
送信者アドレス	送信者のEメールアドレスであり、受信者のアドレスと同じにすることができます。
受信者の選択	リストから受信者を選択し、受信者情報を入力します。最大6名の受信者が許可されます。
受信者	受信者名

受信者アドレス	受信者のEメールアドレス。
検知スケジュール	 をクリックして警戒スケジュールを設定します。
添付画像	有効にすると、アラームが発生したときに、NVRはスナップショットを添付したEメールを送信します。  メモ この機能は一部のデバイスのみで利用できます。
スナップショット間隔	オプションは、2秒(デフォルト)、3秒、4秒、5秒です。

3. **テスト**をクリックします。システムは、テストメールを送信することにより、受信者アドレスを確認します。**説明欄**のは、テストが成功し、Eメールアドレスが有効であることを意味します。



4. **適用**をクリックします。

6.2 プラットフォームの設定

NVRの上位プラットフォームを設定します。

6.2.1 SNMP

NVRはSNMPを使用して上位プラットフォームと相互接続し、特定のコンフィギュレーション情報を転送することができます。

1. **メニュー> ネットワーク> 基本> プラットフォーム> SNMP**に進みます。
2. **SNMPを有効**にチェックを入れます。

SNMP アラームサービス

☒ SNMPを有効

SNMPタイプ: SNMPv2

Readコミュニティ名: public

Writeコミュニティ名: private

Trapコミュニティ名: private

Trapサーバーアドレス: . . .

Trapポート: 162

SNMPポート: 161

適用 終了

3. SNMPの種類を選択し、パラメータを設定します。

- SNMPv2 :

プラットフォームがNVR データを読み込むための読み込みコミュニティ名と書き込みコミュニティ名を設定します。

☒ SNMPを有効

SNMPタイプ: SNMPv2

Readコミュニティ名: public

Writeコミュニティ名: private

Trapコミュニティ名: private

Trapサーバーアドレス: . . .

Trapポート: 162

SNMPポート: 161

- SNMPv3 :

認証パスワードと暗号化パスワードを設定します。認証パスワードは、プラットフォームがNVRにアクセスする際に使用されます。暗号化パスワードは、NVRからプラットフォームに送信されるデータを暗号化するために使用されます。

☒ SNMPを有効

SNMPタイプ: SNMPv3

ユーザー名: admin

暗号化: MD5

パスワード認証:

パスワード(確認):

暗号化: DES

暗号化パスワード:

パスワード(確認):

Trapコミュニティ名: private

Trapサーバーアドレス: . . .

Trapポート: 162

SNMPポート: 161

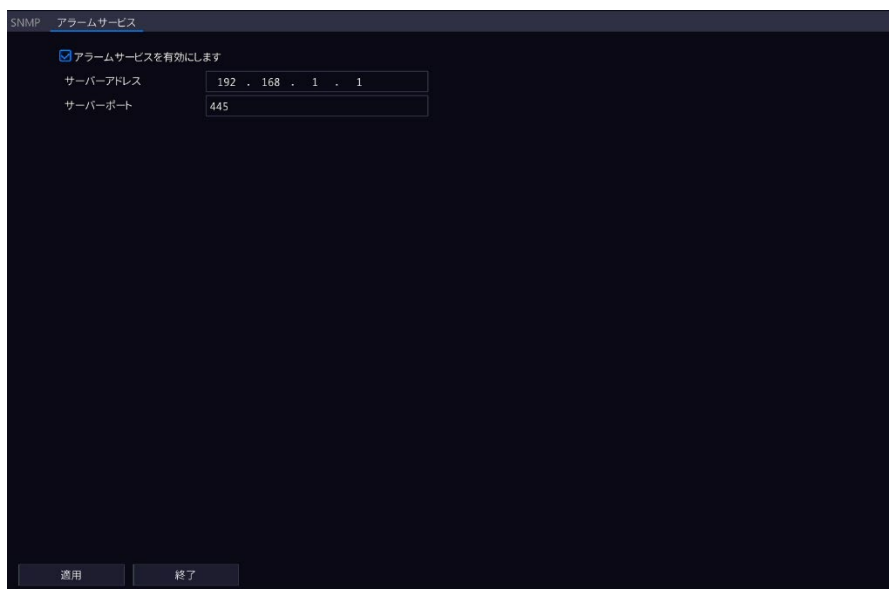
8-32文字、大小英字、数字、アンダースコア(_)、ハイフン(-)、アットマーク(@)を含みます

4. 適用をクリックします。

6.2.2 アラームサービス

NVRからアラームと画像を受信する上位サーバーを設定します。

1. **メニュー> ネットワーク> 基本> プラットフォーム> アラームサービス**に進みます。



2. **アラームサービス**うい有効にしますにチェックを入れます。
3. パラメータを設定します。

パラメータ	説明
サーバーアドレス	上位サーバーのIPアドレス。
サーバーポート	上位サーバーのポート番号。

メモ

この設定は、アラームホストへのアラーム関連パケットの送信のみを有効にします。アラームホストの具体的なアラーム方式は別途設定する必要があります。

4. **適用**をクリックします。

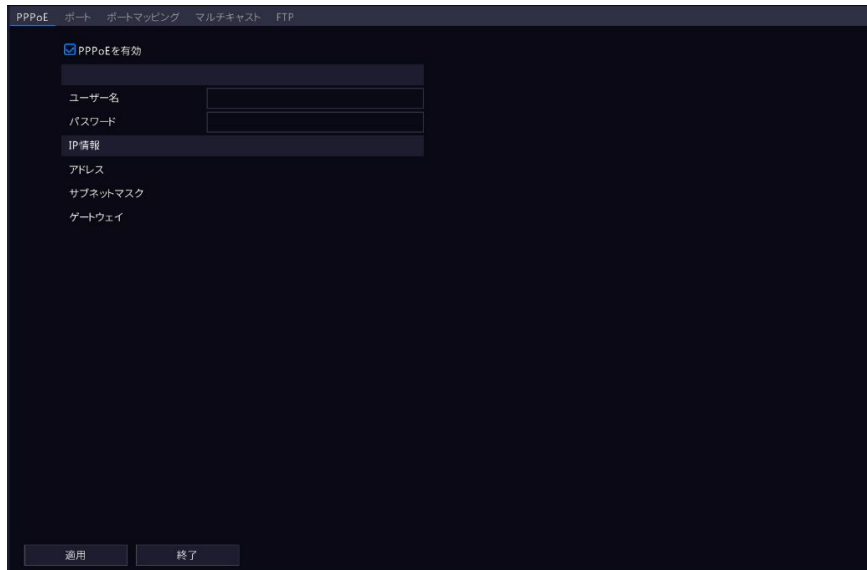
6.3 高度な設定

PPPoE、ポート、ポートマッピング、マルチキャスト、FTPを設定します。

6.3.1 PPPoE

PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet) を使用してNVRをネットワークに接続します。

1. **メニュー> ネットワーク> アドバンスド> PPPoE**に進みます。



2. **PPPoE**を有効にチェックを入れます。
3. インターネットサービスプロバイダー (ISP) から提供されたユーザー名とパスワードを入力します。ダイヤルアップに成功すると、IP情報が表示されます。



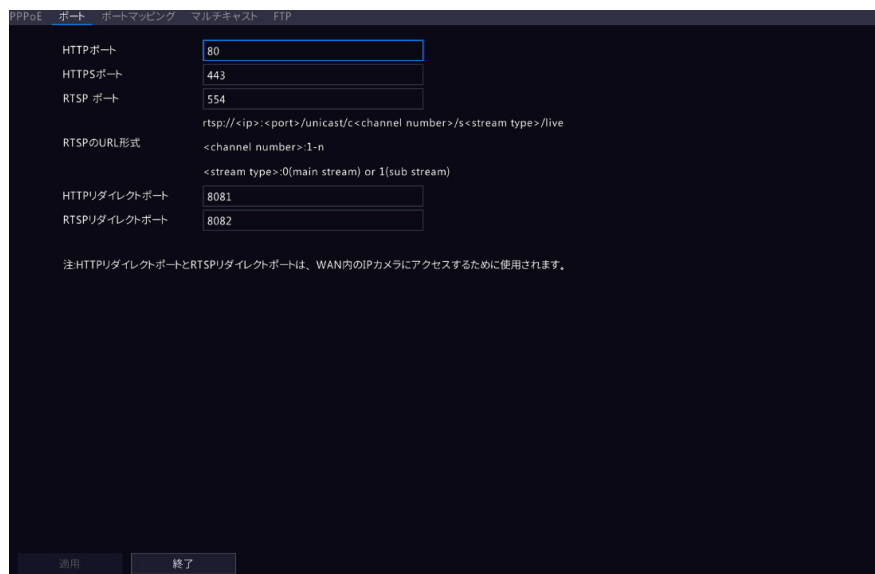
マルチNICデバイスでは、ダイヤルアップは、デフォルト ルートとして設定されているNICで実行されます。

4. **適用**をクリックします。

6.3.2 ポート

HTTP、HTTPS、RTSP、HTTPリダイレクトポート、RTSP リダイレクトポートを設定します。

1. **メニュー> ネットワーク> アドバンスド> ポート**に進みます。



2. **ポート**を設定します。



- ポート範囲は1～65535で、ポート 21、23、2000、3702、60000は他の目的のためにリザーブされています。ポートは重複できません。
- 上位プラットフォームは、表示された RTSP URL を使用してカメラのライブビデオにアクセスすることができます。

3. **適用**をクリックします。

6.3.3 ポートマッピング

クライアントコンピュータがインターネットを経由してLAN上のNVRにアクセスできるように、ポートマッピングを設定します。

1. **メニュー>ネットワーク>アドバンスド>ポート>ポートマッピング**に進みます。
2. デフォルトではポートマッピングは有効になっています。マッピングモードは、UPnPとマニュアルポートマッピングを選択することができます。

UPnP

UPnPとは、Universal Plug and Playの略語です。UPnPに対応したネットワークアドレス変換（NAT）は、クライアントコンピュータがインターネットからLAN上のNVRにアクセスできるように、自動ポートマッピングを実行できます。



この機能を使用するには、ルーターが必要です。NVRで設定する前に、ルーターでUPnPを有効にする必要があります。

1. **UPnPマッピングモード**を選択します。

ポートタイプ	グローバルIP	外部ポート	内部ポート	UPnPの状態
HTTPポート	N/A	80	80	無効
RTSPポート	N/A	554	554	無効
HTTPSポート	N/A	443	443	無効
HTTPリダイレクトポート	N/A	8081	8081	無効
RTSPリダイレクトポート	N/A	8082	8082	無効

2. **UPnPマッピングリストからモード**を選択：
 - 自動：NVRは自動的に外部ポート番号を割り当てますが、これは通常、内部ポート番号と同じです。
 - ポートの指定：[1-65535]の範囲でユーザーがポートを指定します。



- Auto が推奨されます。外部ポートを手動で指定した場合、ポートの競合が発生することがあります。
- マルチNIC NVRでは、ポートマッピングは、デフォルト ルートとして設定されているNICで実行されます。

3. **更新**をクリックして、**UPnP の状態**で**有効**が表示されているか確認します。
4. **更新**をクリックします。

マニュアル

UPnPに対応しないルーターでは、手動で内部ポートと外部ポートを設定する必要があります。



- NVRに設定されているポートとルーターに設定されているポートが一致していることを確認します。
- 一部のルーターでは、NVRの外部ポートと内部ポートを同じにする必要があります、またルーターのポートとも同じにする必要があります。

1. **手動マッピングモード**を選択します。

PPPoE ポート ポートマッピング マルチキャスト FTP

☒ ポートマッピングを有効

マッピングモード ☐ UPnP ☒ 手動

HTTPポート	80	HTTPリダイレクトポート	8081
RTSPポート	554	RTSPリダイレクトポート	8082
HTTPSポート	443		

注: HTTPリダイレクトポートとRTSPリダイレクトポートは、WAN内のIPカメラにアクセスするために使用されます。

更新 適用 終了

2. 外部ポートを手動で設定します。
3. **適用**をクリックします。

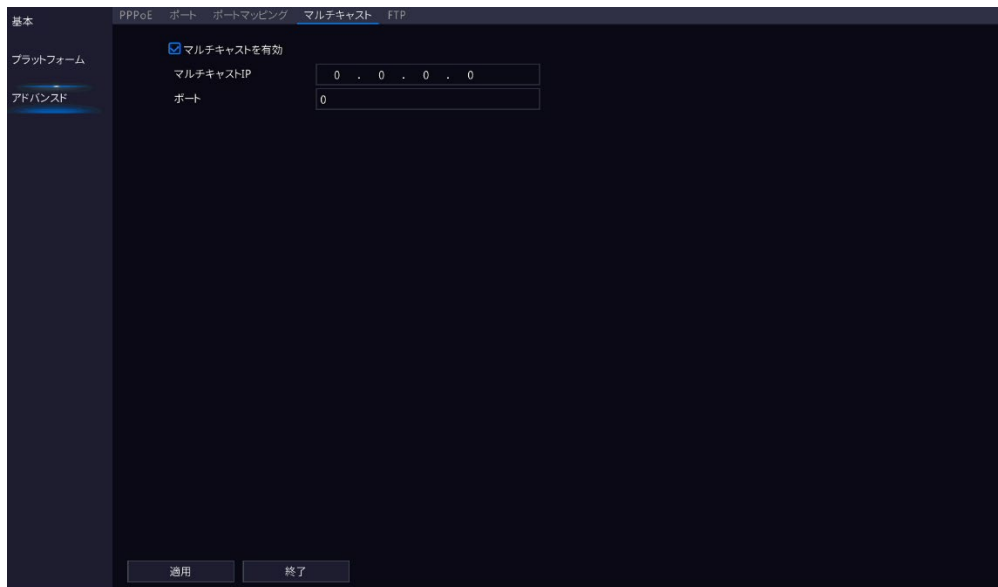


ポートマッピングの設定後、以下のアドレスでウェブインターフェイスを開くことができます。: ルーターのWAN IP: 外部HTTPポート。例えば、ルーターの外部IPアドレスが10.2.2.10で、外部HTTPポートが82の場合、ウェブブラウザのアドレスバーに `http://10.2.2.10:82`を入力します。

6.3.4 マルチキャスト

ウェブクライアントにアクセスするユーザー数が上限に達し、ライブビデオが視聴できない場合、マルチキャストを使用することで問題を解決することができます。

1. **メニュー> ネットワーク> アドバンスド> マルチキャスト**に進みます。



2. **マルチキャストを有効**にチェックを入れます。マルチキャストIPアドレスとポート番号を入力します。
3. **適用**をクリックします。
4. ウェブインターフェイスにログインし、**設定>クライアント**へ進み、**ライブビュープロトコル**を**マルチキャスト**に設定します。マルチキャストでライブビューが可能になります。

クライアント	
デフォルトのライブストリーム	サブストリーム ▼
表示比率	フル ▼
ビデオモード	流畅さを優先 ▼
録画ファイルサイズ	1GB ▼
ファイルを保存	C:\Users\ono\WebPlugin_I 参照 フォルダを...
ライブビュープロトコル	TCP ▼
インテリジェントマーク	☐ ON ☒ OFF
注: ローカル録画、スナップショット、ダウンロードした録画データは、Record, Snap, Downloadの各フォルダに保存されます	
保存	

メモ

- IPマルチキャストアドレスはクラスDアドレスです。インターネットでは224.0.1.0～ 238.255.255.255が使用できます。
- 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲では、一部は特別な用途に予約されています。例えば、224.0.0.0～244.0.0.255はLANでのみ使用でき、これらのアドレスを持つパケットはルータで転送されません。また、224.0.0.1はサブネット上のすべてのホストで使用され、224.0.0.2はサブネット上のすべてのルーターで使用され、224.0.0.5はOSPFルーターで使用され、224.0.0.13はPIMv2ルーターで使用されます。239.0.0.0～239.255.255.255はプライベートアドレス(例、192.168.x.x)です。

6.3.5 FTP

NVRがFTPサーバーに画像をアップロードできるように、FTPを設定します。



- この機能は一部のNVRのみで利用できます。
- この機能を使用するには、まずFTPサーバーを導入する必要があります。
- FTPサーバーを有効にして接続すると、NVRは自動的にFTPサーバーに画像をアップロードすることができます。

1. メニュー> ネットワーク> アドバンスド> FTPに進みます。

2. **FTPを有効**にチェックを入れます。
3. サーバーパラメータを設定します。**テスト**をクリックして、NVRとFTPサーバー間の接続をテストします。

パラメータ	説明
IPアドレス	FTPサーバーアドレス。
ポート	デフォルトは21です。必要に応じて、別のポートを設定することができます。
匿名	有効にすると、NVRはユーザー名/パスワードを必要とせず、匿名ユーザーとしてFTPサーバーに接続します。
ユーザー名	FTPサーバーにアクセスするために使用されるユーザー名です。
パスワード	FTPサーバーにアクセスするために使用されるパスワードです。
リモートディレクトリ	リモートディレクトリを正しいフォーマット(abc/efg/xyz)で入力すると、システムはルートディレクトリの下にレベルごとにフォルダを作成し、IP、時間、チャンネルに基づいて異なるフォルダを作成します。 メモ • 例えば、リモートディレクトリが abcの場合、作成されるフォルダは FTP > abc > 206.2.5.8 > 2022-10-08 > D5となります。例えば、リモートディレクトリがabc/efg/xyzの場合、作成されるフォルダはFTP > abc efg > xyz > 206.2.5.8 > 2022-10-08 > D5となります。

	リモートディレクトリが空の場合、IP、時間、チャンネルなどに基づいて、ルートディレクトリの下にフォルダを作成します。 (例、FTP > 206.2.5.8 > 2022-10-08 > D5)
アップロード間隔 (秒)	NVRは、設定された期間内にキャプチャした画像を設定間隔でFTPサーバーにアップロードします。デフォルトは30秒です。必要に応じて、設定を変更することができます。
範囲(秒)	画像のアップロード間隔の範囲を表示:[5-600]秒

4. アップロードスケジュールを設定します。

(1) リストからカメラを選択します。

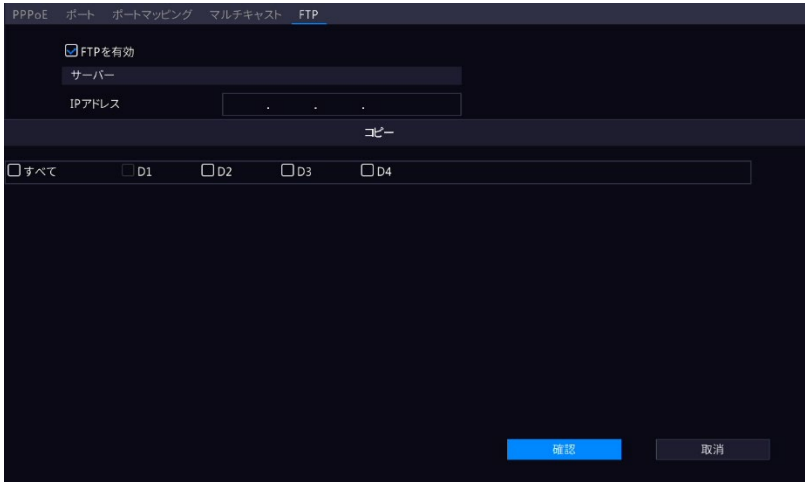
(2) **アップロードスケジュール**のをクリックし、カメラが希望するタイプの画像をアップロードする期間を設定します。**確認**をクリックします。



 メモ

- 画像のアップロードは1日2回までとし、重複はできません。
- 他の日にスケジュールを適用する場合、Allまたは日付を選択してOKをクリックします。

5. (オプション) 別のカメラに現在のアップロードスケジュールを適用するには、**コピー**のをクリックし、カメラを選択し、**確認**をクリックします。



6. **適用**をクリックします。

7 システム設定

この章では、システムのパラメータの設定方法を説明します。

7.1 基本設定

システムの基本情報を設定します。

1. **メニュー> システム> 基本**に進みます。

基本設定

デバイス名: NVR501-04B-P4-A

デバイスID: 1

表示言語: 日本語

オートログアウト時間(分): 5

即時再生(分): 5

マウスポインタの速度: [Slider]

☒ パスワード保護を有効にします

☐ スタートアップ時ウィザード有効

☒ インテリジェントマーク

ウィザード

2. 基本パラメータを設定します。

パラメータ	説明
デバイス名	デフォルト名は、NVRモデルです。必要に応じて、変更することができます。
デバイスID	複数のデバイスを持っている場合、デバイスを区別するために使用します。必要に応じて、変更することができます。
デバイス言語	システム言語を選択します。システム言語を変更すると、システムが再起動します。 メモ すべてのデバイスで言語が切り替えられるわけではありません。
オートログアウト時間(分)	ライブビューページにいない状態で何も操作をしないと、設定した時間が経過した時点で自動的にログアウトし、ライブビューページが表示されます。 デフォルト: 5分間 必要に応じて、変更することができます。
インスタント再生(分)	インスタント再生時間を設定します。デフォルト: 5分間
マウスポインタの速度	スライダーをドラッグして速度を調整します。(左から右: 遅い→速い)
パスワード保護を有効化にします	自動ログアウト時間を超えると、ユーザーはメインメニューにアクセスするためにログインパスワードの入力が必要になります。 デフォルトではこの機能は有効になっています。 メモ 管理者のみが設定を変更することができます。
スタートアップ時ウィザードの有効	NVRの初回起動時にスタートアップウィザードが表示されます。チェックボックスをオンにすると、デバイスを起動するたびにスタートアップウィザードが表示されます。ウィザードをクリックして、メニューページのウィザードを設定します。

インテリジェントマーク	有効にすると、スマート検出ルールがライブビデオに表示されたり、スマート検出対象物がマークされ、対応するスマートデータが表示されます。スマートルールは、黄色の検知ボックスまたは検知ラインです。検知ボックスには、以下のような異なる意味を持つ2つの色があります。 - 緑: データが変更されたものの、ルールがトリガーされなかった。 - 赤: エリア内のデータがVCAアラームに設定されているルールをトリガーし、VCAアラームが発令された。  メモ 一部のスマート機能は、この機能に対応していません。
-------------	---

3. **適用**をクリックします。

7.2 プレビューの設定

プレビューのための画面表示と優先ストリームタイプを設定します。

7.2.1 プレビューの設定

基本プレビューパラメータと表示モードを設定します。

メニュー> システム> 画面表示に進みます。



基本プレビューの設定

パラメータ	説明
ビデオ出力	システム表示を外部ディスプレイデバイスに出力します。出力ポートを選択します。
解像度	解像度には、表示形式とリフレッシュレートが含まれます。表示形式とは、1920×1080、1280×720、1280×1024など、画面上に表示できる画素数です。表示画素数が多いほど、高画質になります。リフレッシュレートは、60Hz、50Hz、25Hzなどがあります。ニーズに合わせて選択してください。
表示形式	任意のウィンドウレイアウトで画像を表示します。リストからオプションを選択するか、アイコンをクリックしてレイアウトを選択します。 

アラーム連動のライブ画面数	アラーム連動時のポップアップ形式を指定します。
シーケンス	チェックを入れるとシーケンスが有効になります。
シーケンス間隔(秒)	シーケンスのインターバル時間を設定します。デフォルト:8秒
プレビューウィンドウにカメラ番号を表示	有効にすると、ライブビューウィンドウにカメラIDが表示されます。デフォルトではこの機能は有効になっています。

画面構成

デフォルトでは、カメラIDはライブビューウィンドウに対応しています。D1がウィンドウ1、D2がウィンドウ2とこれに続きます。対応関係は以下のように変更できます。下記の例では、D1とD2を切り替えています。

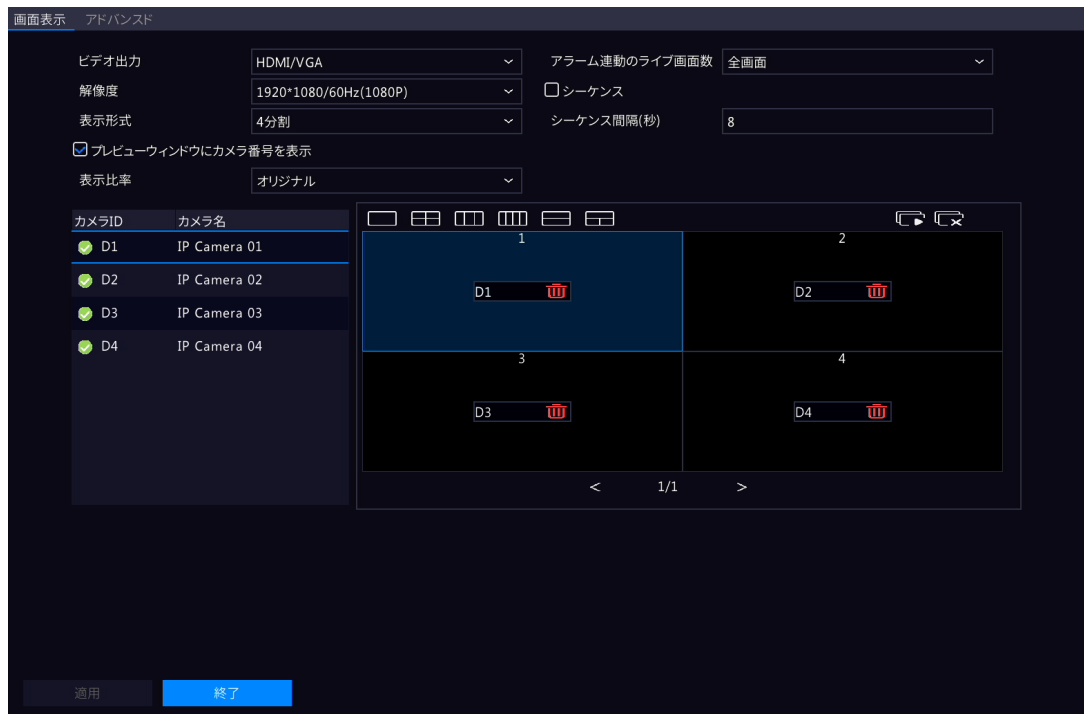


ライブビューページで画像をドラッグしてウィンドウを入れ替え、変更されたウィンドウとチャンネルの結合関係をこのページで確認することもできます。しかし、この方法には設定権限が求められ、同じ画面上にないウィンドウを切り替えることはできません。

1. 右側のウィンドウ1をクリックします。ウィンドウ1が選択されます。



2. 左側のチャンネルリストでD2をクリックします。これで、ウィンドウ1にはD2が表示され、ウィンドウ2には無しが表示されます。

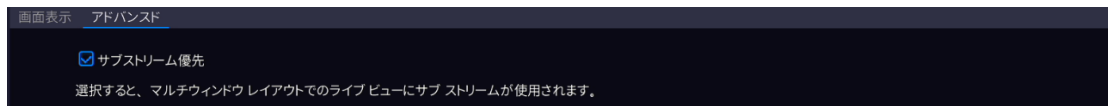


注：左側のチャンネルリストで、D1の は空です。これは、チャンネルがどのウィンドウにもバインドされていないことを示します。

3. 右側のウィンドウ2をクリックします。ウィンドウ2が選択されます。
4. 左側のチャンネルリストでD1をクリックします。これで、ウィンドウ2にはD1が表示され、D1とD2が互いにウィンドウを入れ替えたことを示します。
5. **適用**をクリックします。

7.2.2 アドバンスド

1. **メニュー> システム> 画面表示> アドバンスド**に進みます。



2. **サブストリーム優先**を選択します。分割画面時の各チャンネルがサブストリームになります。
3. **適用**をクリックします。

7.3 時刻設定

時刻表示モード、時刻同期モード、休日を設定します。

7.3.1 時刻設定

時刻の形式と更新方法を設定します。

時間フォーマットの設定

1. **メニュー> システム> 時刻> 時刻**に進みます。

時刻	サマータイム	時刻同期	休日
タイムゾーン	(UTC+09:00) Tokyo, Osaka, Seoul, Yak ▼		
日付形式	YYYY-MM-DD ▼		
時間形式	24時間 ▼		
システム時刻	2023-06-05 09:45:39 ▼		
☐ 自動アップデート			
NTPサーバーアドレス			
NTPポート	123		
更新間隔	10分 ▼		

2. タイムゾーン、日付、時刻形式を選択します。
3. システム時刻を設定します。

自動アップデート

有効にすると、システムはNTPサーバーと時刻を同期します。

1. **自動アップデート**にチェックを入れます。
2. NTPサーバーのアドレスとポート番号を入力します。
3. 更新間隔を選択します。

7.3.2 サマータイム

夏時間を設定します。

☒ サマータイム				
開始時刻	3月 ▼	第2週 ▼	日 ▼	2 ▲▼
終了時刻	11月 ▼	第1週 ▼	日 ▼	2 ▲▼
サマータイム調整	60分 ▼			

1. **メニュー> システム> 時刻> サマータイム**に進みます。
2. 夏時間を選択します。
3. パラメータを設定します。
4. **適用**をクリックします。

7.3.3 カメラ時刻の同期

1. **メニュー> システム> 時刻> 時刻同期**に進みます。
2. **カメラの時刻同期**にチェックを入れます。レコーダーの時刻に各カメラの時刻が同期されます。



- 時刻同期は、カメラが初めてオンラインになったときに発生します。
- Sync Camera Timeを有効にすると、30分ごとに時刻の同期が行われます。

デフォルトではこの機能は有効になっています。

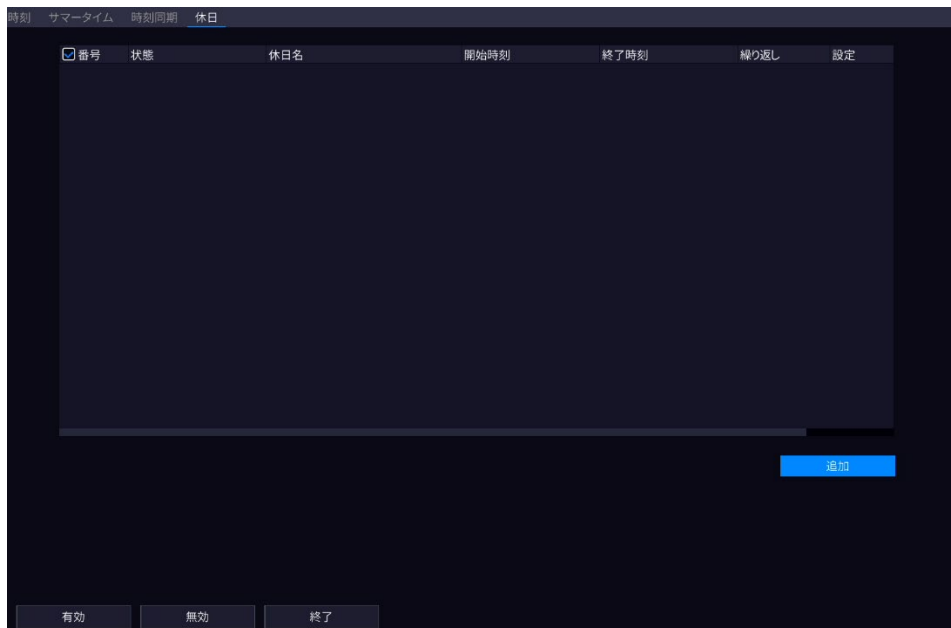


3. **適用**をクリックします。

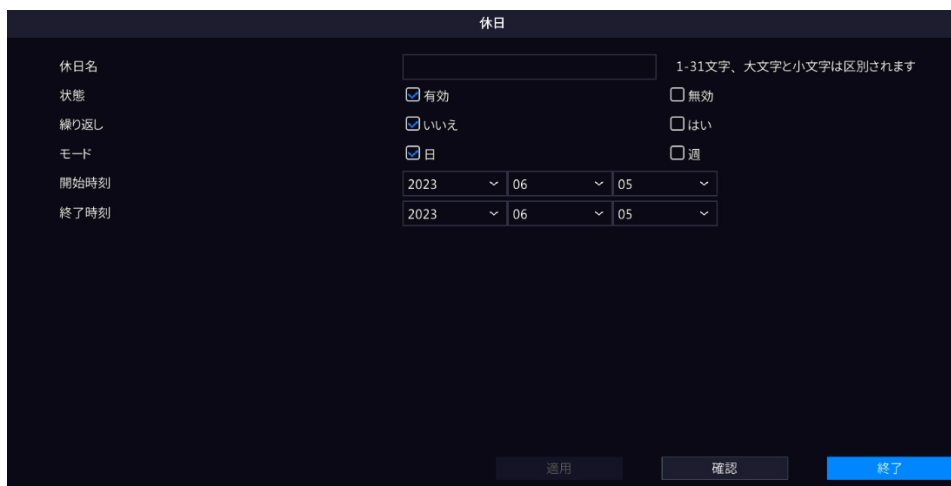
7.3.4 休日の設定

特別な時間帯を休日として設定し、録画スケジュールに使用します。

1. **メニュー> システム> 時刻> 休日**に進みます。



2. 右下の**追加**をクリックします。



3. パラメータを設定します。

パラメータ	説明
休日名	意味のある、覚えやすい祝日名を設定します。
状態	新しい休日はデフォルトで有効です。無効にする場合は、 無効 を選択します。
繰り返し	- 番号: 休日は指定された年に1回のみに有効です。休日の年を指定する。 - はい: 休日は毎年有効になります。

モード	- 日単位: 指定されたフォーマット: 年/月/日で休日を設定します。 - 週単位: 指定されたフォーマット: 年/月/週/曜日で休日を設定します。
開始時刻/終了時刻	指定されたフォーマットに従って設定します。

4. **適用**をクリックします。

5. **確認**をクリックします。

- ・  をクリックして、現在の休日を編集します。
- ・  をクリックすると、休日が削除されます。休日を削除しても、関連する録画は削除されません。
- ・ 休日を無効にする場合は、無効をクリックします。

7.4 POSの設定

日本でのご使用はサポートされておりません。

7.5 ユーザーの設定

ユーザーとは、システムを管理#運用する主体です。ユーザータイプとは、一連の操作権限です。ユーザーにユーザータイプを設定すると、ユーザーには、そのユーザータイプで定義されている権限がすべて付与されます。

4つのユーザータイプに対応：

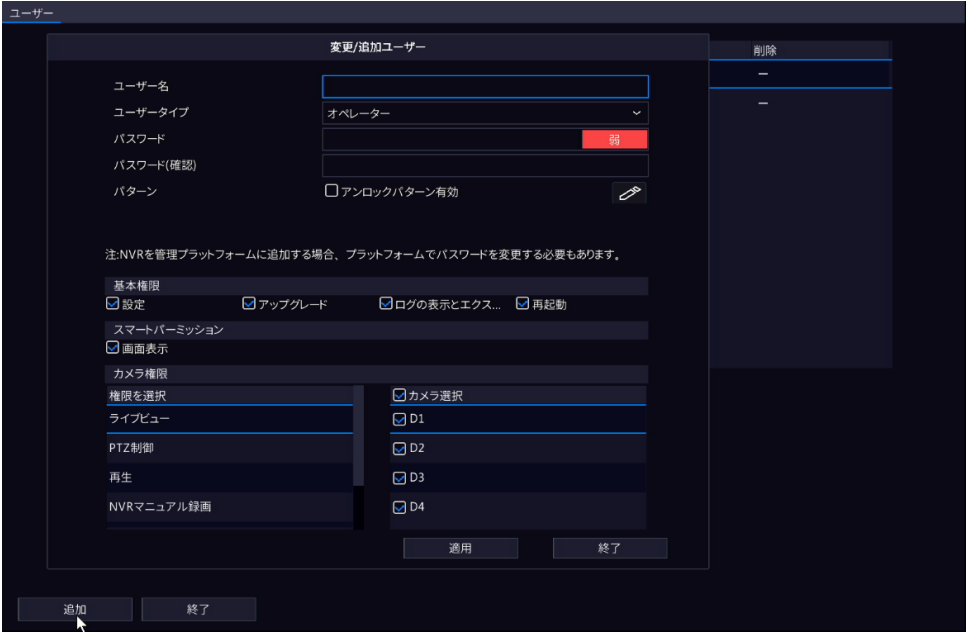
ユーザータイプ	説明
admin	デフォルトのスーパー管理者であり、最大の権限を持ちます。初期パスワードは123456です。  メモ 管理者のみがユーザーの追加や削除、他のユーザーの権限編集を行うことができます。
default	追加や削除ができないデフォルトの予約ユーザーは、デフォルトでライブビューと双方向音声の権限のみがあり、管理者のみが設定できます。  メモ デフォルトのユーザーがカメラのライブビューと双方向音声の使用を禁止されている場合、ユーザーがログインしていないとカメラがロックされ、対応するウィンドウに が表示されます。
オペレーター	デフォルトでは、操作者は基本権限とカメラ権限を持っています。
ゲスト	デフォルトでは、ゲストはカメラ権限しか持っていません。

メニュー> システム> ユーザーに進みます。



ユーザーの追加

1. **追加**をクリックします。



2. パラメータを設定します。ユーザー名、パスワードの入力、ユーザータイプの選択、ロック解除パターンの有効/無効、アクセス権の選択を行います。

項目	説明
ユーザー名	必要に応じてユーザー名を設定します。空白や漢字を含むことはできません。
パスワード/確認	強力なパスワードを設定します。
パターン	ロック解除パターンを有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れます。  をクリックし、画面の指示に従ってパターンを設定します。
基本権限/スマート権限	ユーザーに割り当てたい権限を選択します。

3. **確認**をクリックします。

ユーザー削除

1. **ユーザー**ページで、削除したいユーザーを選択します。
2. をクリックします。すると確認メッセージが現われます。
3. **はい**をクリックします。

ユーザー編集

1. **ユーザー**ページで、編集したいユーザーを選択します。
2. をクリックし、パスワードを入力します。

3. ユーザータイプ、パスワード、または権限を編集します。
4. **確認**をクリックします。

7.6 セキュリティの設定

セキュリティ設定には、IPアドレスフィルタリング、ONVIF認証、802.1x、ARPプロテクション、デジタルウォーターマーク、セキュアなパスワードが含まれます。

7.7.1 IPアドレスフィルタリング

IPアドレスフィルタリングは、特定のソースIPアドレスのみを使用してNVRのウェブインターフェイスにアクセスできるようにします。

1. **メニュー> システム> セキュリティ> IPアドレスフィルタリング**に進みます。

2. **IPアドレスフィルタリング**にチェックを入れます。

3. 各パラメータを設定します。

パラメータ	説明
制御タイプ	ブロックリスト:IPがブロックリストに登録されている場合、アクセスは禁止されます。 許可リスト:IPが許可リストに登録されている場合のみ、アクセスは許可されます。 許可リスト が選択されているが空である場合、リモートアクセスは禁止となります。
開始IP/終了IP	開始IPアドレスと終了IPアドレスを入力します。IPアドレスを1つだけ追加する場合は、 開始 IP 欄に当該IPアドレスを入力します。

1. **適用**します。

7.7.2 ONVIF認証

ONVIF認証が有効な場合、ONVIF経由でNVRにアクセスする際にユーザー名とパスワードが必要になります。

デフォルトではこの機能は有効になっています。

メニュー>システム>セキュリティ>ONVIF承認に進みます。



7.7.4 ARP保護

ARP（アドレス解決プロトコル）は、IPアドレスとMACアドレスを動的に対応付けるプロトコルです。ローカルエリアネットワークでは、デバイス同士がMACアドレスで通信するためにARPが必要です。ARP攻撃は、ARPの脆弱性を利用して、IPアドレスやMACアドレスを偽造するものです。ARP保護は、ゲートウェイのIPアドレスとMACアドレスをバインドし、ARPスプーフィングを防止することができます。

1. **メニュー>システム>セキュリティ>ARP保護**に進みます。



マルチNICデバイスの場合、NICの動作モードを変更すると、この機能は自動的に無効になります。作業モードの変更については、TCP/IPをご覧ください。

NIC選択	NIC1
☐ ARP保護を有効	
ゲートウェイ	192 . 168 . 1 . 1
ゲートウェイ MAC	カスタム 00:00:00:00:00:00

2. NICを選択します。デバイスがNICを1つしか持っていない場合は、このステップをスキップします。

3. **ARP保護を有効**にチェックを入れます。

4. パラメータを設定します。

パラメータ	説明
ゲートウェイ	ネットワーク>基本>ネットワーク で設定したゲートウェイです。

ゲートウェイMACアドレス	カスタム: ネットワークスイッチにゲートウェイの物理アドレスを入力します。
	自動: ネットワークスイッチでゲートウェイの物理アドレスを自動で取得します。

5. **適用**をクリックします。

7.7.5 デジタルウォーターマーク

デジタルウォーターマーク機能により、ビデオコンテンツにカスタム情報を暗号化し、ビデオの改ざんを防止することができます。

1. **メニュー> システム> セキュリティ> ウォーターマーク**に進みます。

2. チャンネルを選択し、**ウォーターマークを有効**にチェックを入れます。
3. デジタルウォーターマーク内容を入力します。
4. **適用**をクリックします。

8 バックアップ

この章では、録画のバックアップと画像のバックアップをご紹介します。

8.1 録画のバックアップ

録画のバックアップとは、NVRのハードディスクに保存されているビデオをUSBストレージデバイスにバックアップすることを指します。

条件：

- USBストレージがFAT32またはNTFSにフォーマットされている。
- バックアップ許可が必要です。
- バックアップする録画はNVRのハードディスクに保存されている。
- ストレージデバイスがNVRに正しく接続されている。



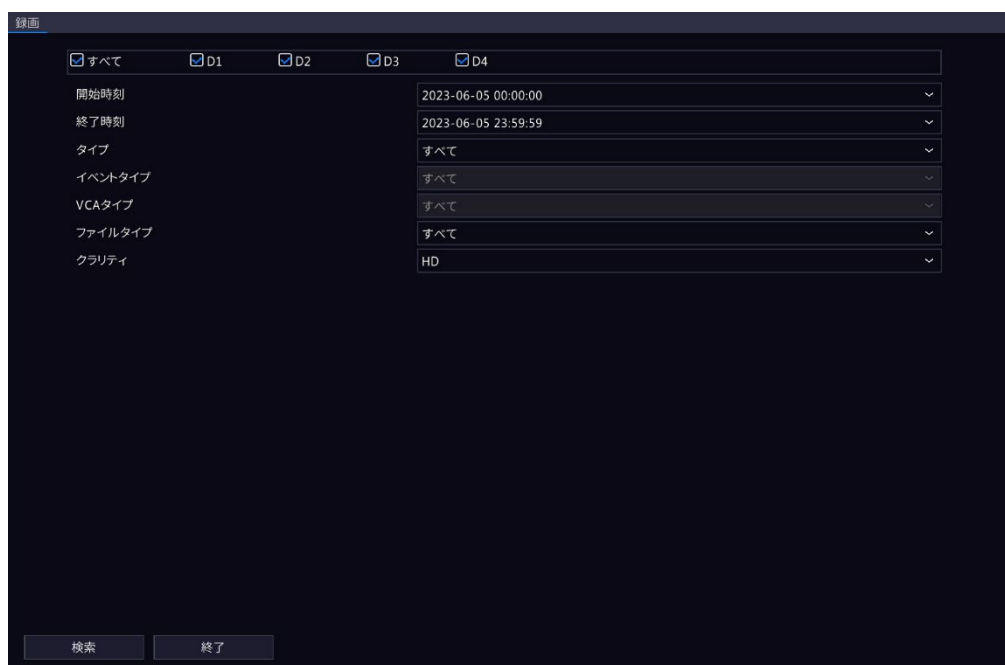
メモ

- 録画は、デフォルトで.mp4ファイルとしてバックアップされます。
- HDモード、SDモードでの録画のバックアップが可能です。

通常ビデオバックアップ

スケジュール録画、手動録画、イベントトリガー録画のバックアップを指します。

1. **メニュー>バックアップ>録画**に進みます。
2. 希望のカメラを選択します。デフォルトでは、全部のカメラが選択されています。



3. 開始時刻、終了時刻、録画タイプ、イベントタイプ、VCAタイプ、ファイルタイプ、鮮明度（HDまたはSD）などの検索条件を設定することができます。
4. **検索**をクリックします。検索結果が表示されます。最初の検索結果の画像が右側に表示されます。 をクリックするとビデオが再生されます。



5. 開始時刻、終了時刻、録画タイプ、イベントタイプ、VCAタイプ、ファイルタイプ、鮮明度（HDまたはSD）などの検索条件を設定することができます。

必要に応じて録画のバックアップを取る方法を選択します。

- バックアップする録画を選択し、**バックアップ**をクリックします。
 - または**すべてをバックアップ**をクリックすると、リスト内のすべての録画をバックアップします。



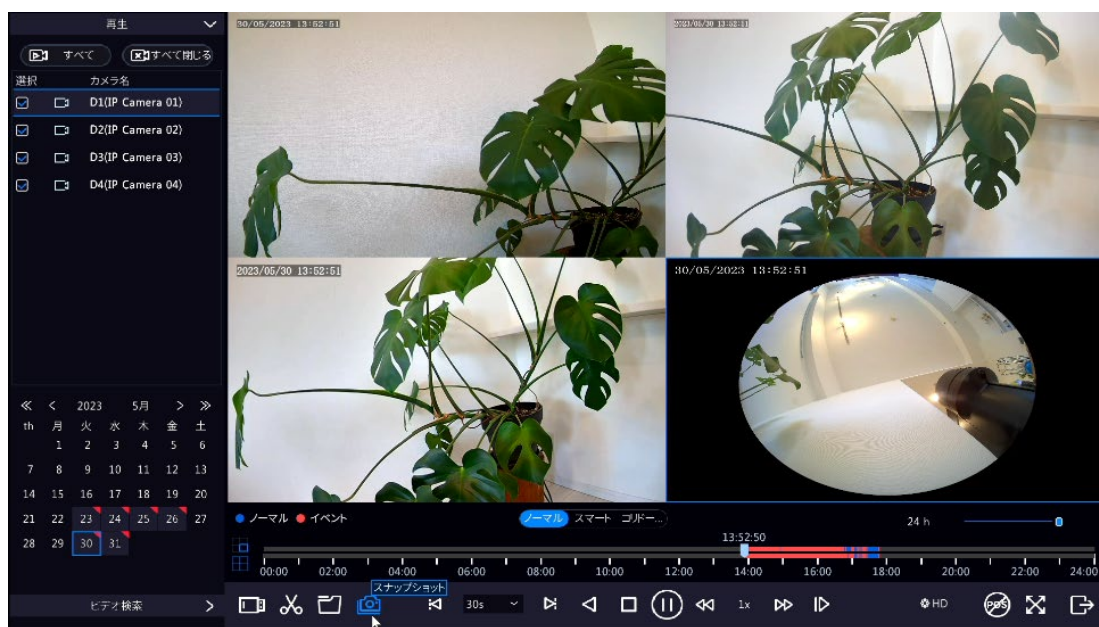
6. パーティションとストレージパスを選択して、**バックアップ**をクリックします。**新しいフォルダ**をクリックすると、録画用の新しいフォルダを作成することもできます。

メモ

- Formatをクリックすると、USBデバイスがフォーマットされます。2TB以上のUSBデバイスはNTFSのみ、2TB以下のUSBデバイスはNTFSまたはFAT32にフォーマットすることができます。特定のNVRのみ、2TB以上の容量のUSBデバイスをフォーマットすることができます。
- バックアップ中、進捗バーに進捗状況が表示されます。ここで、Xは現在バックアップされている録画の番号を示し、Yは録画の総数を示します。バックアップをキャンセルするにはキャンセルをクリックします。
- バックアップファイルには、カメラID_S録画開始時刻_E録画終了時刻.ファイル拡張子といった次の形式で名前が付けられます。例えば、D1-S20220823000400_E20220823003148.mp4では、Sは開始時刻、Eは終了時刻を示します。

ビデオクリップのバックアップ

録音をクリッピングして、USBストレージデバイスに保存することを指します。右クリックしてから**再生**を選択すると、再生ページに進みます。



2. **HD** をクリックして、再生ツールバーのHDまたはSDを選択します。デフォルトはHDです。
3. 録画したビデオを再生するカメラを選択します。 **✂** をクリックすると、再生中にビデオをクリップします。 **✂** をクリックすると、ビデオクリップが保存されます。
4. **view** をクリックすると、**ビデオクリップタブ**にビデオクリップが表示され



- 希望のビデオクリップを選択して**バックアップ**をクリックします。



- パーティションとストレージパスを選択して、**バックアップ**をクリックします。録画したビデオはストレージデバイスの指定パスに保存されます。**新しいフォルダ**をクリックすると、録画用の新しいフォルダを作成することもできます。

8.2 画像のバックアップ

画像のバックアップとは、NVRのハードディスクに保存されている画像をUSBストレージデバイスにバックアップすることを指します。



画像バックアップのデフォルト形式は*.JPGです。

通常のスナップショットバックアップ

スケジュールスナップショット、手動スナップショット、イベントトリガースナップショットのバックアップを指します。

- メニュー> バックアップ> 画像**に進みます。

スナップショットバックアップ

☒ すべて
 ☒ D1
 ☒ D2
 ☒ D3
 ☒ D4

開始時刻 2023-06-05 00:00:00

終了時刻 2023-06-05 23:59:59

画像タイプ すべて

検索 終了

- 希望のカメラを選択します。デフォルトでは、全部のカメラが選択されています。
- 画像の種類、開始時間、終了時間などの検索条件を設定します。
- 検索**をクリックします。検索結果が表示されます。右側に表示の画像は、デフォルトでのリストの最初の結果です。

カメラID	時刻	サイズ
☐ D1	2023-06-05 11:16:35	31KB
☐ D1	2023-06-05 11:16:38	31KB
☐ D1	2023-06-05 11:16:38	31KB

合計: 3 ページ: 1/1

必要容量: 0 KB

1

全てバックアップ
 バックアップ
 取消



解像度: 960 x 540

メモ

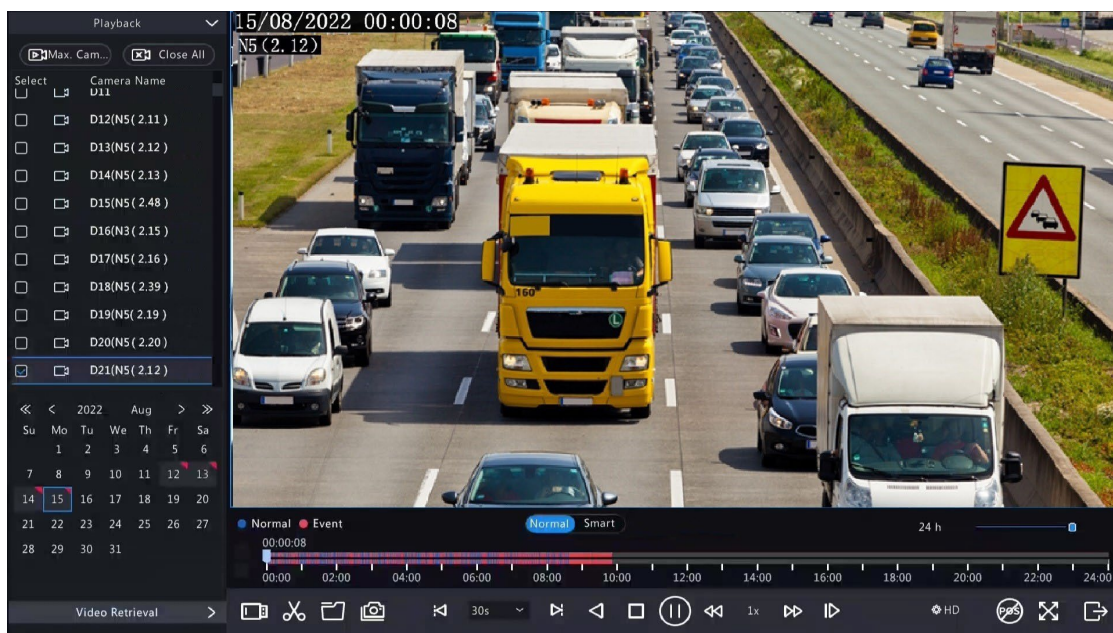
画像の解像度は、出カインターフェイスの解像度や、スナップショットを撮影した際に表示されていたウィンドウの枚数によって異なります。

- 必要に応じて、画像のバックアップを取る方法を選択します。
 - 1枚または複数の画像をバックアップするには、目的の画像を選択し、**バックアップ**をクリックします。

- ・ リスト内のすべての画像をバックアップする場合は、**すべてをバックアップ**をクリックします。
6. パーティションとストレージパスを選択して、**バックアップ**をクリックします。画像は、ストレージデバイスの指定パスにバックアップされます。**新しいフォルダ**をクリックすると、画像用の新しいフォルダが作成できます。

再生スナップショットバックアップ

再生中に撮影したスナップショットをUSBストレージにバックアップすることを指します。



1. **再生**に進みます。
2. **HD** をクリックして、再生ツールバーのHDまたはSDを選択します。デフォルトはHDです。録画したビデオを再生するカメラを選択します。**📷** をクリックすると、再生中にスナップショットが撮影されます。
3. 保存したスナップショットを表示するには、**VIEW** をクリックします。





5. 希望のスナップショットを選択して**バックアップ**をクリックします。
6. パーティションとストレージパスを選択して、**バックアップ**をクリックします。続いて、スナップショットはストレージデバイスの指定パスに保存されます。**新しいフォルダ**をクリックすると、スナップショット用の新しいフォルダが作成できます。

9 ストレージ

ディスクストレージのパラメータを設定します。



ストレージモードは、カメラ>エンコーディングで設定できます。

9.1 録画スケジュール

録画を予約します。

デフォルトでは週7日24時間の通常録画スケジュールが有効化されます。必要に応じて描画や編集を行い、スケジュールを修正することができます。

メニュー>ストレージ>録画スケジュールに進みます。

スケジュール有効にチェックを入れます。

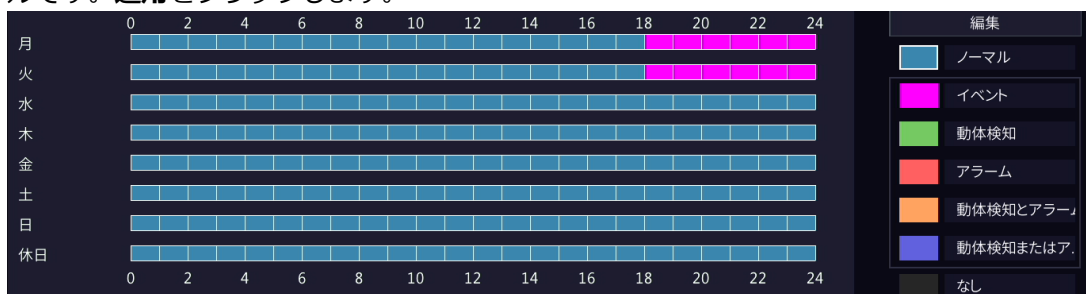
録画スケジュールを設定したいカメラを選択してください。

スケジュールを設定する

1. 録画タイプを選択します。

録画タイプ	説明
ノーマル	指定した時間帯のビデオを録画します。
イベント	イベント連動動作アラームの発生時にビデオを録画します。
動体検知	動きがあった場合に録画します。
アラーム	アラーム入力時にビデオを録画します。先にアラーム入力の設定を行う必要があります。
動体検知とアラーム	モーションとアラーム入力が同時に発生した場合、ビデオを録画します。
動体検知またはアラーム	モーションまたはアラーム入力が発生した場合、ビデオを録画します。
なし	録画スケジュールがありません。

- タイムスケジュール上をドラッグして、録画タイプに応じた時間帯を指定します。下図は、月曜日と火曜日の18:00~24:00にイベント録画、それ以外の時間は正常録画という録画スケジュールです。**適用**をクリックします。



スケジュールの編集

- 編集**をクリックします。

- 日付を選択します。



休日を選択する前に、システム＞時刻＞休日で休日の設定が必要です。

3. **すべて**チェックボックスを解除します。デフォルトで週7日24時間の正常録画スケジュールが有効になっているため、**すべての**チェックを外さない限り、スケジュールは変更できません。
4. 時間帯とそれに対応する録画タイプを設定します。

5. 別の日に同じ設定を適用するには、**コピー先**の後に希望の日を選択します。
6. **確認**をクリックします。

7. **適用**をクリックします。

その他の設定

項目	説明
事前録画時間	アラーム前に録画する長さです。デフォルト値は10秒です。
事後録画時間	アラーム後に録画する長さです。デフォルト値は60秒です。
音声ストレージ	音声を記録するかどうかを設定します。初期設定では、音声は記録されません。

9.2 スナップショットスケジュール

スナップショットを予約します。

1. **メニュー>ストレージ>スナップショットスケジュール**に進みます。

2. スナップショットスケジュールを設定するカメラを選択してください。
3. **スケジュール有効にチェック**を入れます。
4. スナップショットのスケジュールを設定します。

スナップショットのタイプ	説明
ノーマル	指定した時間帯の画像をキャプチャします。
イベント	イベント起動型アラームの発生時に画像をキャプチャします。
動体検知	動きがあった場合に画像をキャプチャします。
アラーム	アラーム入力時に画像をキャプチャします。 アラームスケジュールを作成する前にアラーム入力を設定してください。
動体検知とアラーム	モーションとアラーム入力が発生した場合、画像をキャプチャします。
動体検知またはアラーム	モーションまたはアラーム入力が発生した場合、画像をキャプチャします。
なし	スナップショットスケジュールがありません。

5. **適用**をクリックします。

9.3 ハードディスクの管理

ディスクの使用とプロパティの設定、ディスクのフォーマットを行います。

メニュー>ストレージ>ハードディスクに進みます。



開始前に、すべてのディスクが正しくインストールされていることを確認してください。
管理者のみがディスクのフォーマットやディスクの設定の編集ができます。

番号	合計(GB)	空き容量(GB)	状態	タイプ	用途	プロパティ	設定
1	3726.02	3641.50	ノーマル	ローカルディスク	録画・スナップショット	読取/書込	

Current Storage Policy:Overwrite; Retention(day):155

ディスク使用とプロパティの設定

- 1.編集するハードディスクの をクリックします。

編集

番号	1
タイプ	ローカルディスク
用途	録画・スナップショット
プロパティ	読取/書込

確認

戻る

2. 使用とプロパティを設定します。

使用法	説明
録画/スナップショット	録画やスナップショットを自動的に保存するために使用します。
読込/書込	録画/スナップショット保存、録画再生、スナップショット検索に対応したディスクです。
読込専用	このディスクは、録画再生とスナップショット検索にのみ対応し、録画/スナップショット保存には対応していません。

3. **確認**をクリックします。

9.4 容量設定

指定のカメラのビデオや画像を保存するスペースを割り当てます。

1. **メニュー>ストレージ>容量設定**に進みます。

容量設定

カメラ選択	D1(IP Camera 01) ▼
録画使用量(GB)	13
画像使用量(GB)	0
ディスク容量	割当可能容量:3726 GB 総容量:3726 GB
最大録画容量(GB)	0
最大画像容量(GB)	0

コピー 適用 終了

2. カメラを選択し、録画保存するディスクを選択し、そのディスクにカメラのビデオや画像の保存スペースを割り当てます。

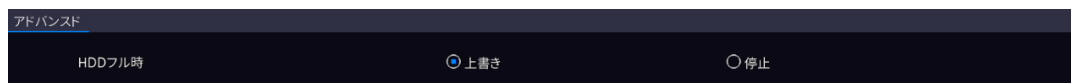
空き容量タイプ	説明
録画使用量(GB)	映像録画に使用する最大容量を設定します。
画像資料量(GB)	スナップショット保存に使用する最大容量を設定します。
ディスク容量	ディスクの割当及び総容量を表示します。
最大録画容量(GB)	最大録画に使用できる容量を表示します。
最大画像容量(GB)	最大スナップショット保存に使用できる容量を表示します。

3. **適用**をクリックします。
4. **コピー**をクリックすると、他のカメラにも同じ設定が適用できます。

9.5 アドバンスド

ストレージが一杯になったときの動作を設定します。

1. **メニュー>ストレージ>アドバンスド**に進みます。



ストレージが一杯になったとき、既存のデータを上書きするか、ストレージを停止するかを選択します。

HDDがフルの場合	説明
上書き	ディスク空き容量は、ディスクがカメラによってストレージとして使用されているかどうかに応じて、割り当てられた空き容量と残りの容量に分けられます。 - カメラのストレージ空間が割り当てられていない場合、残りのディスク空間を使用し、残りの空間を使い切った時点で最も古いデータが上書きされます。  メモ ディスクの残量は変動しやすく、残量不足により古い録画が上書きされる可能性があるため、ストレージ空間の割り当ては 慎重に実行してください。例えば、ディスク容量が20Gでカメラが2台搭載されたデバイスで、カメラ1に10Gを割り当てた場合、カメラ2にストレージ空間が割り当てられなければ、残りの10Gを使用することになります。この場合、カメラ2の過去5日間の録画を表示することができます。ただし、新たにカメラを追加した場合、カメラ2のストレージ空間が少なくなり、表示できる録画日数が少なくなります。 - カメラにストレージ空間が割り当てられた場合、割り当てられた空間がすべて使用されると、最も古いデータが上書きされます。
停止	このオプションは、容量設定が割り当てられているカメラにのみ有効です。この機能を有効にすると、カメラの割り当てられた空間を使い切った場合、新しい録画/スナップショットは保存されません。

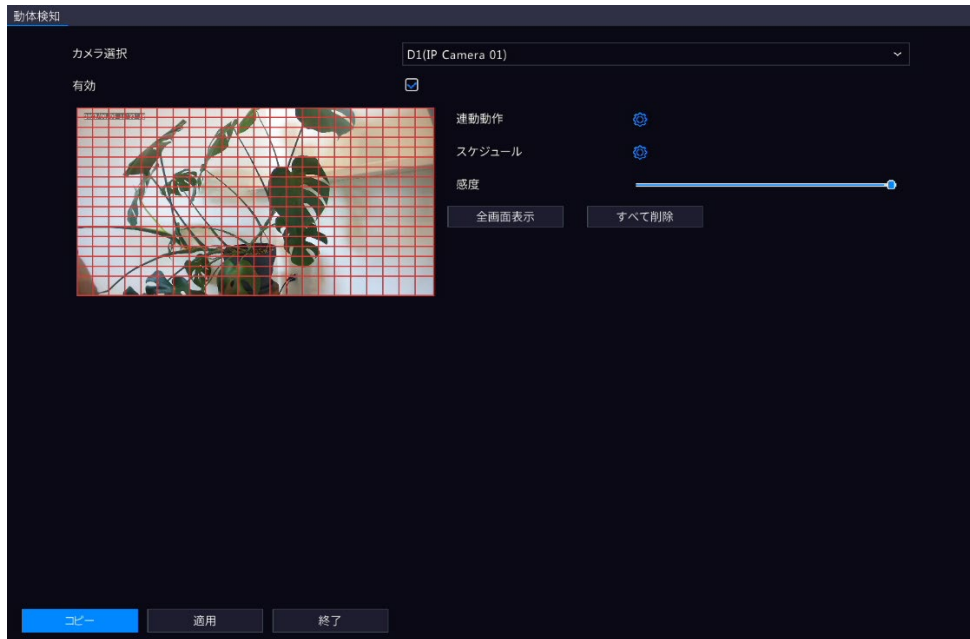
10 アラームの設定

アラーム発生時にユーザーに警告するためのアラームルールおよびアラーム連動動作を設定することができます。

10.1 動体検知

動体検知は、画像上の指定グリッドの動きを検出します。検出ルールがトリガーされた場合、アラームが通報されます。アイコンがアラーム発生時にプレビュー画面の右上に表示されます。

1. **メニュー> アラーム> 動体検知**に進みます。



2. 希望のカメラを選択して、**有効**にチェックを入れます。
3. 検知エリアを設定します。デフォルトはフル画面です。必要に応じてグリッド検知エリアを調整することができます。
 - グリッドを消すには、グリッド部分をクリックまたはドラッグします。
 - グリッドを再描画するには、**すべて削除**をクリックし、空白部分をクリックまたはドラッグしてグリッドを描画します。
 - フル画面を検知する場合は、**全画面表示**をクリックします。

メモ

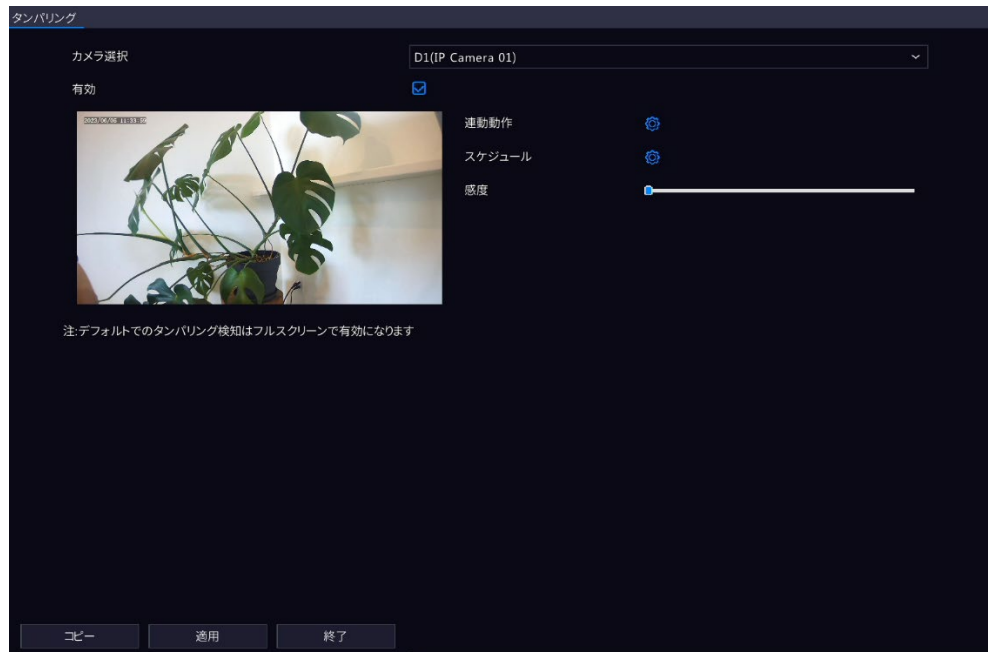
動体が検知されると、左側の画像で物体が写っているグリッドが赤色で表示されます。

4. スライダーをドラッグして検知感度を調整します。感度が高いほど、小さな動きも検知しやすくなり、一方で誤報が起りやすくなります。シーンや実際のニーズに応じて設定します。
5. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックし、**連動動作ページ**と**スケジュールページ**に進みます。
6. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のパラメータとカメラを選択します。
7. **適用**をクリックします。

10.2 タンパリング

タンパリングは、ライブ映像の改ざんを検知します。検出ルールがトリガーされた場合、アラームが通報されます。

1. **メニュー> アラーム> タンパリング**に進みます。

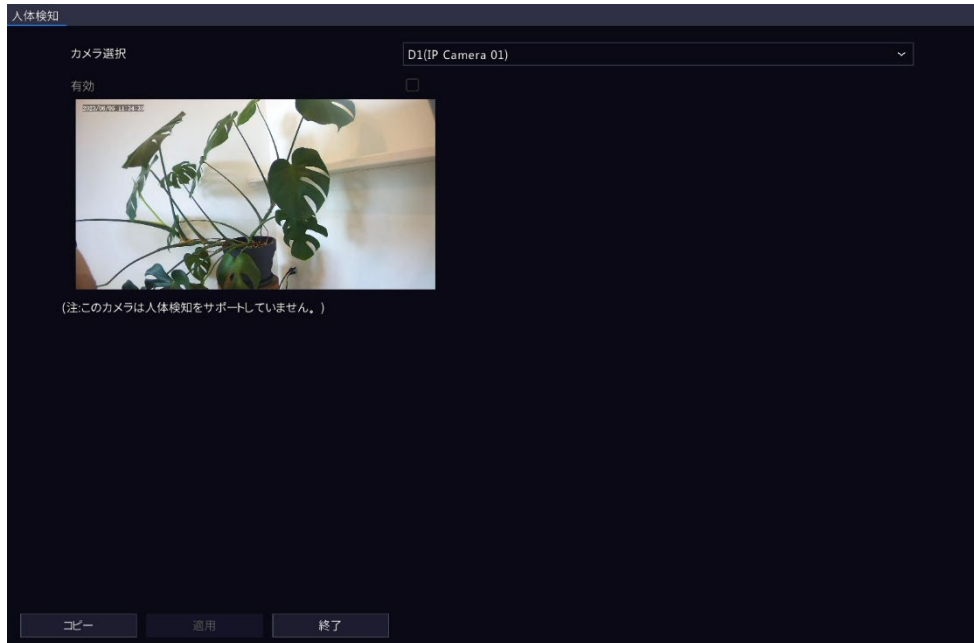


2. 希望のカメラを選択して、**有効**をクリックします。検知エリアは、デフォルトではフル画面で、編集することはできません。
3. スライダーをドラッグして検知感度を調整します。感度が高いほど、検知率は高くなり、一方で誤報が起こりやすくなります。シーンや実際のニーズに応じて設定します。
4. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックし、それぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます。
5. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のパラメータとカメラを選択します。
6. **適用**をクリックします。

10.3 人体検知

人体検知は、指定エリアにいる人を検知します。検知ルールがトリガーされると、アラームが通報されます。

1. **メニュー> アラーム> 人体検知**に進みます。



2. 希望のカメラを選択して、**有効**をクリックします。
3. 検知ルールを設定します。検知ルールは1つだけ許可されます。

をクリックし、プレビューウィンドウ内でドラッグして、長方形の検出エリアを描きます。検知エリアは1つだけ許可されます。

メモ

検出エリアを再設定するには、設定ルールを選択し、をクリックします。検知エリアを削除するにはをクリックします。

4. スライダーをドラッグして検知感度を調整します。感度が高いほど、人が検知されやすくなり、一方で誤報が起こりやすくなります。シーンや実際のニーズに応じて設定します。
5. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックし、それぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます。
6. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のパラメータとカメラを選択します。
7. **適用**をクリックします。

10.4 ビデオロス

NVRが、カメラのビデオ信号が消失したことを検知すると、ビデオロスアラームが通報されます。

1. **メニュー> アラーム> ビデオロス**に進みます。



2. デフォルトではビデオロスアラームが有効になっています。1個のチャンネルでビデオロスアラームを無効するには、をクリックします。するとこれがに変化します。
3. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックし、それぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます。
4. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックして、希望のパラメータとカメラを選択し、**確認**をクリックします。

10.5 アラーム入出力

アラーム入力とアラーム出力を設定します。

10.5.1 アラーム入力

外部アラーム入力デバイスのアラームモード、検知スケジュール、アラーム連動動作を設定することができます。

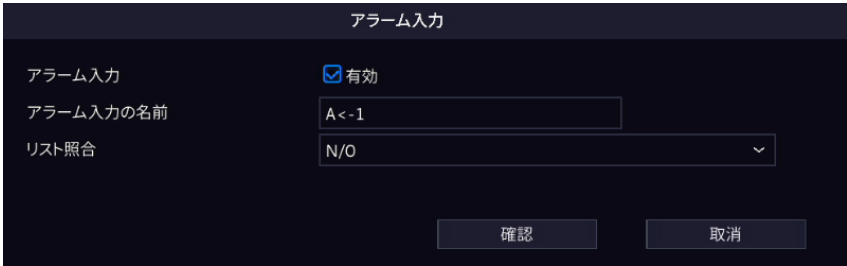
外部アラーム入力デバイスには、NVRのALARM INインターフェイスとカメラのALARM INインターフェイスに接続されたデバイスが含まれます。

1. **メニュー> アラーム> 入力/出力**に進みます。設定するアラーム入力チャネルを選択します。



番号	アラーム入力の名前	アラーム状態	リスト照合	編集	連動動作	スケジュール	スイッチによる武...	リンクされたチャネル
A<-1	A<-1	無効	N/O					
A<-2	A<-2	無効	N/O					
A<-3	A<-3	無効	N/O					
A<-4	A<-4	無効	N/O					
D2<-1	D2<-1	無効	N/O					
D4<-1	D4<-1	無効	N/O					
D4<-2	D4<-2	無効	N/O					

- A<-1 : **A**はNVRのALARM INインターフェースを指し、**1**は最初のALARM INインターフェースを指します。同様に、**A <-2**はNVRの2番目のALARM INインターフェースを示します。ALARM INインターフェース数は、NVRの機種によって異なります。仕様については、デバイスデータシートを参照してください。
 - D <-1 : **D**はチャンネルを指し、数字はチャンネルIDを指します。**D<-1**の場合、アラーム入力デバイスはチャンネルIDが1のカメラのALARM INインターフェースに接続されていることを示します。同様に、**D <-2**は、アラーム入力デバイスがチャンネルIDが2のカメラのALARM INインターフェースに接続されていることを示します。カメラにALARM INインターフェースがない場合、数値は表示されません。
2. をクリックして、アラーム入力パラメータを設定します。設定後、**確認**をクリックします。



アラーム入力	
アラーム入力	☒ 有効
アラーム入力の名前	A<-1
リスト照合	N/O
確認 取消	

項目	説明
アラーム入力	有効 を選択し、アラーム入力を有効にします。
アラーム入力名	デフォルト名は、アラーム入力番号です。必要に応じて、名前を変更することができます。

アラームタイプ	この項目は、アラーム入力が有効な場合に適用されます。デフォルトはN.O.です。 - N.O.: アラーム入力デバイスが通常クローズの場合、このオプションを選択します。デバイスが回路を開いてアラームを入力し、NVRをトリガーとしてアラーム回路を開き、アラームを通報します。 - N.C.: アラーム入力デバイスが通常オープンの場合、このオプションを選択します。デバイスが回路を閉じてアラームを入力し、NVRをトリガーとしてアラーム回路を開き、アラームを通報します。
---------	--

3. ワンキー解除を設定します。

(1) ワンキー解除を有効にするには、 **スイッチによる解除**を有効にすると、A<-1がアラームを通報しても、設定動作はトリガーされません。

(2) ワンキー解除を他のチャンネルに適用するには、 **リンクされたチャンネル**欄をクリックし、目的のチャンネルまたは**すべて**を選択し、**適用**をクリックします。

4. アラーム**連動動作**とスケジュールを設定します。対応するをクリックし、それぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます。

5. アラーム入力パラメータを他のカメラに適用するには、**コピー**をクリックして、目的のチャンネルまたは**コピー先**を選択し、**確認**をクリックします。

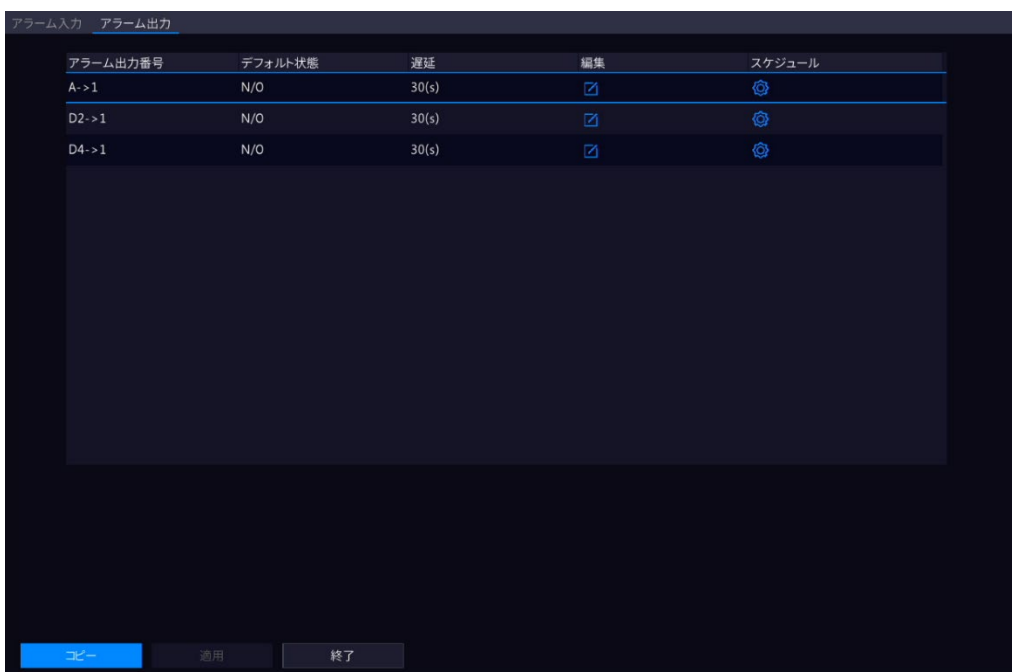
6. **適用**をクリックします。

10.5.2 アラーム出力

外部アラーム出力デバイスのアラームモードと検知スケジュールを設定します。

外部アラーム出力デバイスには、アラームライトとアラームベルなど、NVRのALARM OUTインターフェイスとカメラのALARM OUTインターフェイスに接続されたデバイスが含まれます。

1. **メニュー> アラーム> 入力/出力> アラーム出力**に進みます。



2. 設定するアラーム出力チャンネルを選択します。

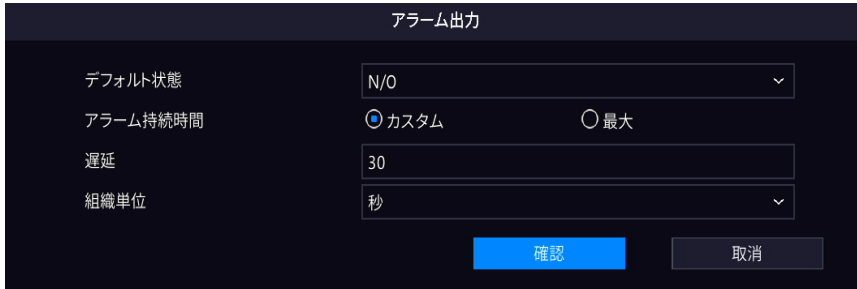
- A>-1 : **A**はNVRのALARM OUTインターフェイスを指し、**1**は最初のALARM OUTインターフェイスを指します。同様に、**A <-2**はNVRの2番目のALARM OUTインターフェイスを示しま

す。ALARM

OUTインターフェイス数は、NVRの機種によって異なります。仕様については、デバイスデータシートを参照してください。

- D>-1：Dはチャンネルを指し、数字はチャンネルIDを指します。D->1の場合、アラーム入力デバイスはチャンネルIDが1のカメラのALARM OUTインターフェイスに接続されていることを示します。同様に、D->2は、アラーム入力デバイスがチャンネルIDが2のカメラのALARM OUTインターフェイスに接続されていることを示します。カメラにALARM OUTインターフェイスがない場合、数値は表示されません。

3.  をクリックして、アラーム出力パラメータを設定します。設定後、**確認**をクリックします。



項目	説明
デフォルト状態	ドロップダウンリストからデフォルト状態を選択します。デフォルトはN.O.です。 • N.O.: 外部デバイスが通常オープンの場合、このオプションを選択します。 • N.C.: 外部デバイスが通常クローズの場合、このオプションを選択します。
アラーム継続時間/遅延時間(秒)	出力アラームが終了した後に継続する時間の長さを設定します。 • カスタム: 有効にすると、必要に応じて継続時間を設定することができます。NVRでアラームがクリアされた後、他社アラームデバイスは設定された継続時間が終了するまでアラームを継続します。  メモ チャンネルによって対応する遅延時間が異なる場合があります。ほとんどのチャンネルで、有効範囲は5～3600秒となります。一部チャンネルでは、有効範囲が1～3600秒となります。 • 最大: 有効にすると、アラーム遅延時間を設定することはできません。他社アラームデバイスは、手動でクリアするまでアラームを継続します。
組織単位	遅延時間の単位を秒/ミリ秒から設定します。

4. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックしそれぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます
5. アラーム出力パラメータを他のカメラに適用するには、**コピー**をクリックして、目的のチャンネルまたは**コピー先**を選択し、**確認**をクリックします。
6. **適用**をクリックします。

10.6 システム警告

デバイスの異常なイベントに対するアラート動作を設定します。イベントが発報すると、NVRはアラートを発令します。

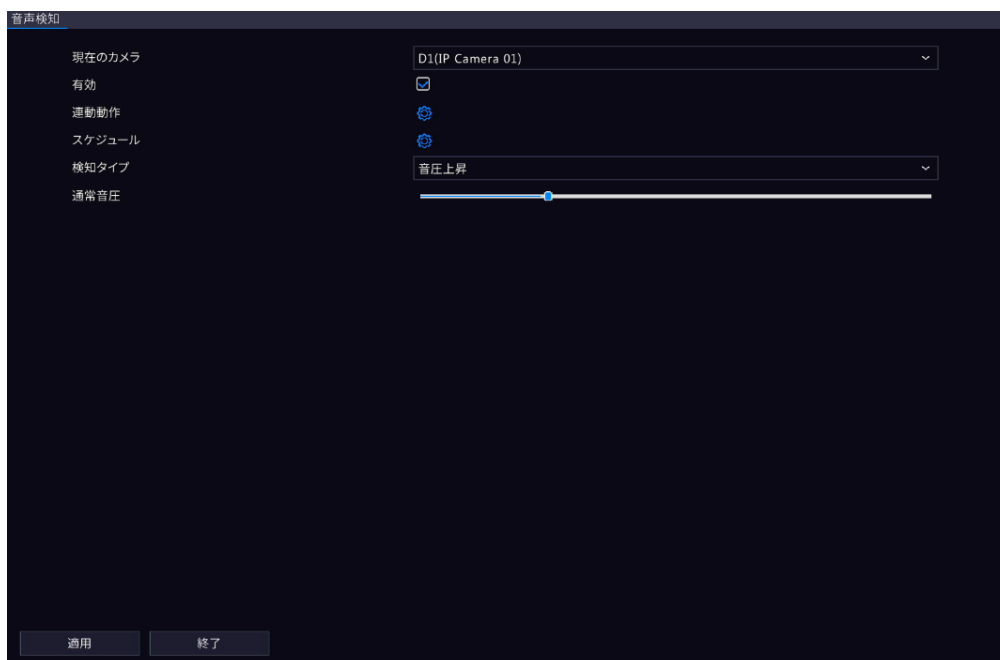
1. **メニュー> アラーム> システム警告**に進みます。
2. ドロップダウンリストからアラートタイプを選択します。
 - IPの競合：IPカメラがネットワーク上で同じIPアドレスを使用しています。
 - ネットワーク未接続：IPカメラが切断されています。
 - ディスクオフライン：ディスクがない、またはディスクが正しく接続されていません。
 - ディスクの異常：ディスク正常に動作していません。
 - 不正アクセス：ユーザー名/パスワードが正しくない。
 - ハードディスクの空き容量が少ない：ディスクの空き容量が足りなくなりそうです。
 - ハードディスクフル：ディスクの空き容量がゼロになりました。
 - 録画/スナップショットの異常：ディスクがオフラインまたは異常のため、ビデオ/スナップショットが正常に保存できません。
3. ブザー、Eメール送信、ポップアップウィンドウなどのアラート動作を設定します。
4. アラーム出力チャンネルを設定します。**すべて**または特定のアラーム出力チャンネルを選択することができます。

5. **適用**をクリックします。
6. 上記操作を繰り返し、他のイベントに対するアラート動作を設定します。

10.7 音声検知

音声検知は、入力オーディオ信号を検知します。例外を検出した場合、アラームが通報されます。音声収集デバイス (サウンドピックアップなど) が接続されており、音声検出が有効になっていることを確認します。

1. **メニュー> アラーム> 音声検知**に進みます。



2. 希望のカメラを選択して、**有効**にチェックを入れます。
3. アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応する⚙️をクリックしそれぞれ連動動作ページと**スケジュール**ページに進みます。音声検知ルールを設定します。

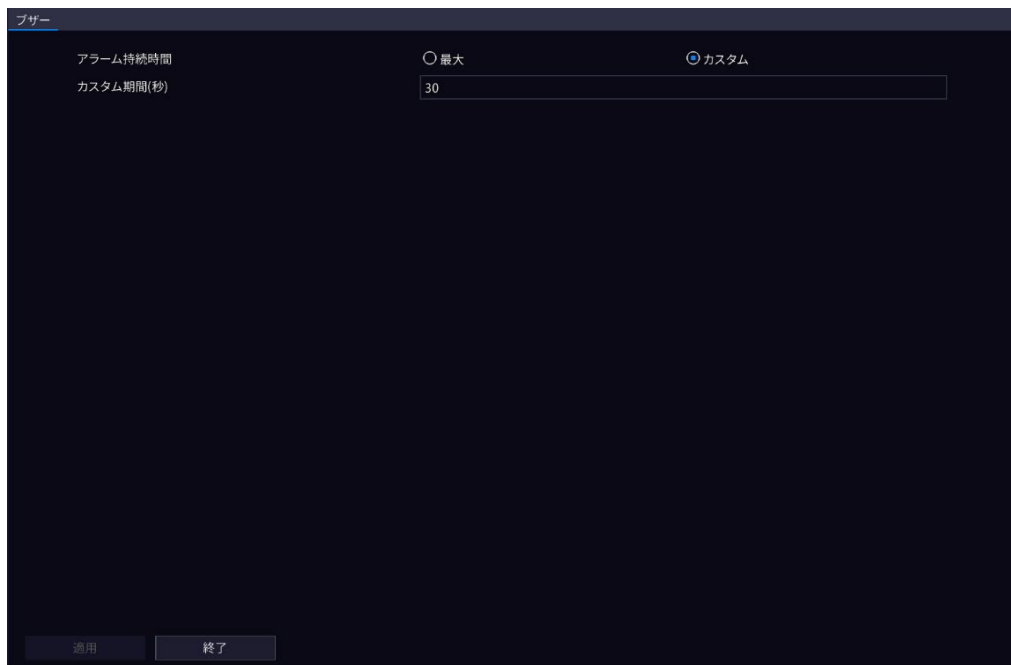
項目	説明
検知のタイプ	ドロップダウンリストから音声検知タイプを選択します。 - 音圧上昇: 音量の上昇速度が設定値を超えるとアラームが発令されます。 - 音圧下降: 音量の下降速度が設定値を超えるとアラームが発令されます。 - 音圧変化: 音量の上昇または下降速度が設定値を超えるとアラームが発令されます。 - しきい値: 音量がしきい値を超えるとアラームが発令されます。
通常音圧	スライダーをドラッグして、差としきい値を調整します。 2つの音量の差。音量の上昇または下降速度が差を超えるとアラームが発令されます。(範囲:0～400)。この項目は、検知タイプが音圧上、音圧降下または音圧変化のときに適用されます。

4. **適用**をクリックします。

10.8 ブザー

NVRのブザーのアラーム継続時間を設定します。

1. **メニュー> アラーム> ブザー**に進みます。



2. アラーム継続時間を設定します。デフォルトは30秒です。
 - 最大：有効にすると、アラーム継続時間を設定することはできません。アラームが発生すると、アラーム終了までブザーが鳴り続けます。
 - カスタム：有効にすると、アラート発生時のブザー継続時間を設定することができます。有効範囲は1～600秒です。アラームが発生すると、アラーム終了までブザーが鳴り続けます。継続時間内に先にアラームが終了すると、自動的に停止します。



メモ

ブザーアラームを手動で停止するには、プレビューウィンドウで右クリックし、手動>ブザーを選択します。

3. **適用**をクリックします。

10.9 人物検出アラーム

指定エリアに存在する人数が設定のしきい値を超えた場合、アラームが発報します。



メモ

この機能を使用するには、カメラで人流カウントがサポートされており、VCAページで有効になっていることを確認します。詳しくは人流カウントをご覧ください。

人物検出アラームを設定する

1. **メニュー> アラーム> 人体検出アラーム**に進みます。

人体検出アラーム

Select Scene	1	
Scene Name	Scene1	
Enable People Present Alarm	☐	
スケジュール		
カメラ選択		
人体検知アラームしきい値		
● Number of People for Minor Alarm	100	連動動作
● Number of People for Major Alarm	200	連動動作
● Number of People for Critical Alarm	300	連動動作

カウント結果の削除

Manual Reset	0	☐
Auto Reset	日	01:00

適用 終了

- 希望のカメラを選択して、**Enable People Present Alarm**にチェックを入れます。
- アラーム連動動作とスケジュールを設定します。対応するをクリックしそれぞれ**連動動作**ページと**スケジュール**ページに進みます。
- 監視エリア内で許容される最大人数である人物検出アラームしきい値を設定します。存在する人数が設定のしきい値を超えた場合、アラームが発生します。有効範囲は1～100,000です。
Number of People for Minor Alarm < Number of People for Major Alarm < Number of People for Critical Alarmの順に設定してください。
- 適用**をクリックします。

データの表示

プレビュー画面で、右上のドロップダウンリストから**人数カウント**を選択すると、入室者数、退室者数、在室者数が表示されます。

人数カウント

入室者数

退室者数

在室者数

入室可能人数

10.10 ワンキー解除

NVRまたはIPCのアラーム連動動作をワンクリックでキャンセルします。

NVR警戒解除

1. **メニュー> アラーム> ワンキー警戒解除> NVR警戒解除**に進みます。

2. 解除モードを選択し、パラメータを設定します。

- OFF: NVRでは解除は無効です。
- スケジュールによる警戒解除: NVRが1週間単位で特定の時間帯に解除されます。

- (1) 右の**スケジュールによる警戒解除**をクリックし、解除期間を設定します。**確認**をクリックして、**NVR警戒解除**ページに戻ります。



- 1日に最大4回まで解除することができます。
- 他の日に同じ解除スケジュールを適用するには、すべてまたは予定を選択し、確認をクリックします。

- (2) 解除する動作を選択します。デフォルトはすべての動作です。

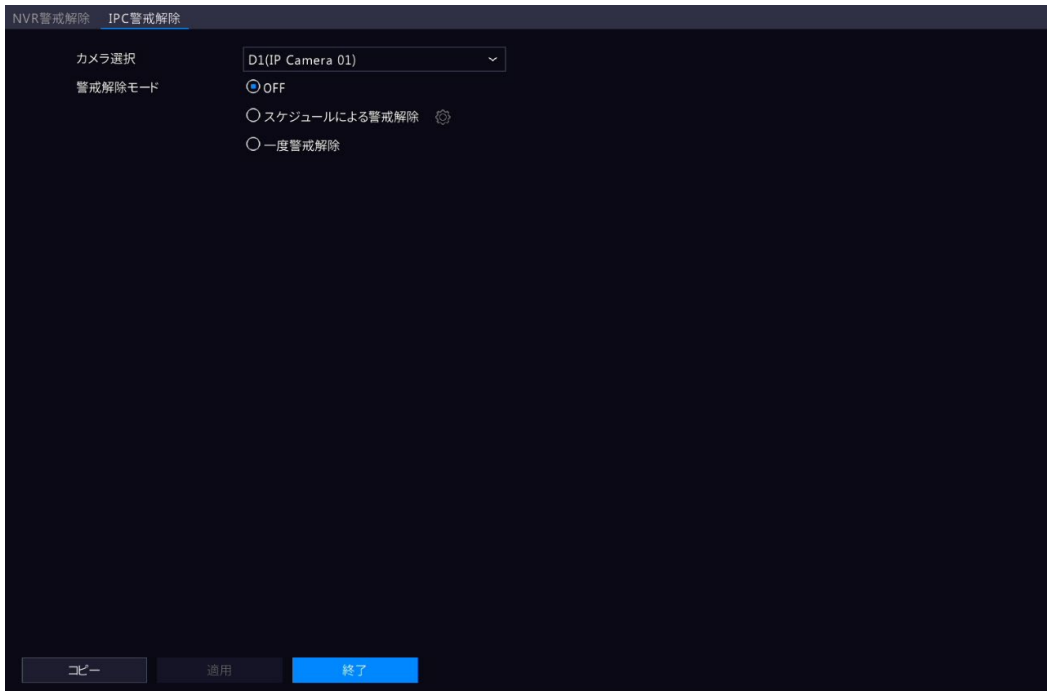
- (3) **1度警戒解除**を選択し、警戒解除時間を設定します。

1度警戒解除: 指定された時間帯にNVRが解除されます。

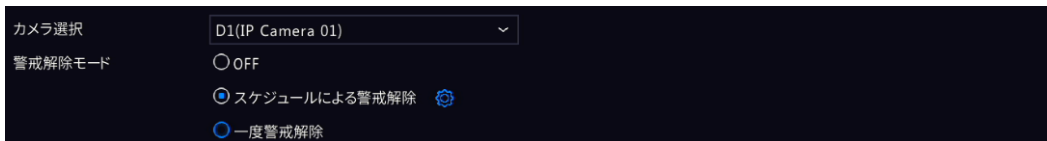
3. 解除する動作を選択します。デフォルトはすべての動作です。**適用**をクリックします。

IPC解除

4. メニュー> アラーム> ワンキー警戒解除> IPC警戒解除に進みます。



1. 希望のカメラを選択します。
2. 解除モードを選択し、パラメータを設定します。
 - **オフ**: IPCでは解除は無効です。
 - **スケジュールによる警戒解除**: IPCが1週間単位で特定の時間帯に解除されます。

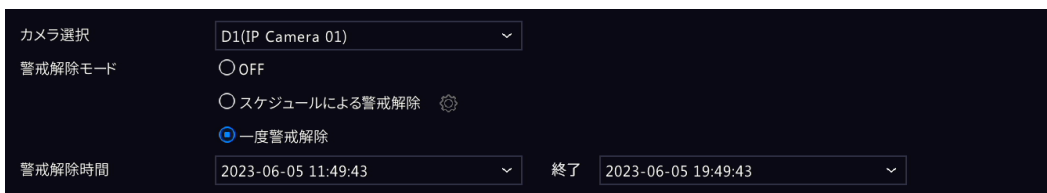


IPC警戒解除ページに戻ります。



メモ

- 1日に最大4回まで解除することができます。
- 他の日に同じ解除スケジュールを適用するには、Allまたは予定を選択し、OKをクリックします。
- スケジュールによる警戒解除は、デフォルトでIPCのウェブインターフェイスで設定されたすべての動作を取り消します。IPCのウェブインターフェイスで設定を変更することができます。
- 1回警戒解除：指定された時間帯にIPCが解除されます。**一度警戒解除**を選択し、解除開始時刻と解除終了時刻を設定します。



3. 他のカメラに同じ設定を適用するには、**コピー**をクリックし、希望のカメラを選択します。
4. **適用**をクリックします。

10.11 手動

手動でアラーム出力を起動またはクリアします。



手動アラームが最も優先されます。

手動アラーム

右クリックして、**サブメニュー> 手動> マニュアルアラーム**に進みます。



1. 手動でアラームを起動またはクリアします。

- ・ 開始：開始するチャンネルを選択し、**トリガー**をクリックすると、がに変更されます。
- ・ クリア：クリアするチャンネルを選択し、**削除**をクリックすると、がに変更されます。

ブザー

1. 右クリックして、**サブメニュー> 手動> ブザー**に進みます。



2. ブザーを停止するには、（起動している）ブザーを選択し、**停止**をクリックします。

11 システムメンテナンス

システムの稼働状況を表示して、システムの安定的な稼働を確保します。

11.1 システム情報

デバイスの基本情報と動作ステータスを表示します。

11.1.1 基本情報

NVRモデル、ファームウェアバージョン、ビルド日など、デバイスの基本情報を表示します。

1. **メニュー> メンテナンス> システム情報> 基本情報**に進みます。デバイスの基本情報が表示されます。



パラメータ	説明
モデル	NVRモデルです。
デバイス番号	シリアル番号です。
ファームウェアバージョン	NVRのファームウェアバージョンです。
ファームウェアリリース日	現在のファームウェアバージョンのリリース日です。
稼働時間	最後の起動以降、NVRが動作している時間の長さです。

2. スマートフォンにアプリをインストールし、QRコードをスキャンしてNVRを管理することができます。

11.1.2 カメラステータス

カメラの状態情報を表示します。

メニュー> メンテナンス> システム情報> カメラステータスに進みます。カメラ名、オンライン/オフライン状態、イベントタイプ、ステータスなどのカメラ情報を表示します。

基本情報 カメラステータス 録画 オンラインユーザー ディスク						
カメラID	カメラ名	状態	動体検知	タンバリング	ビデオロス	音声
D1	IP Camera 01	オンライン	OFF	OFF	ON	OFF
D2	IP Camera 02	オンライン	ON	OFF	ON	OFF
D3	IP Camera 03	オンライン	トリガー	OFF	ON	OFF
D4	IP Camera 04	オンライン	ON	OFF	ON	OFF

終了

11.1.3 録画 接続したカメラの録画の状態やエンコードパラメータを表示します。

メニュー> メンテナンス> システム情報> 録画に進みます。録画タイプ、録画の状態、診断、エンコードパラメータなどの録画情報が表示されます。

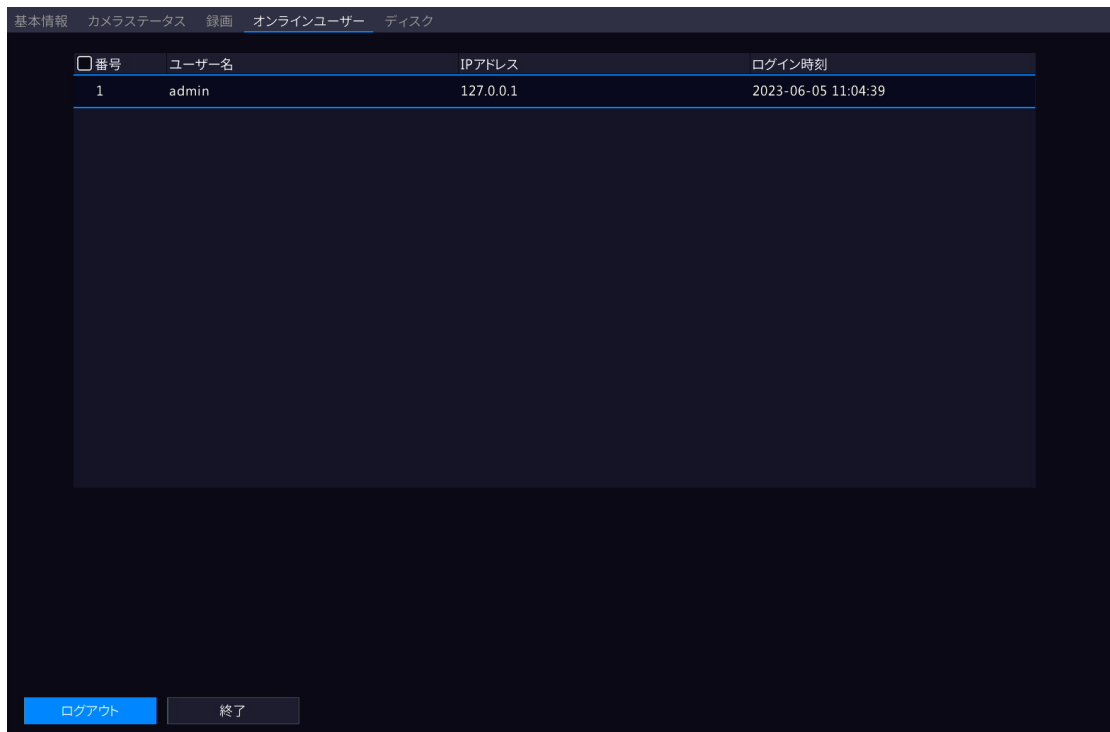
基本情報 カメラステータス 録画 オンラインユーザー ディスク							
カメラID	カメラ名	タイプ	状態	診断	ストリームタイプ	フレームレ...	ビットレート(... 解像度
D1	IP Camera 01	ノーマル	録画中	ノーマル	メインおよび第三...	30	337 2688X1520
D2	IP Camera 02	ノーマル	録画中	ノーマル	メインおよび第三...	30	1752 2592X1944
D3	IP Camera 03	イベント	録画中	ノーマル	メインおよび第三...	30	155 1920X1080
D4	IP Camera 04	ノーマル	録画中	ノーマル	メインおよび第三...	15	362 4000X3000

終了

11.1.4 オンラインユーザー

ログインしているユーザーを表示し、必要に応じて非管理者ユーザーをNVRから強制的にログアウトさせます。

1. メニュー> メンテナンス> システム情報> オンラインユーザーに進みます。



2. 管理者以外のユーザーを選択し、**ログアウト**をクリックします。



管理者のみがユーザー権限を管理できます。

11.1.5 HDDの状態

NVRのHDDの状態やプロパティを表示します。

メニュー>メンテナンス>システム情報>ディスクに進みます。総容量、空き容量、ステータス、メーカー、プロパティなど、ハードディスクの情報を表示します。

HDD番号	合計(GB)	空き容量(GB)	状態	メーカー	プロパティ
1	3726.02	3641.25	ノーマル	WDC	読取/書込

総容量(GB)	3726.02
空き容量(GB)	3641.25

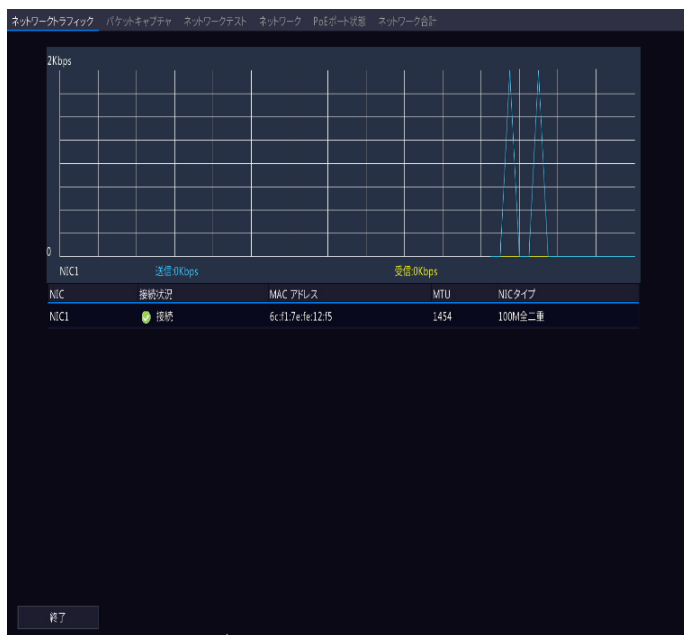
11.2 ネットワーク情報

ネットワークトラフィック、ネットワーク遅延、パケットロス率、ネットワークの状態などのネットワーク情報を表示します。

11.2.1 ネットワークトラフィック

接続状態、物理アドレス、MTU、NICタイプ、リアルタイムのトラフィックなど、ネットワークインターフェースカード（NIC）情報を表示します。

1. **メニュー> メンテナンス> ネットワーク情報> ネットワークトラフィック**に進みます。



2. NICを選択して、リアルタイムネットワークトラフィックを表示します。

11.2.2 パケットキャプチャ

ネットワークセキュリティやトラブルシューティングのために、ネットワークパケットをキャプチャ、表示、保存します。

1. **メニュー> メンテナンス> ネットワーク情報> パケットキャプチャ**に進みます。

NIC	IPアドレス	パケットバックアップ
NIC1	192.168.1.30	📄
NIC2	172.16.0.1	📄
ループバックインタフェース	127.0.0.1	📄

2. キャプチャしたパケットを保存するパーティションを選択します。
3. ポートやIPを指定します。
 - すべて：デバイスに接続されているすべてのポートおよびIPのパケットをキャプチャします。
 - 指定：指定のポートおよびIPのパケットをキャプチャします。
 - フィルター：指定のポートおよびIP以外のパケットをキャプチャします。
4. パケットサイズを設定します。デフォルトは8192Byteで、範囲は[0～8192]です。
5.  をクリックすると、NICがパケットのキャプチャを開始します。

メモ

プログレスバーが表示されます。タスクをキャンセルするには**キャンセル**をクリックします。

6. キャプチャしたデータが表示されます。

タスクが完了すると、キャプチャしたデータがUSBストレージのルートディレクトリに保存され、キャプチャしたパケットを含むファイルを表示する**バックアップ**ページが表示されます。また、**オープン**をクリックすると、**バックアップ**ページが開きます。



メモ

- ウェブクライアントでキャプチャタスクが開始されている場合、デバイスはパケットをキャプチャできません。
- キャプチャしたパケットの格納ファイル名の形式：NIC_YYYYMMDD_hhmmss.pcap。例：
- eth0_20220815_163632.pcap。
- PPPoEダイヤルアップが成功すると、NICリストに仮想NICが表示されます。また、NICのパケットをキャプチャすることもできます。

11.2.3 ネットワークテスト

ネットワークトラフィック、ネットワークレイテンシ、パケットロス率などを監視します。

ネットワークテストの設定

1. **メニュー> メンテナンス> ネットワーク情報> ネットワークテスト**に進みます。
2. **チャンネルを選択**にチェックを入れ、監視したいチャンネルを選択します。5チャンネルまで許可されます。
3. **アドレステスト**にチェックを入れ、テストしたいアドレスを入力します。IPアドレスまたはドメイン名を入力することができます。2つのIPアドレス（セミコロンで区切る）まで許可されます。
4. テスト期間を選択します。システムはこの期間、ネットワークの状態をテストします。30秒（デフォルト）、30秒、1分、5分、10分、30分、1時間のオプションがあります。
5. テストパケットサイズを設定します。デフォルトは1500Byteです。範囲は[64～4000]です。実

際のネットワークの状況に応じて設定します。

チャンネルを選択 ☒ D1(IP Camera 01) ?

テストアドレス ☒ 222.090.75.12 ?

テスト期間 30s

テスト パケット サイズ(バイト) 1500

テスト結果

現在表示中

チャート ☒ パケット損失率 ☐ ネットワーク遅延

6. **テスト開始**をクリックして、パケットロス率やネットワーク遅延をテストします。

テスト結果の表示

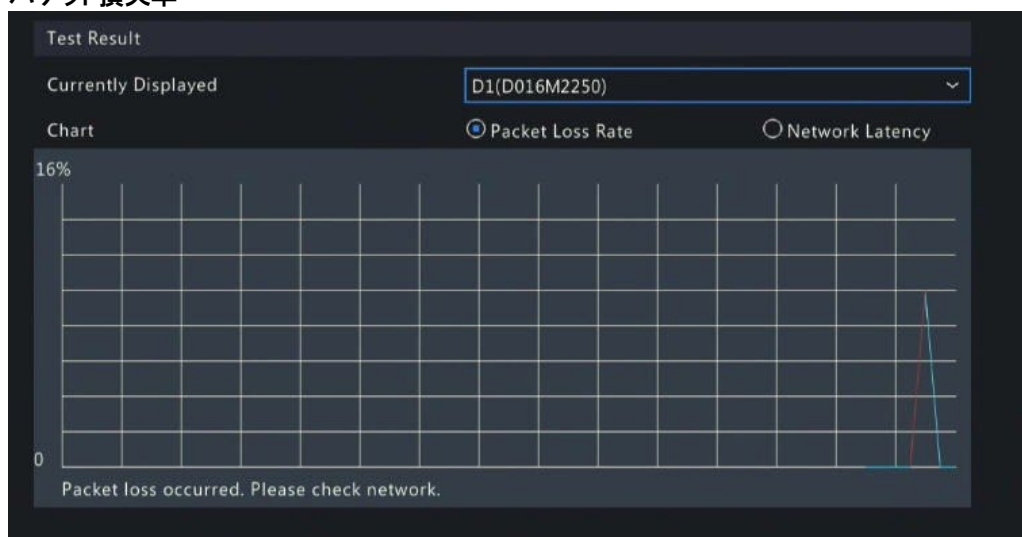
テストに成功すると、システムはテストデータを保存し、パケットロス率やネットワーク遅延を表示します。テストに失敗した場合、テスト結果には「目的地に到達できません」と表示されます。



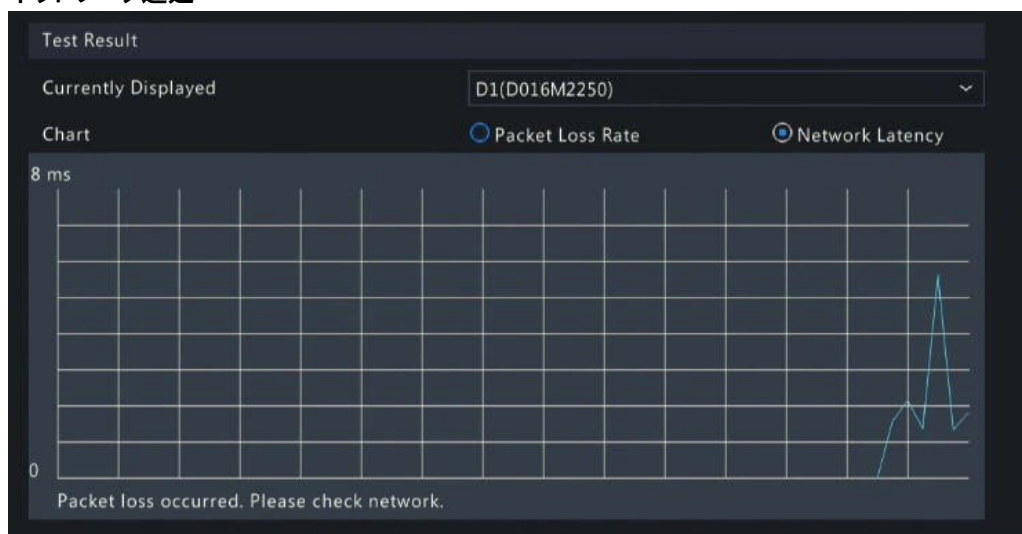
テストの完了前にテスト停止Stop Testをクリックすると、既存のテストデータが保存され、テスト結果が表示され

1. **現在表示中**ドロップダウンリストをクリックすると、テストするチャンネルまたはアドレスを選択することができます。
2. **パケット損失率**または**ネットワーク遅延**をクリックすると、テスト結果が表示されます。

• パケット損失率

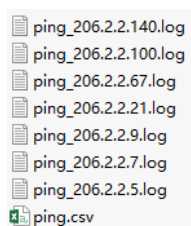


• ネットワーク遅延



テスト結果のエクスポート

1. **エクスポート**をクリックします。**バックアップ**ページが表示されます。
2. 保存先のパスを選択し、**バックアップ**をクリックすると、テスト結果が外部ストレージデバイスにエクスポートされます。
3. エクスポートされるファイルは、**.tgz**パッケージで、すべてのテストオブジェクトのpingログと1つのサマリーファイルが含まれています。下の例を参照してください。



- エクスポートされたファイル
- エクスポートされたレポート

[illegible]

11.2.4 ネットワーク状態

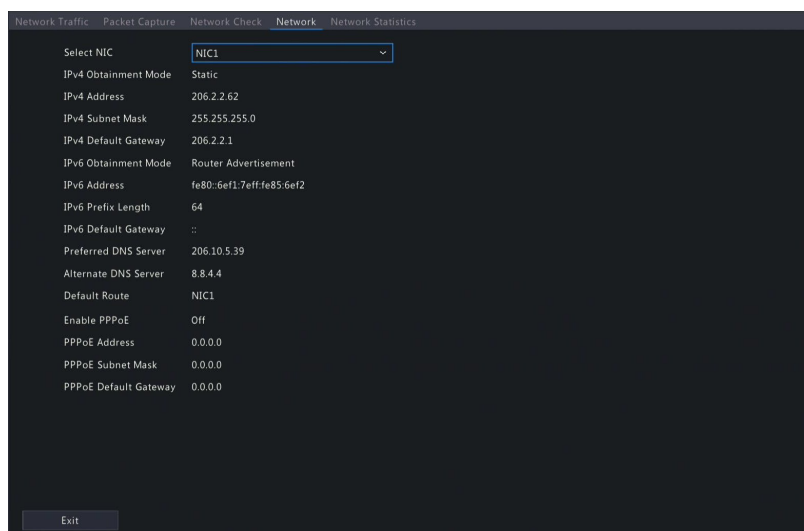
NICのネットワークパラメータを表示します。

メニュー>メンテナンス>ネットワーク情報>ネットワークに進みます。NICを選択すると、そのネットワークパラメータが表示されます。

11.2.5 ネットワーク合計

帯域の使用状況を表示します。

メニュー>メンテナンス>ネットワーク情報>ネットワーク合計に進みます。帯域の使用量が表示されます。



11.2.6 PoE/ネットワークポートの状態

PoEポートまたはネットワークポートの接続状態を表示します。この機能は、PoEポートまたはネットワークポートが搭載されたNVRで利用できます。

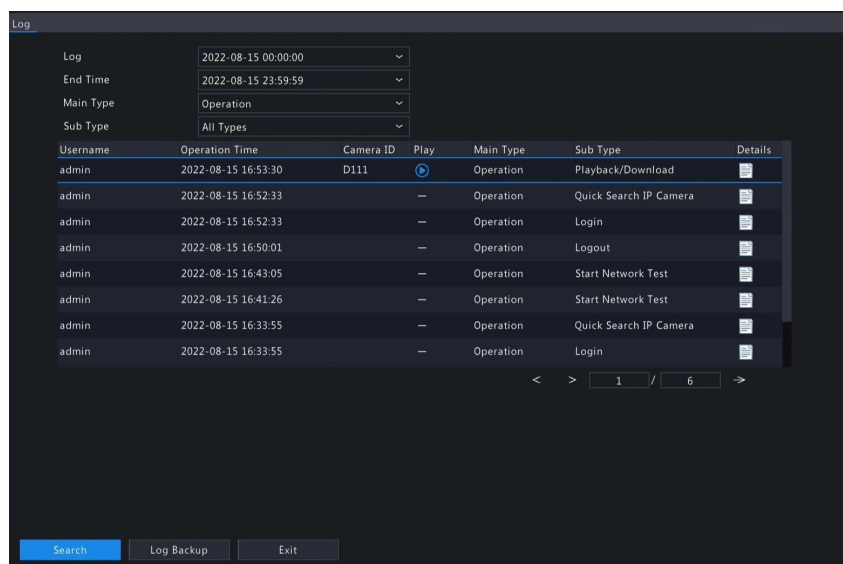
メニュー> メンテナンス> ネットワーク情報> PoEポート状態に進みます。ポートの接続状態が表示されます。青は、ポートが使用中であることを示します。PoEデバイスでは、電源情報を表示することもできます。

11.3 ログ

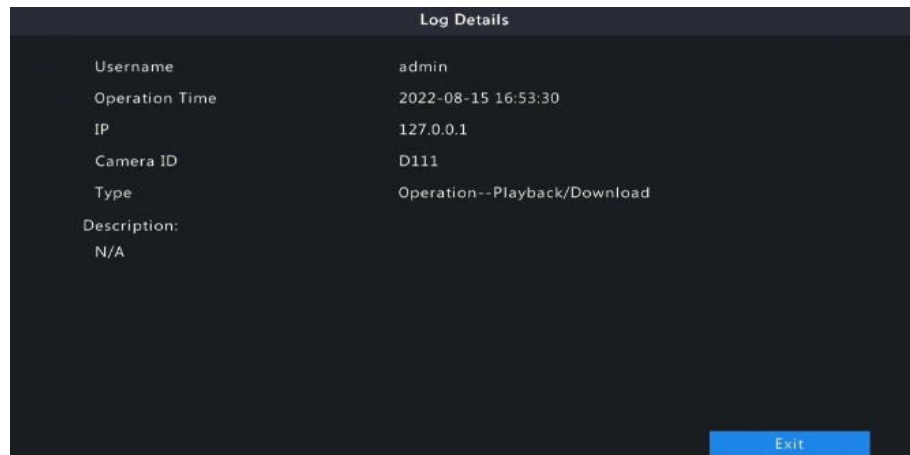
ログには、ユーザーの操作とデバイスの状態に関する情報が含まれています。ログにより、デバイスの動作状態が追跡でき、詳しいアラーム情報を表示することができます。

ログ

1. **メニュー> メンテナンス> ログ**に進みます。



2. 開始時刻と終了時刻、メインタイプとサブタイプを設定します。
3. **検索**をクリックします。
4. をクリックするとログが表示されます。



再生

をクリックすると、現在のログ時刻に記録されたビデオが表示されます。

ログバックアップ

バックアップをクリックします。バックアップページが表示されます。保存先のパスを選択し、バックアップをクリックすると、ログが外部ストレージデバイスに保存されます。

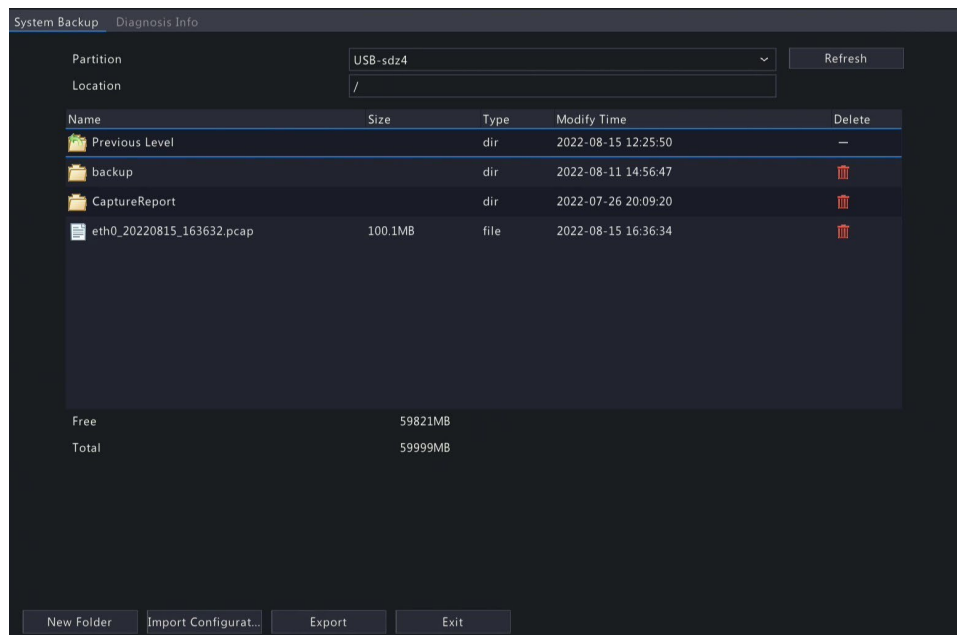
11.4 システムバックアップ

システム設定やデバイス診断情報をバックアップします。

11.4.1 システムバックアップ

システム設定をインポート、エクスポート、削除します。

メニュー> メンテナンス> システムバックアップ> システムバックアップに進みます。



必要に応じて以下の操作を実行します：

- 設定のインポート：ディレクトリリストから*.xmlファイルを選択し、**環境設定のインポート**をクリックし、設定ファイルのインポートを確定します。
- 設定のエクスポートディレクトリ一覧から保存先を選択し、**環境設定のエクスポート**をクリックします。エクスポートされた設定を含む*.xmlファイルが、指定のフォルダに生成されます。

メモ

- 設定をインポートすると、デバイスが再起動します。プロセスの途中で電源が切れると、システムは使用できなくなります。
- 管理者のみが、設定のインポート/エクスポートを実行することができます。

消去：削除するフォルダまたはファイルを選択し、をクリックします。

メモ

注意：削除したファイルは復元できません。

フォルダの作成：ディレクトリリストから保存先のパスを選択し、**新しいフォルダ**をクリックし、フォルダ名を入力してフォルダを作成します。

リフレッシュ：リフレッシュボタンをクリックするとリストを更新します。

11.4.2 診断情報

NVRと接続されたカメラの診断情報を表示し、バックアップします。NVRは14日分の診断情報を保存し、ストレージが一杯になると、最も古いものから上書きします。

メニュー> メンテナンス> システムバックアップ> 診断情報に進みます。

NVR診断情報

システムバックアップ 診断情報

設備タイプ ☒ NVR ☐ IPC

現在診断した情報

☐ 番号	履歴診断情報	ファイルサイズ	時刻変更
☐ 1	NVR_Log_20230419235900.tgz	156KB	2023-04-20 09:00:00
☐ 2	NVR_Log_20230120235900.tgz	118KB	2023-01-21 00:00:00
☐ 3	NVR_Log_20230119235900.tgz	117KB	2023-01-20 00:00:00
☐ 4	NVR_Log_20230118235900.tgz	119KB	2023-01-19 00:00:00
☐ 5	NVR_Log_20230117235900.tgz	117KB	2023-01-18 00:00:00
☐ 6	NVR_Log_20230116235900.tgz	117KB	2023-01-17 00:00:00
☐ 7	NVR_Log_20230115235900.tgz	118KB	2023-01-16 00:00:00
☐ 8	NVR_Log_20230114235900.tgz	116KB	2023-01-15 00:00:00
☐ 9	NVR_Log_20230113235900.tgz	116KB	2023-01-14 00:00:00
☐ 10	NVR_Log_20230112235900.tgz	118KB	2023-01-13 00:00:00
☐ 11	NVR_Log_20230111235900.tgz	117KB	2023-01-12 00:00:00

1. デバイスのタイプで、**NVR**を選択します。
2. NVR診断情報をエクスポートします。
 - 現在の診断情報：最新の起動時からの診断情報です。**エクスポート**をクリックすると、診断情報が外部ストレージデバイスにエクスポートされます。
 - 履歴診断情報：履歴診断情報をリストで表示します。希望の項目を選択して**バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ページで保存先のパスを選択し、**バックアップ**をクリックします。

カメラ診断情報

1. デバイスのタイプで、**IPC**を選択します。

System Backup Diagnosis Info

Device Type ☐ NVR ☒ IPC

Select Camera

Current Diagnosis Info

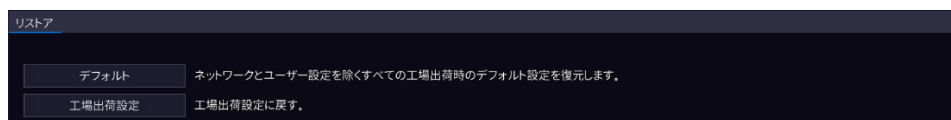
☐ No.	History Diagnosis Info	File Size	Modify Time
☐ 1	IPC_Log_Ch1_20220814235900.tgz	1412KB	2022-08-15 00:05:00
☐ 2	IPC_Log_Ch1_20220813235900.tgz	1417KB	2022-08-14 00:05:00
☐ 3	IPC_Log_Ch1_20220812235900.tgz	1463KB	2022-08-13 00:05:00

2. リストから希望のカメラを選択します。
3. 選択したカメラの診断情報をエクスポートします。

- 現在の診断情報：最新の起動時からの診断情報です。**エクスポート**をクリックすると、診断情報が外部ストレージデバイスにエクスポートされます。
- 履歴診断情報：履歴診断情報をリストで表示します。希望の項目を選択して**バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ページで保存先のパスを選択し、**バックアップ**をクリックします。

11.5 リストア

システム設定を初期化します。



1. **メニュー> メンテナンス> リストア**に進みます。
2. 必要に応じて、**デフォルト**または**工場出荷設定**を選択します。するとメッセージが現われます。確定後、NVRは再起動し、デフォルト設定に復元します。
 - **デフォルト**：ネットワーク設定、ユーザー設定、時刻設定を除いて、初期設定に復元します。
 - **工場出荷設定**：すべての設定を工場出荷時の設定に復元します。

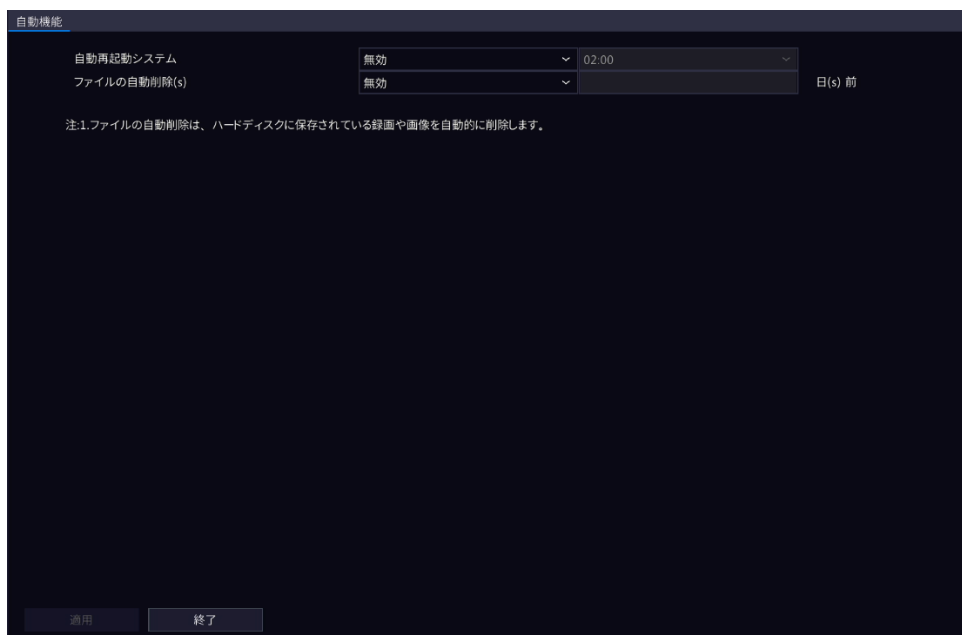


いずれの方法でも、録画したビデオや操作ログは削除されません。

11.6 自動機能

予め設定した時刻に自動的に再起動したり、ファイルを削除することができます。これは管理者のみが操作できます。

1. **メニュー> メンテナンス> 自動機能**に進みます。



2. パラメータを設定します。
 - **自動再起動システム**：システムは設定した時刻になると、自動的に再起動します。
 - **ファイルの自動削除**：システムは、ハードディスクに保存されているビデオや画像を自動的に削除します。範囲：1～240
3. **適用**をクリックします。

11.7 システムのアップグレード

NVRと接続されたカメラのファームウェアをアップグレードします。

次の2種類のアップグレード方法が利用できます：アップグレードが完了すると、デバイスは自動的に再起動します。

- **クラウドアップグレード**：クラウドサーバー経由でアップグレードします。
- **アップグレード**：USBストレージに保存されたアップグレードファイルを使ってアップグレードします。

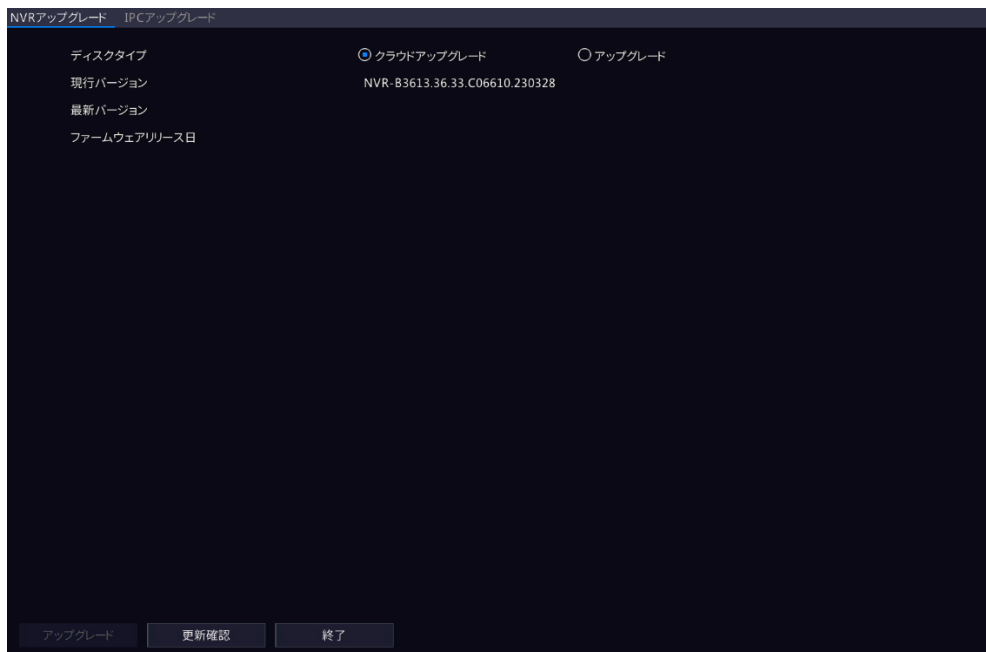


- アップグレード中は、デバイスが常に電源とネットワークに接続されていることを確認してください。必要に応じて、無停電電源装置(UPS)を使用してください。
- クラウドのアップグレード開始前に、DNS サーバーが機能していることを確認してください。メニュー>ネットワーク>基本>ネットワークに進みます。詳しくは、TCP/IPをご覧ください。
- クラウドアップグレード速度は、ネットワークの伝送速度によって制限されます。

11.7.1 NVRのアップグレード

NVRのファームウェアをアップグレードします。

1. **メニュー> メンテナンス> システムアップグレード> NVRアップグレード**に進みます。



2. **クラウドアップグレード**または**アップグレード**を選択します。

- **クラウドアップグレード**

更新確認をクリックします。システムが更新を確認します。

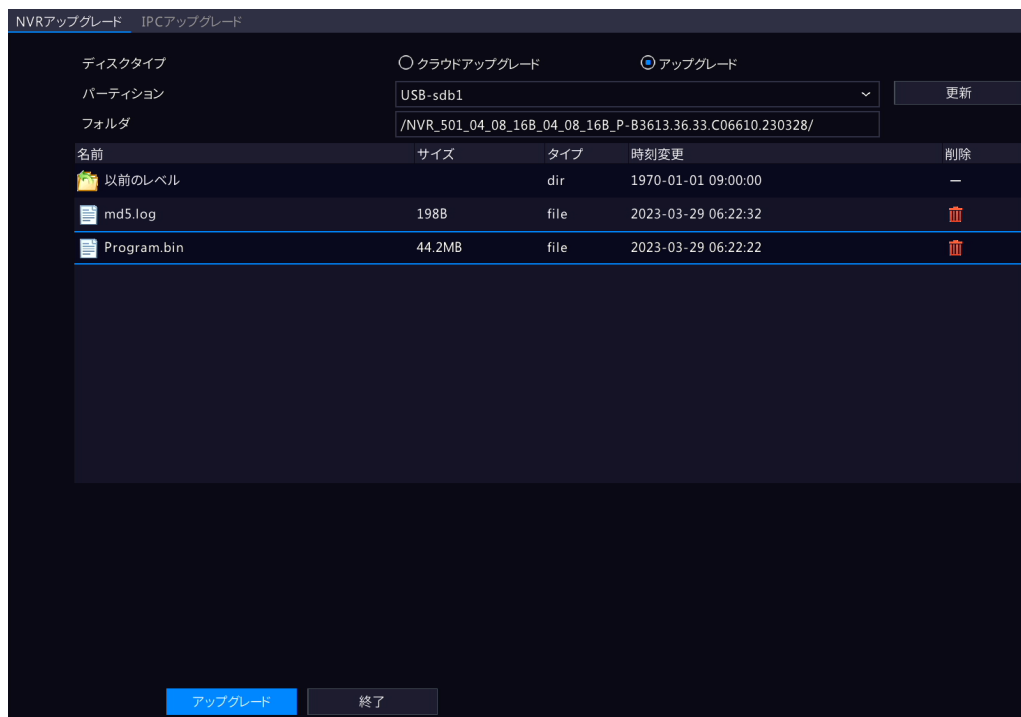
- 更新が可能な場合は、新しいバージョン番号とそのビルド日が表示されます。**アップグレード**をクリックして開始します。
- 更新ができない場合は、現在のバージョンがすでに最新であることを表示します。

- **ローカルアップグレード**

USBストレージ内のアップグレードファイルを選択し、**アップグレード**をクリックして開始します。USBストレージ内のZIPファイルを指定します。



アップグレードに失敗した場合、失敗の原因が表示されデバイスが自動的に再起動します。問題を解決してから、もう一度お試しください。



11.7.2 IPCのアップグレード

IPCのファームウェアをアップグレードします。この機能は、プライベートプロトコルで接続されたカメラにのみ適用されます。

1. **メニュー> メンテナンス> システムアップグレード> IPCアップグレード**に進みます。

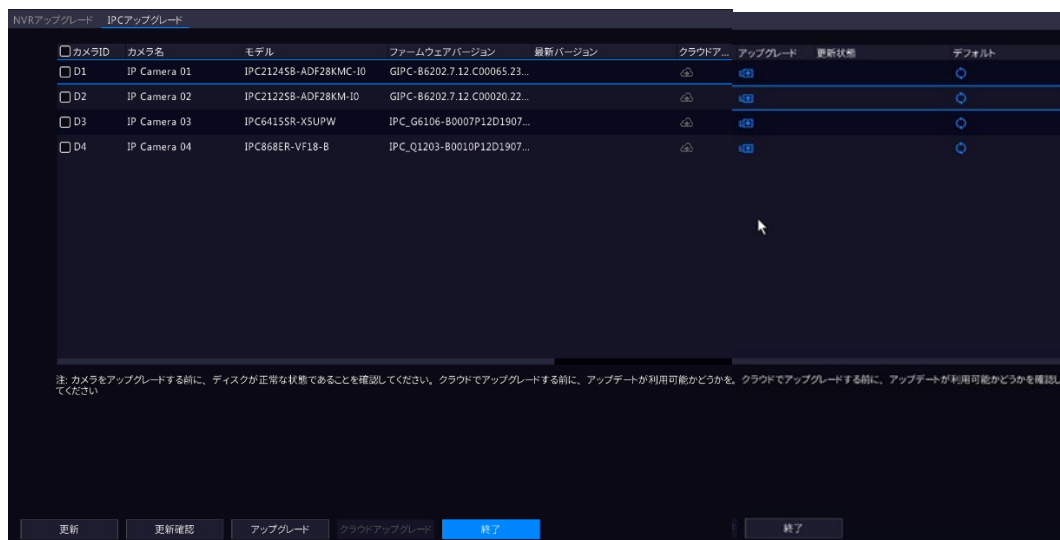


2. **クラウドアップグレード**または**アップグレード**を選択します。

- ・ **クラウドアップグレード**

更新確認をクリックします。システムが更新を確認します。

- 更新が可能な場合は、新しいバージョン番号とそのビルド日が表示されます。☁️をクリックしてカメラをアップグレードするか、複数のカメラを選択してから**アップグレード**をクリックして一括でアップグレードします。
- 更新ができない場合は、現在のバージョンがすでに最新であることを表示します。
- **ローカルアップグレード**
 - 📁をクリックしてカメラをアップグレードするか、複数のカメラを選択して、**アップグレード**をクリックします。



- IPCアップグレードページで、USBストレージ内のアップグレードファイルを選択し、**アップグレード**をクリックします。USBストレージ内のZIPファイルを指定します。



11.8 HDDチェック

S.M.A.R.T.テストと不良セクター検出を実行します。実際に使用できる機能は、デバイスによって異なります。

11.8.1 S.M.A.R.T.の実行テスト

S.M.A.R.T.は、ハードディスクのヘッド、プラッター、モーター、回路などをテストし、ディスクの健康状態を評価します。

1. メニュー> メンテナンス> HDD> S.M.A.R.T.の実行に進みます。

Maintenance

Run S.M.A.R.T. Test Bad Sector Detect

☐ Continue to use the disk when it fails to pass evaluation.

Select Disk: Slot1

Test Type: Short

Test Status: Not tested

Manufacturer: SEAGATE

Model: ST8000VX009-2ZP188

Firmware Version: CV10

Disk Temperature(°C): 38

Operation Time(day): 208

Self-Evaluation: Pass

Overall Evaluation: Healthy

ID	Attribute Name	Status	Flag	Threshold	Value	Worst	Raw Value
1	Raw_Read_Error_Rate	Healthy	0x000f	6	80	64	104417750
3	Spin_Up_Time	Healthy	0x0003	0	92	91	0
4	Start_Stop_Count	Healthy	0x0032	20	100	100	22
5	Reallocated_Sector_Count	Healthy	0x0033	10	100	100	0
7	Seek_Error_Rate	Healthy	0x000f	45	92	60	1431591504

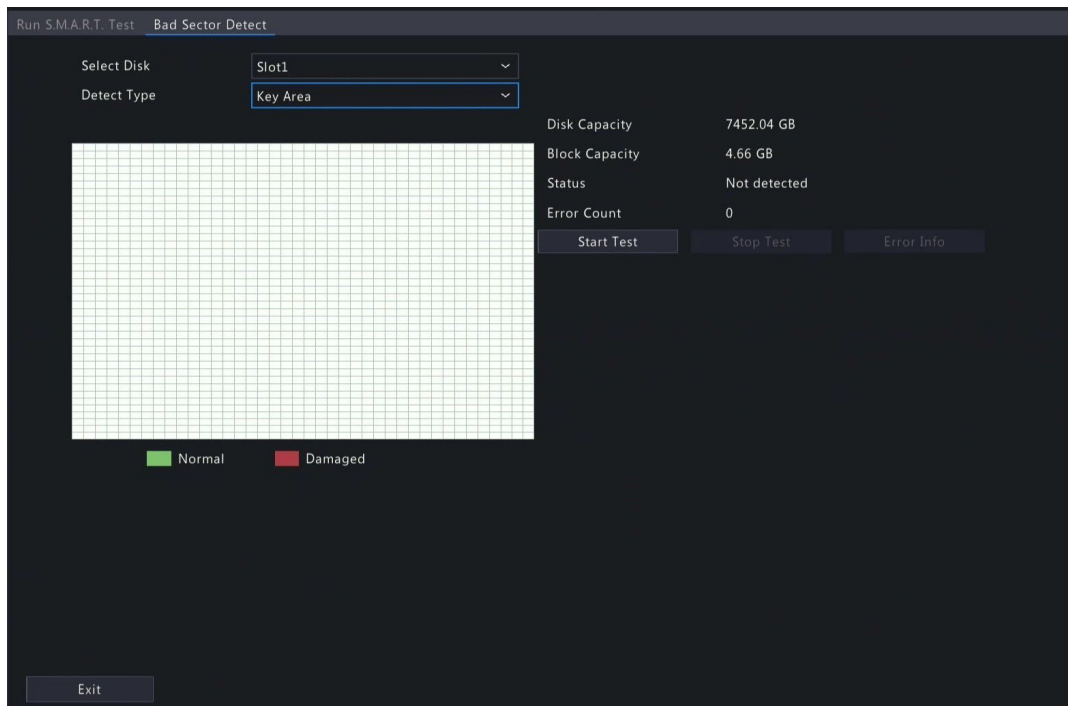
Start Test Apply Exit

2. (オプション) を選択すると、ディスクが自己診断に失敗しても、デバイスはハードディスクの使用を継続することができます。しかし、これには大きなリスクが伴う恐れがあります。慎重に選択してください。
3. ディスクスロットとテストタイプを選択します。
 - **Short** : 少ないテスト内容で、より速く実行します。
 - **Extended** : より包括的で徹底的に、より長い時間をかけて実行します。
 - **Conveyance** : データ通信の不具合を検出します。
4. **テスト開始** をクリックします。**評価の種類**欄には、リアルタイムの進捗状況が表示されます（例、テスト：10%）。テスト終了後にテスト結果を表示します。
総合評価での3種類の状態：良好セクター、破損セクター、不良セクター。故障したディスクはすぐに交換することが推奨されます。詳しくは、当社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

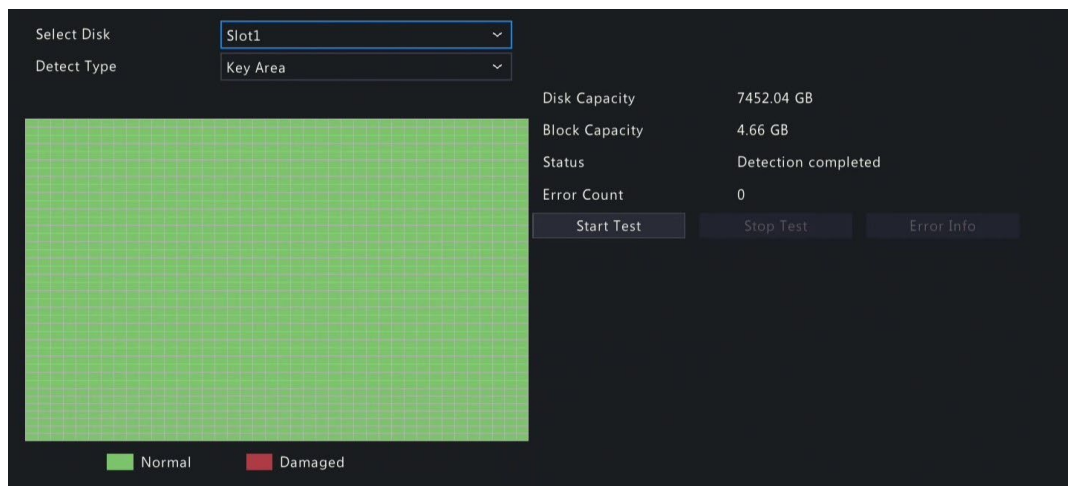
11.8.2 不良セクターの検知

デバイスシステムは、ハードディスクの不良セクターを読み取り専用で検出します。

1. メニュー> メンテナンス> HDD> 不良セクタ検出に進みます。



2. ディスクスロットと検出方式を選択します。



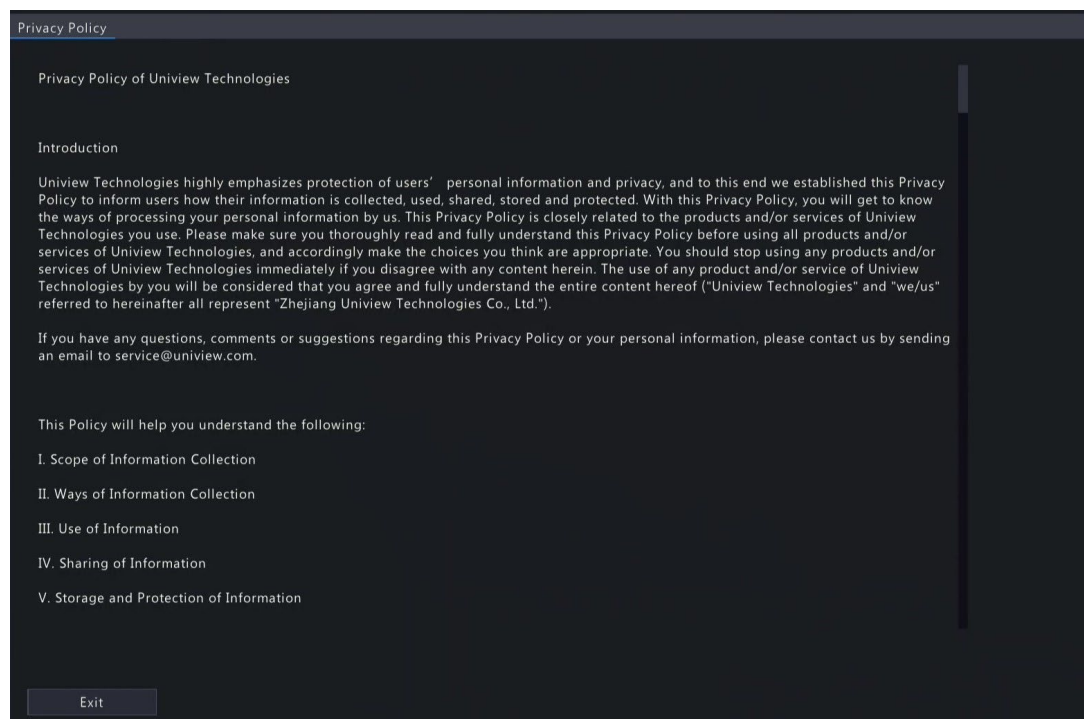
3. **テスト開始**をクリックします。検出を停止するには、**テスト停止**をクリックします。

-  は、検出エリアが良好な状態であることを意味します。
-  は、検出エリアが破損していることを意味します。エラーのカウント数が100に達すると、検知が自動的に停止します。

11.9 プライバシーポリシー

プライバシーポリシーを表示します。

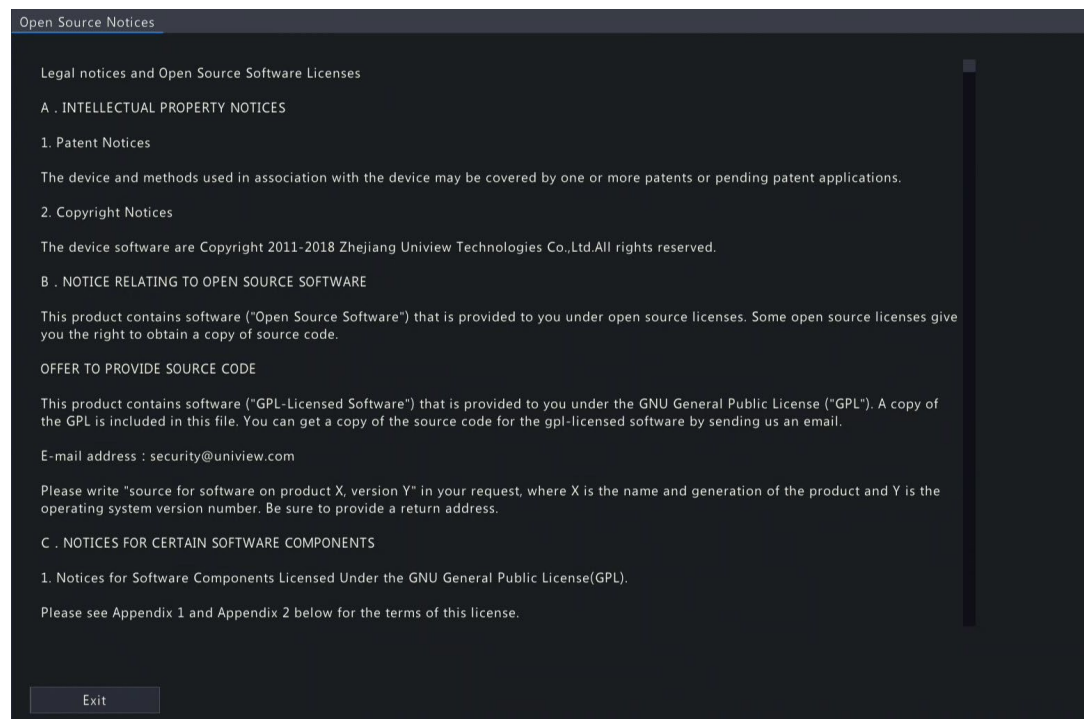
メニュー> メンテナンス> プライバシーポリシーに進みます。



11.10 オープンソース通知

オープンソース通知を表示します。

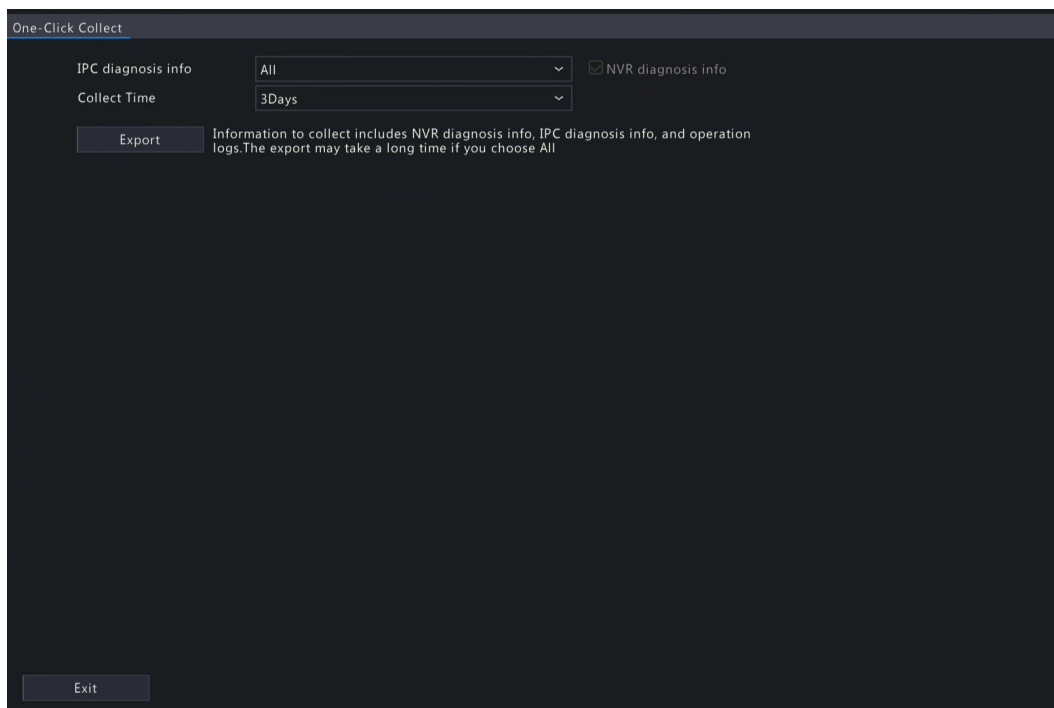
メニュー> メンテナンス> オープンソース通知に進みます。



11.11 ワンクリック収集

NVRとカメラの診断情報を収集します。

1. **メニュー> メンテナンス> ワンクリック収集**に進みます。



2. カメラを選択し、収集する診断情報の日数を選択します。NVRの診断情報は常に収集されます。
3. **エクスポート**をクリックして、カメラ診断情報、NVR診断情報、操作ログを収集します。



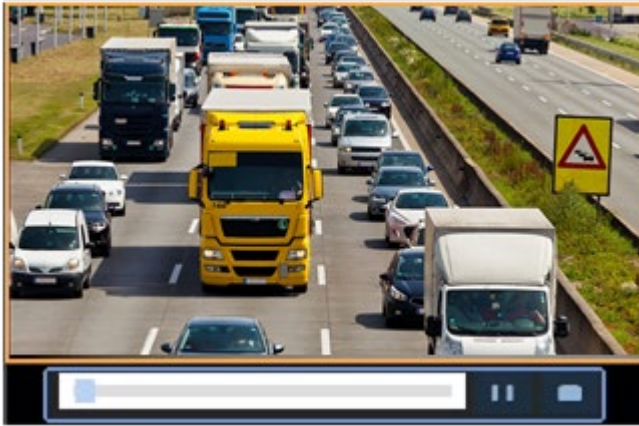
実際の要件に応じて、日数を選択します。Allを選択した場合、エクスポート処理に時間がかかる場合があります。

12 再生

12.1 インスタント再生

インスタント再生では、最後の5分間に録画されたビデオが再生されます。

最後の5分間のビデオが録画されていることを確認します。この間に録画がない場合、インスタント再生は機能しません。



1. プレビューウィンドウで、対象のウィンドウを選択し、ウィンドウツールバーの  をクリックします。
2. プログレスバー上のスライダーをドラッグすると早送りとなり、 をクリックすると一時停止となります。
3.  をクリックすると、再生を終了します。

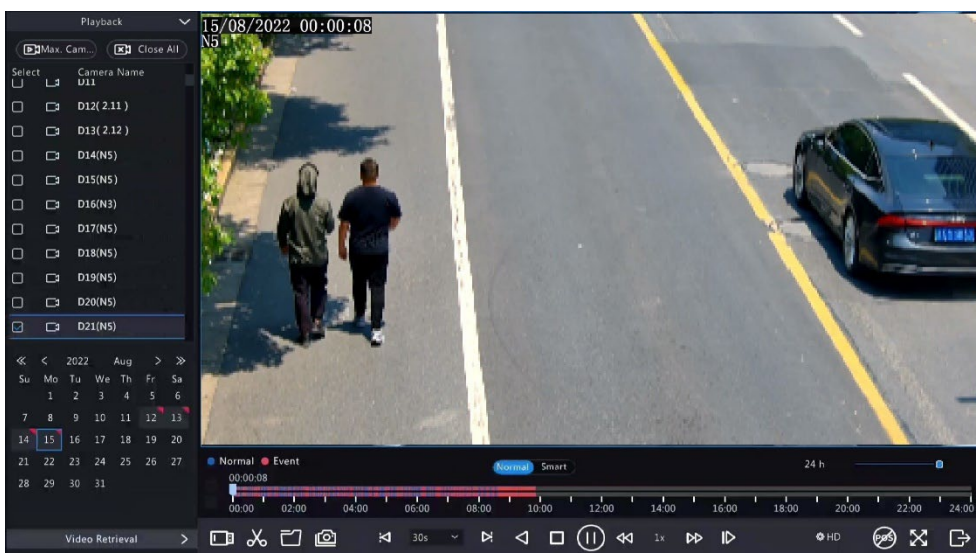
12.2 通常再生

通常再生では、選択したカメラのすべての録画データを再生します。

1. プレビューページで、目的のウィンドウを右クリックし、**再生**を選択します。選択したカメラのビデオを再生します。このページでは、ビデオを再生する他のカメラも選択することができます。
 - 同期再生用に複数のカメラを選択することができます。
 - **すべて**をクリックして、許可されるカメラの最大数を選択します。性能は、NVRのモデルによって異なることがあります。
 - **すべて閉じる**をクリックすると、すべてのカメラの再生が停止します。
2. 希望の日付をダブルクリックまたは日付を選択し  をクリックすると、再生が開始します。
デフォルトでは、システムは当日のビデオを再生します。

メモ

カレンダーは、通常録画は青、イベント起動型録画は赤、何もしない場合はフラグなしというように、録画の種類によってフラグを使い分けます。



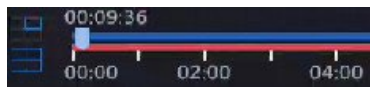
3. デフォルトでは、NVRはHDビデオを再生しますSDビデオが保存されている場合は、SDモードに切り替えることができます。

サポートされるビデオの鮮明さはストレージモードに依存し、HDビデオはすべてのストレージモードでサポートされています。SDビデオを保存するには、**メニュー>カメラステータス>エンコード**で保存モードを設定します。

メモ

- SDモードでプレビュー画面に画像が表示されない場合は、SDビデオが保存されていないことを示します。
- SD再生モードでSDビデオが利用できる場合は、デフォルトでSDビデオが再生されます。マルチウィンドウレイアウトでウィンドウをダブルクリックして最大化すると、自動的にHDビデオに切り替わります。

Table 12-1: 再生ツールバー

ボタン	説明
	上段は選択されているチャンネル、下段は全体の録画データを示しています。 カーソルは再生している時間を示します。  メモ チャンネルによって対応する遅延時間が異なる場合があります。ほとんどのチャンネルで、有効範囲は5～3600秒となります。一部チャンネルでは、有効範囲が1～3600秒となります。  メモ プログレスバーの色の違いによって、録画の種類が異なります。青は通常録画、赤はイベント起動型録画、緑はスマートイベント録画です。  メモ 通常再生モードでは、タイムラインにカーソルを合わせるとサムネイル画像が表示され、イベントを素早く特定することができます。
	タイムラインを拡大/縮小します。または、タイムラインをクリックして、スクロールホイールで拡大/縮小します。
	USBストレージに保存されたファイルです。

 	ビデオの刈り込みを開始/停止します。
 	ファイル(クリップ、スナップショット、ロックファイル、タグ)を管理します。  は新しく保存されたファイルがあることを示します。
	スナップショットを撮影します。ウィンドウの枠が白で点滅します。
 30s 	巻き戻し/30秒送り、またはドロップダウンリストから選択します。
	リバーズです。
	再生を停止し、スタート地点に戻ります。
 /	再生/一時停止です。
 	低速/高速で再生します。  メモ  をクリックしてから  をクリックすると、通常の再生速度に戻ります。その逆の操作をすると低速または高速で再生します。
	フレームごとに早送りします。
 HD	HDやSDなど、ビデオの鮮明度を設定します。  メモ - SDモードでプレビュー画面に画像が表示されない場合は、SDビデオが保存されていないことを示します。 - SD再生モードでSDビデオが利用できる場合は、デフォルトでSDビデオが再生されます。マルチウィンドウレイアウトでウィンドウをダブルクリックして最大化すると、自動的にHDビデオに切り替わります。
	POSのオン/オフを切り替えます。有効にすると画面にPOS OSDが表示され、ツールバーの一部のボタンが無効になります。  メモ - この機能は一部のNVRのみで利用できます。 - このボタンは、通常再生モードとPOS再生モードのときのみ表示されます。通常再生モードでは、POS OSDは5秒間表示されます。POS再生モードでは、時間を設定することができます。
	全画面表示になります。
	再生画面を終了します。
    	再生ウィンドウをクリックすると、ウィンドウツールバーが表示されます。
	スナップショットを撮影します。
	現在のタイムポイントにタグを追加します。

	デジタルズームです。
	音声をオン/オフにします。
	音量を調整します。
	ロックします。

12.3 スマート再生

スマート再生モードでは、録画中のスマートイベントを検索し、それに応じて再生速度を調整します。モーションなどのスマート結果が検出された場合は通常速度で、そうでない場合は16倍速で再生し、時間を節約します。

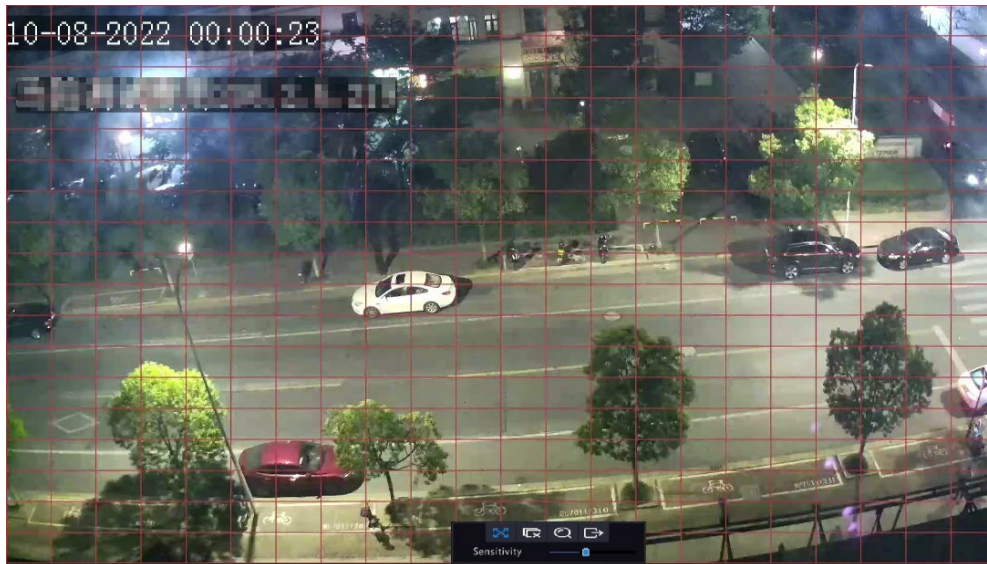


この機能は、スマート機能に対応したカメラで利用することができます。
デフォルトでは、システムはビデオ内のモーションを検索します。
1台のカメラのみスマート再生を選択できます。

1. 再生ページで、**スマート**を選択します。



2. 希望のカメラを選択します。
3. 再生したい日付をダブルクリックする、または日付を選択し  または  をクリックすると、再生が始まります。
4. スマート検索ルールを設定します。デフォルトのスマート検索エリアはフル画面です。スマート検索エリアを指定する場合は、以下の手順で行います。
 - (1)  をクリックして、**スマート**ページに進みます。



- (2)  をクリックして既存のエリアを消去してから、画像上でクリック&ドラッグしてエリアを指定します。

Table 12-2: スマート検索ボタン

ボタン	説明	ボタン	説明
	動体検知: 全画面表示になります。		指定したエリアをクリアします。
	指定したエリアの検索スマート再生を開始します。		スマートページを終了します。
	検知感度を調整します。		

12.4 コリドー再生

コリドー再生は、複数のウィンドウでコリドーモードの録画を再生します。コリドーモードでは、最大3台のカメラを選択することができます。

- 再生ページで、**コリドー**を選択します。
- 再生した希望のカメラを選択します。希望の日付をダブルクリックするか日付を選択し  をクリックすると、再生が開始します



12.5 外部ファイル再生

この機能を使用して、USBドライブやポータブルUSBハードドライブなど、外部ストレージデバイスに保存されている録画を再生します。

1. 再生ページで、画面のツールバーのをクリックします。
2. **Refresh**をクリックし、NVRが外部ストレージデバイスを読み込むまで待ちます。
3. 希望の日付をダブルクリックする、または日付を選択しまたはをクリックすると、再生が始まります。

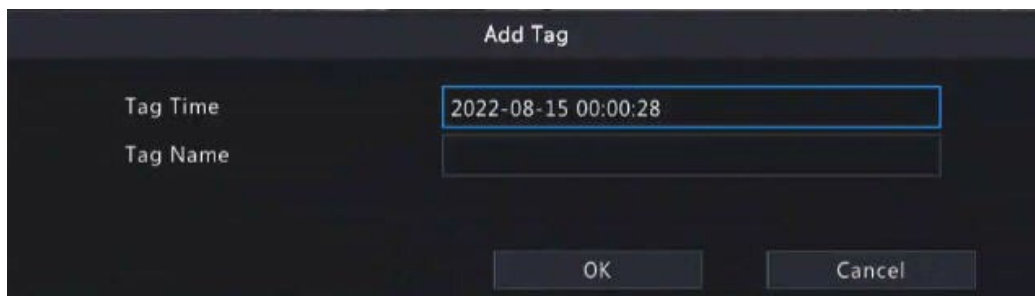


12.6 タグ再生

タグを使ってビデオ内の特定のイベントをマークし、すばやく場所を特定して再生することができます。

タグの追加

1. 再生ページで、希望のカメラと日付を選択し、をクリックすると、再生が開始されます。
2. 画像の任意の場所を左クリックし、ポップアップツールバーでを選択します。

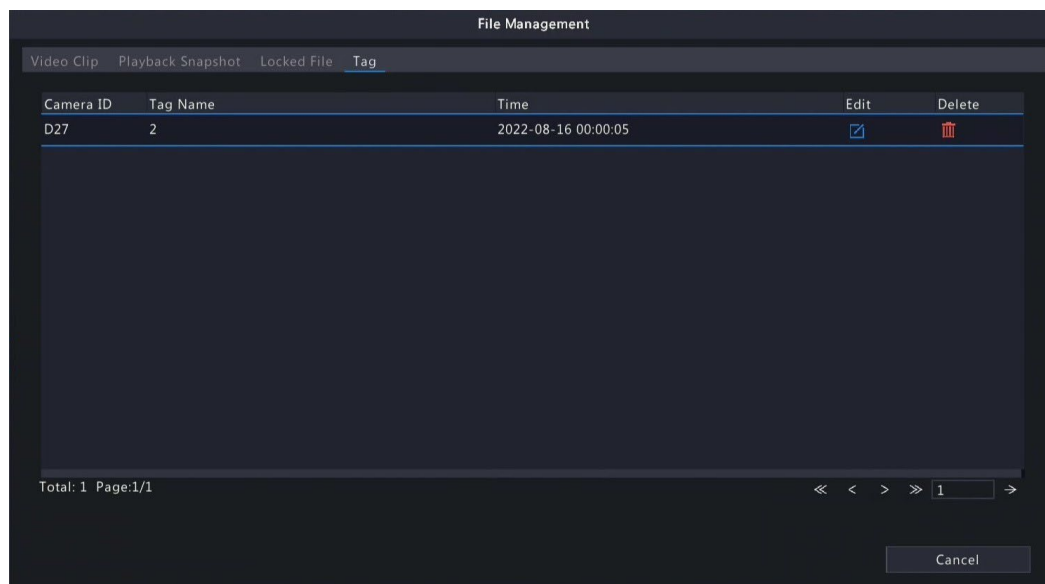


3. タグ名を入力します。タグが追加された時間であるタグタイムは編集できません。
4. **確認**をクリックして設定を保存します。

タグ管理

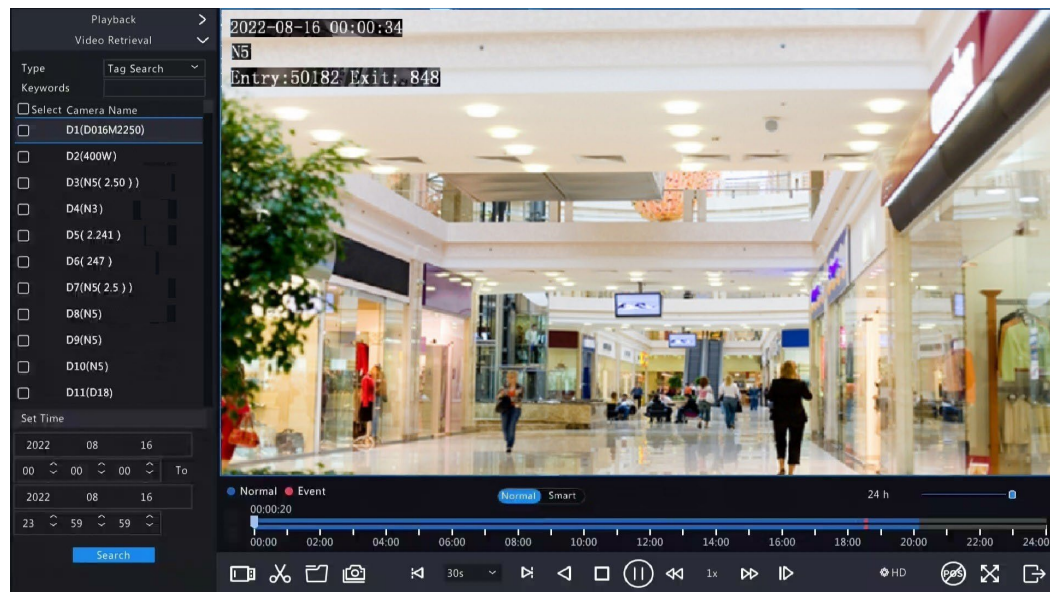
追加されたタグは、**ファイル管理**に保存されます。新規追加のタグを表示するには、画面のツールバーのをクリックします。

タグ名を変更するには、をクリックします。タグを削除するには、をクリックします。

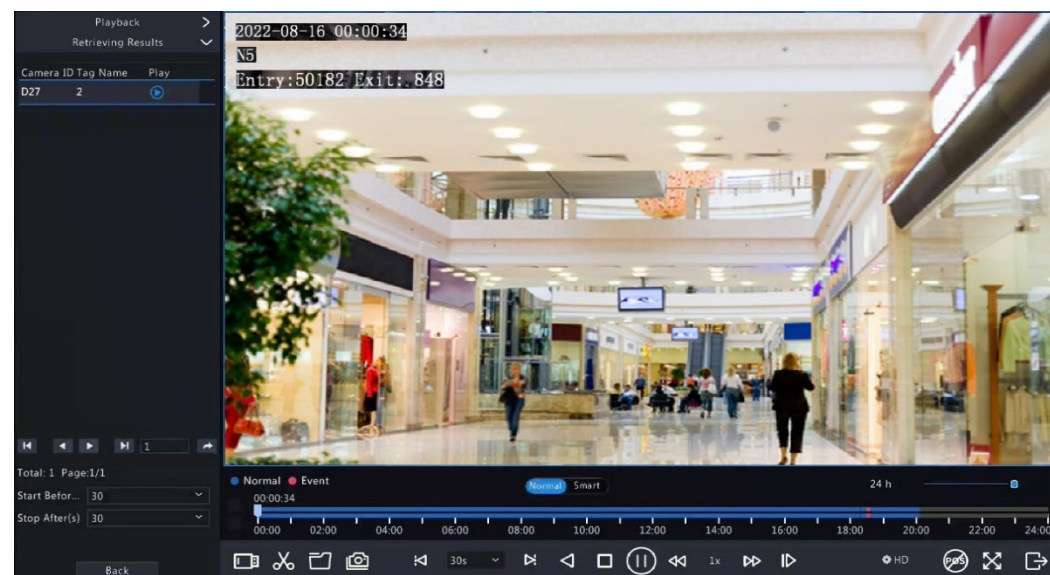


タグごとの再生

1. 再生ページで、**ビデオ検索**をクリックし、左上のドロップダウンリストから**タグ検索**を選択します。



2. タグの付いた希望のカメラを選択し、期間を設定し**検索**をクリックします。



- 再生したいタグをダブルクリックする、またはタグを選択し  または  をクリックすると、再生が開始します。

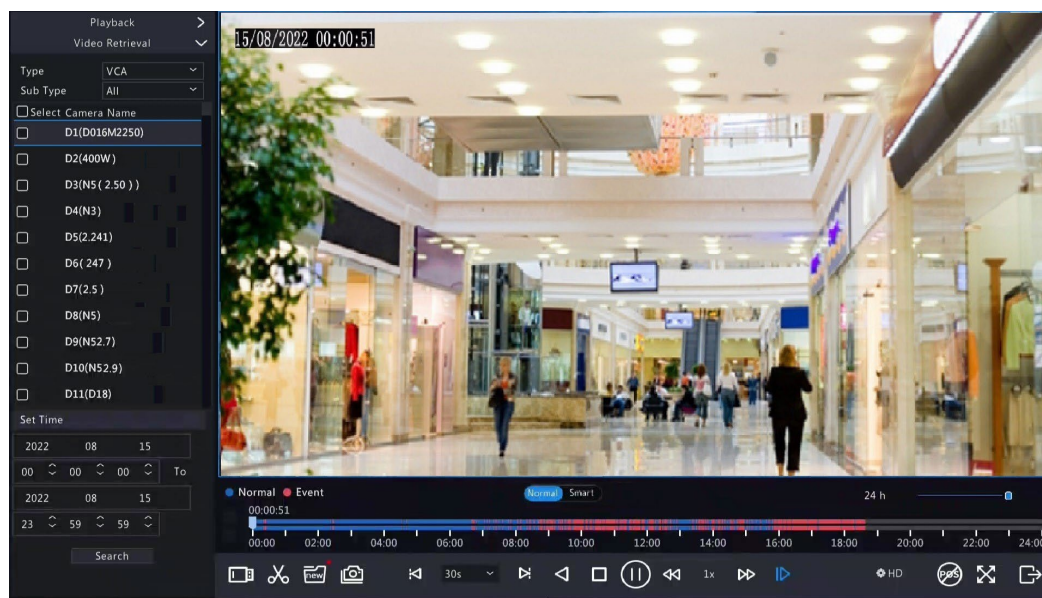
12.7 検索ごとの再生

この機能により、動体検知、人体検知、アラーム入力、ビデオロス、VCA、タグ、POS、人体検知アラームなどのイベントタイプ別に録画を検索・再生することができます。

メモ

再生前に、イベントのアラームおよびアラーム起動型ストレージが有効になっていることを確認します。

- プレビューウィンドウで、**右クリック> サブメニュー> 再生**を選択します。
- 再生ページで、**ビデオ検索**をクリックし、タイプとサブタイプを選択しキーワードを入力します。



- 希望のカメラを選択し、期間を設定し**検索**をクリックします。
- 再生したい結果をダブルクリックする、または結果を選択し  または  をクリックすると、再生が開始します。

12.8 ファイル管理

ファイル管理によって、ビデオクリップやタグ、および再生中に撮影されたスナップショットの管理や、ファイルのロック/ロック解除が実行できます。

ビデオクリップ

再生中にビデオをクリップしたり、バックアップしたりすることができます

再生スナップショット

再生中にスナップショットを撮影し、そのスナップショットをバックアップすることができます。

ファイルのロック

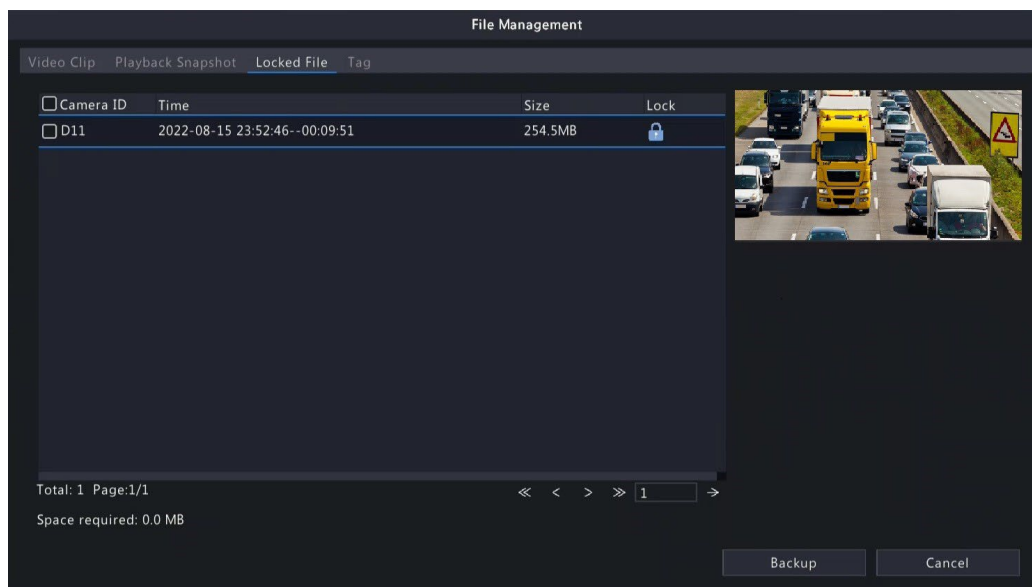
録画ファイルのロック、ロック解除、バックアップを行うことができます。

- 再生ページで、希望のカメラと日付を選択し、  をクリックすると、再生が開始されます。
- スライダーをドラッグしてビデオの好きな部分を再生し、画像をクリックしてツールバーを表示し、  を選択します。

録画ファイルをロックすると、同じディスクパーティション（サイズ254.4MB）に保存されているすべてのファイルが上書きされなくなります。

3. 画面のツールバーの  をクリックすると、**保護ファイル**タブにロックされたファイルが表示されます。

 - ファイルのロックを解除するには、 をクリックします。するとアイコンが  に変化します。
 - ファイルをバックアップするには、ファイルを選択してから**バックアップ**をクリックします。



タグ

必要に応じて、タグを表示、編集、削除することができます。

13 シャットダウン

本章では、デバイスのシャットダウン、ログアウト、再起動について説明します。

シャットダウンとは、電源が接続された状態でデバイスのOSをオフにすることを指します。電源を切る際は、必ずシャットダウンを行ってください。長時間シャットダウンする場合は、電源を切ってください。

1. 画面左下の  をクリックし、**電源オフ**をクリックします。



2. **はい**を選択すると本体がシャットダウンします。画面が消えたことを確認して電源プラグを抜いてください。

メモ

シャットダウンを行わずに電源をお切りになったり、停電などによって不意にNVRの電源が切れると、未保存の設定が失われます。システムのアップグレード中にシャットダウンすると起動が失敗します。また、HDDに不具合が生じる可能性があります。この場合は保証の範囲外になることがあります。

14 ブラウザでの操作

パソコンで（Webインターフェイスを通じて）Webブラウザを使用して、リモートにNVRにアクセスし管理することができます。

14.1 準備

開始する前に、以下の各項目を確認してください：

- ログイン中にアクセスの認証が行われる。操作の権限が必要です。
- NVRが適切に動作しており、ネットワークでパソコンと接続されていること。
- パソコンにWebブラウザがインストールされていること。Chrome 60以降が推奨されます。Firefox 60以降、Microsoft Internet Explorer 10.0以降、Edge 79以降もサポートされています。
- パソコンのOSは、Windows 7以降が必要です。
- 64ビットのオペレーティングシステムを使用している場合、32ビットまたは64ビットのWebブラウザが必要です。



- Webインターフェイスでグレイアウトされているパラメータは変更できません。表示されるパラメータと値は、NVRの機種によって異なります。
- 下図は単なる説明の目的で掲載されており、NVRの機種によって異なります。

14.2 ログイン

以下の手順で、Webインターフェイスにログインします（IE10ブラウザを例として）。

1. パソコン上でWebブラウザを開き、NVRのアドレスバー（デフォルトは**192.168.1.30**）にIPアドレスを入力し、Enterを押します。
2. プラグインをインストールします。
 - 初回ログイン時にプロンプトが表示されるので、主にメディアストリームの処理に使用するプラグインをインストールする必要があります。インストールが始まる時点でWebブラウザをすべて閉じます。画面の指示に従ってインストールを完了し、ブラウザを再度開いてログインします。
 - アドレスバーにHTTP://IP address/ActiveX/Setup.exe と入力し、プラグインを手動で見つけることもできます。
3. ログインページでデフォルトのユーザー名とパスワード(admin/123456)を入力し、**ログイン**をクリックします。


NVR501-04B-P4

日本語 ▼

ユーザー名

パスワード

パスワードをお忘れですか

ログイン

リセット



デフォルトパスワードは最初のログインにしか使用できません。アカウントのセキュリティを確保するため、強力なパスワードを設定するよう強くお勧めします。

- 強力なパスワード: 9文字以上で、文字と特殊文字と数字の3種類をすべて含むパスワード。
- 脆弱なパスワード: 9文字以下で、文字と特殊文字と数字の3種類のうち、2種類またはそれ以下を含むパスワード。

14.3 ライブビュー

ライブビューページは、ログインしているときに表示されます。左で希望のチャンネルを選択し、ライブビデオを表示します。

操作は、NVRのモデルによって異なることがあります。

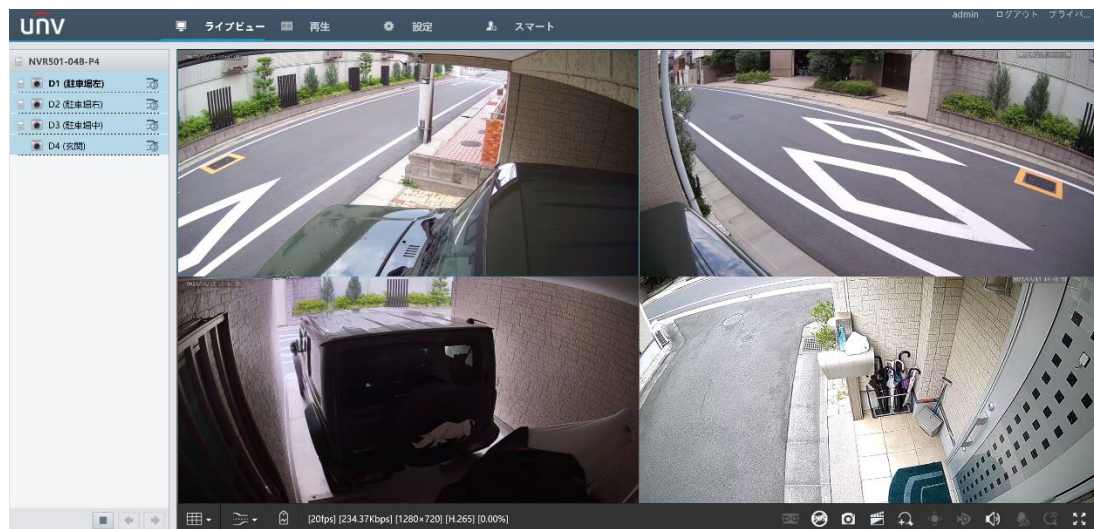
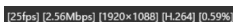


Table 14-1: ライブビューウィンドウコントロールボタン

ボタン	説明	ボタン	説明
	双方向音声		メイン/サブ/サードストリーム
	全部のウィンドウでライブビデオを開始/停止します		前/次の画面に進みます
	画面レイアウトを切り替えます		ストリームのタイプを選択します
	インテリジェントマークの有効化/無効化		フレームレート/ビットレート/解像度/パケットロス
	コントロールパネルを開閉します		スナップショットを撮影します
	ローカル録画		デジタルズーム
	音声のオン/オフ		双方向オーディオのスタート/ストップ
	3Dポジショニング		全画面表示になります
	マルチセンサープレビュー		魚眼モード

メモ

-  デバイス名の権利は、NVR との双方向オーディオを意味します。チャンネル名の権利は、カメラとの双方向オーディオを意味します。
- カメラがオフラインであるか、1個しかストリームがサポートされない場合、 メインストリームのみが表示されます。
- スナップショットは、IPアドレスで名付けられたスナップショットファイルフォルダに保存され、スナップショットファイルはCamera ID_ timeフォーマットで名付けられ、このディレクトリに保存されます。¥スナップ¥IP¥カメラID_時間.時刻のフォーマットはYYYYMMDDHHMMSSSMSです。
- ローカル録画は、IPアドレスで名付けられた録画ファイルフォルダに保存され、録画ファイルはCamera ID_S recording start time_E recording end timeフォーマットで名付けられ、このディレクトリに保存されます。¥録画¥IP¥カメラID_S 録画開始時刻_E 録画終了時刻。録画の開始時刻と終了時刻のフォーマットはYYYYMMDDHHMMSSSMSです。

14.4 再生

再生をクリックして、**再生**ページに進みます。録画したビデオを見るために、再生種別、明瞭さ、カメラを選択することができます。

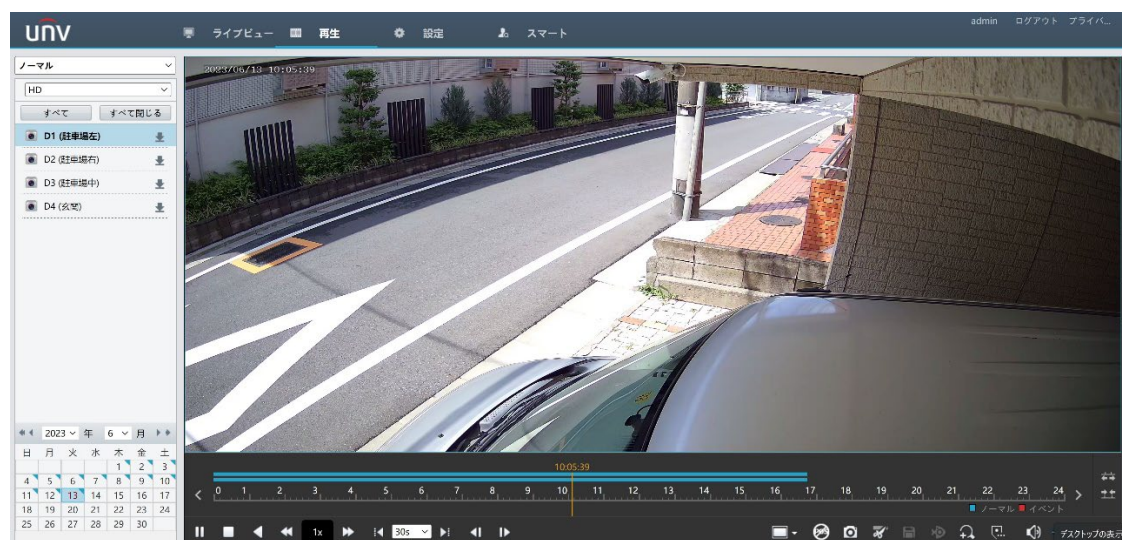


Table 14-2: 再生コントロールボタン

ボタン	説明	ボタン	説明
	再生/一時停止		停止
	逆再生		低速/高速再生
	巻き戻し/巻き戻し30秒。必要に応じて、時間を変更することができます。		フレームごとに早送りまたは巻き戻し
	フルやオリジナルなど、表示比率を設定します		スナップショットを撮影します
	ビデオのクリッピングの開始/停止		ビデオクリップを保存します
	デジタルズームを有効化/無効化します		カスタムタグを追加します
	タイムラインを拡大/縮小します		音量を調整します。音声をオン/オフします
	前/次の期間		

14.5 設定

上部の**設定**をクリックし、関連するパラメータを設定します。

UNV

ライブビュー 再生 設定 スマート

admin ログアウト プライバシー

クライアント システム

基本設定

画面表示

時刻

リマールタイム

休日

セキュリティ

POS

カメラステータス

ハードディスク

アラーム

システム警告

ネットワーク

プラットフォーム

ユーザー

メンテナンス

アップグレード

基本設定

デバイス名 NVR501-04B-P4

デバイスID 1

表示言語 日本語

モデル NVR501-04B-P4

デバイス番号 210235XPWF22C000181

ファームウェアバージョン NVR-B3613.2.19.C06610.221114

ファームウェアリリース日 2022-11-14

バックアップ状況 143 日 1 時間 49 分

保存

14.6 スマート

上部の**スマート**をクリックし、関連するパラメータを設定します。

UNV

ライブビュー 再生 設定 スマート

admin ログアウト プライバシー

VCA設定

インテリジェンスの使用

I VCA設定

カメラ選択 D1 (1号機左)

顔検出

☐ 顔検知

☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析

周辺保護

☐ クロスライン検知 ☐ 侵入検知 ☐ エリア侵入 ☐ エリア退出

☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析 ☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析 ☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析 ☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析

ウルトラモーション検知

☒ ウルトラモーション検知

☒ カメラ側の分析 ☐ NVRサイド分析

その他の検出処理

☐ デフォーカス検知 ☐ シーン変更検知 ☐ 対象物移動 ☐ 置き忘れ

15 付録 よくある質問

問題	原因と対策
ログインパスワードを忘れました。	管理者ログインページで パスワードを忘れました をクリックし、画面上の指示に従ってパスワードを取得します。
Webプラグインを読み込めません。	- インストールが始まったらWebブラウザを閉じます。 - PCで、ファイアウォールを無効にし、アンチウイルスプログラムを閉じます。 - Internet Explorer (IE)で、Webページにアクセスするたびに保存されているページの新規バージョンをチェックするよう設定します (Tools > Internet Options > General > Settings)。 - NVRのIPアドレスを、IEの信頼できるサイトに追加します (Tools > Internet Options > Security)。 - NVRのIPアドレスを、IEの互換性ビューに追加します (Tools > Compatibility View Settings)。 - IEのキャッシュをクリアします。
Webインターフェイスのライブビューに画像が表示されない。	ライブビューウィンドウで、ビットレートが0Mbpsかどうか確認します。 0Mbpsの場合、PCのファイアウォール/アンチウイルスプログラムが無効になっていないかを確認します。 0Mbpsでない場合、PCでグラフィックカードドライバーが正しく動作しているかどうかを確認します。再度ドライバーをインストールしてみます。
カメラがオフラインで、No Linkが表示されている。	メニュー>メンテナンス>システム情報>カメラステータスに進みます。状態に原因が表示されます。よくある原因として、ネットワーク接続解除、ユーザー名またはパスワードの間違い、弱いパスワード、帯域幅不足などが挙げられます。 - ネットワークの接続とその他の設定を確認してください。 - ユーザー名やパスワードが間違っている場合、NVRに設定されているカメラのパスワードではなく、カメラのWebインターフェイスへのアクセス用のパスワードが使用されていないか確認してください。 - パスワードが弱いためにアクセスが拒否された場合、カメラのWebインターフェイスにログインし、強力なパスワードを設定してください。 - 帯域幅が不十分な場合、NVRで他のオンラインIPデバイスを削除してください。
NVRで、一部のカメラではライブビデオが表示されるが、他のカメラではNo Resourceが表示される。	- サブストリームを暗号化するようカメラを設定し、その解像度をD1まで下げます。 - 最初のサブストリームをライブビューに使用するようNVRを設定します。
カメラがオンラインになったりオフラインになったりする。	- ネットワークの接続が安定であるかどうか確認します。 - カメラとNVRのソフトウェアバージョンをアップグレードします。販売店に連絡して最新バージョンを入手してください。
ライブビューは正常だが、録画が見つからない。	- 録画スケジュールが正しく設定されているか確認します。 - NVRに設定されている時刻とタイムゾーンが正しいか確認します。 - 録画を保存するハードディスクが破損していないか確認します。 - 希望の録画が上書きされていないか確認します。
動体検知が作動しない。	- 動体検知が有効で、動体検知エリアが正しく設定されているか確認します。 - 検知感度が正しく設定されているか確認します。 - 警戒スケジュールが正しく設定されているか確認します。

NVRがハードディスクを識別できない。	• NVRに付属の電源アダプターを使用してください。 • NVRの電源を切り、ハードディスクを再度取り付けます。 • 別のディスクスロットを試してみます。 • ディスクとNVRの間に互換性がありません。販売店に連絡して互換性のあるディスク機種のリストを請求してください。
マウスが動作しない。	• NVRに付属しているマウスを使用してください。 • ケーブルを延長していないことを確認します。